関西甲虫研究史

The History of Coleopterology in Kansai

編

日本甲虫学会

大阪市立自然史博物館

表紙写真：セダカテントウダマシ

Bolbomorphus gibbosus GORHAM, 1887

本種は，英国の G. LEWIS が奈良県柏木で採集した標本を基に，新属新種として記載された．体高が高く，上翅に赤色斑紋を具える美しい甲虫である．体長 7.0 – 9.0 mm．紀伊半島固有種．大阪府では岩湧山にも産する．金剛山や奈良県高取山でも採集できるが，紀伊山地の自然がよく保たれた地域では決して珍しい種ではない．成虫は 5 ~ 9 月に出現し，真夏期には個体数が一時減少する．枯木・倒木・薪でみられるが，疎林のたたき網でも採集できる．同属の種は 6 種あり，台湾，中国，そして北ベトナムに分布する．越冬態は成虫．河野 洋氏によって描かれた本種が「昆蟲學評論」誌の表紙を飾っていたことは，多くの読者の記憶に新しい．

はじめに

関西では，戦前から昆虫に魅せられた研究者や愛好家が活発に活動していました．彼らの多くはアマチュアでした．戦争が終わるとただちに本格的な活動を再開し，幾つも昆虫関連の在野の団体や博物館ができました．その中で，近畿甲蟲同好會と蟲の友の會の設立は，後の日本の甲虫研究発展に繋がる非常に重要な出来事でした．両会は共に目的を一にして，数年後に日本甲蟲學會として統合しました．申すまでもなくこの学会が 2010 年に関東の日本鞘翅学会と合併して，今日の日本甲虫学会の誕生に至ったのです．現在の日本甲虫学会設立時の一方の礎である日本甲蟲學會に至る本同好会および旧學會の歴史は，本冊子中で項目を設けて詳述されていますが，その設立と発展には著名な在野研究者や職業研究者が並々ならない努力を要したことがしのばれます．まだ紙の入手さえ困難な戦後まもなくに学会誌としての体裁を整えた会誌の発行を継続し，日本の甲虫学発展に大きく寄与しました．また一般普及書として近畿甲蟲同好會が監修して出版された「原色日本昆虫図鑑（上）」（初版 1954 年，保育社）は，次の世代を担う多くの昆虫少年や学生のバイブルとなり，彼らは憧れの虫の遠い採集地に思いを馳せ，大いに刺激を受けました．

関西にはこれら先人が足しげく通った豊かな昆虫相の地域が多く存在し，昆虫の生態を知り更なる調査技術開発に繋がるとともに，多くの新種も発見されました．不幸にしてそのいくつかは開発の憂き目にあい，良き時代の面影が無くなってしまったのは残念なことです．

2016 年 11 月に日本甲虫学会大会が大阪市立自然史博物館で開催される機会に，多くのアマチュア甲虫研究者を輩出した関西を振り返ってみることにしました．

本冊子が先人のご苦労に思いを馳せ，若き研究者の方々の布石となれば幸いです．

執筆者一同

目　　次

人物編
町人学者 …… 3
関 公一 …… 5
大倉正文 …… 6
中根猛彦 …… 7
林 匡夫 …… 8
伊賀正汎 …… 9
阪口浩平 …… 10
河野 洋 …… 11
後藤光男 …… 12
芝田太一 …… 13
石田 裕 …… 14
ジョージ・ルイスと近畿での足跡 …… 15

組織編
関西昆蟲學會 …… 17
日本甲蟲學會の創成期 …… 18
日本甲蟲學會の歩んだ道 …… 20
大阪甲虫同好会 ……付記：芝田コレクション …… 21
付記：臨南寺 …… 22
関西チビゴミ研究会 …… 23
関西甲虫談話会 …… 24
昆虫団体研究会 …… 25
近畿オサムシ研究グループ …… 26
兵庫昆虫同好会 …… 27
和歌山昆虫研究会 …… 28

施設編
城北昆虫館 …… 29
宝塚昆虫館 …… 30
大阪市立自然科学博物館 …… 31
花園昆虫研究所 …… 32

採集地編
箕 面 …… 33
岩湧山 …… 34
金剛山 …… 35
春日山 …… 36
摩耶山 …… 37
鞍馬・貴船 …… 38
高野山・荒神岳（奥高野） …… 39
巨椋池の歩行虫 ― 小菅謙蔵氏の標本より …… 40

書物編
昆虫採集案内　近畿地方 …… 41
図鑑の保育社 …… 42
Nature Study …… 43

資料編
ジョージ・ルイス採集標本をもとに記載された近畿の甲虫 …… 44
関西の地名が付けられた甲虫 …… 64

人物編

町人学者（元禄から昭和・平成への博物学史概要）

江戸時代（1603–1868）の元禄期（1688–1704）に，大坂は商都として著しく経済発展し，豊かな大坂商人により上方の町人文化が形成され，元禄文化が発達した．文化・文政期（1804–1830）に江戸で町人文化が開花し，大坂は「天下の台所」として繁栄した．財力のある大坂商人は町橋を架けるほどに心意気があり，商業に携わりながらも儒学，蘭学，博物学などの学問を究め，大坂で多くの「町人学者」が現れた．

一方江戸時代は鎖国であったが，外国情報は「長崎出島」から入り，蘭学が盛んになった．「日本誌」を残したケンペル（1690–1692 来日），「日本植物誌」を書いたツュンベリー（1775–1776 来日），日本の動植物を海外に紹介し，多くの医学者，博物学者を指導したシーボルト（1823–1829 来日）らにより西洋の博物学が導入され，奈良時代以来のわが国の本草学は近代博物学へと発展した．

大坂の町人学者は 3 系譜があり，博物学者を中心に紹介する．まずは，京都の石田梅岩（1685–1745）を祖とする「心学」系．町人の意義付けを行う町人学である．大坂商人達は後継者の手島堵庵（1718–1786）を招き，大坂に明誠舎など五舎ができて普及・発展した．

図 1．懐徳堂跡碑（淀屋橋日本生命ビル南側壁面）

次は，初代学主の儒学者・三宅石庵（1665–1730）から始まる「懐徳堂」系．五同志（三星屋武右衛門，舟橋屋四郎右衛門，道明寺屋吉左衛門，備前屋吉兵衛，鴻池又四郎）が 1724 年に設立した私塾「懐徳堂」は，学問を中心におく町人の国学・儒学（朱子学）の学校であった (図 1)．懐徳堂出身の著名な町人学者である富永仲基（1715–1746）は，江戸中期の思想史家で，通称，道明寺屋三郎兵衛．醤油醸造業・漬物屋の山片蟠桃（1748–1821）は，江戸中・後期の町人学者で，本名は長谷川有躬．儒学者，米商人，大名貸の升屋本家の支配番頭であった．天文・地理・法律・経済と多才であり，独創的な大著「夢の代」全 12 巻を著す．中井履軒（1732–1817）は，儒学者で，日本で初めて顕微鏡の構造と記録に関する本をまとめ，人体解剖図を著した．

そして，麻田剛立（1734–1799，天文学者，解剖学・医学）から医師，蘭学者の緒方洪庵（1810–1863）へと続く「適塾」の蘭学系は，日本の近代化を進めた多くの人材を大坂で生み出した．

その他，博物学で特に注目したい人がいる．木村兼葭堂（1736–1802）は，大坂北堀江の造酒屋に生まれ，幼い頃は病弱であったが，絵画，漢詩などに優れた．本名は坪井屋吉右衛門．本業は造酒屋．本草学者，文人，画家，収集家・蔵書家，博物学者で実証主義者

人物

であった (図 2).「山海名産図会」,「本草植物図彙」,「兼葭堂日記」などを著した博学多芸の大収集家であり，兼葭堂の下に多くの人々が集まり，「浪速の知の達人」と言われる．そのほか「和漢三才図会」百五巻をものにした漢方医の寺島良安（生没年不詳），解剖学の各務文献（1755–1819），植物学の畔田翠山（1782–1859）ら医学・博物学の町人学者が知られる．

関西では明治期，貿易商ジョージ・ルイスの神戸を拠点とした甲虫採集に始まり (p. 15)，大正・昭和期に民間人・ナチュラリストにより関西昆蟲學會 (p. 17)，宝塚昆虫館 (p. 30)，箕面公園昆虫館，大阪市立自然科学博物館 (p. 31)，近畿甲蟲同好會，日本甲蟲學會などが設立され (p. 18, 20)，博物学（ここでは甲虫分類学的研究）が受け継がれた．現在のアマチュア研究者・ナチュラリストにも「大坂町人学者」の精神・気風が息づいている．　（安井通宏　記）

図 2．木村兼葭堂像　谷文晁筆

参考文献

有坂隆道，2005.『山片蟠桃と大阪の洋学』238 pp．創元社，大阪市.

朝日新聞社編，1963.『いまに生きる　なにわの人びと』233 pp．朝日新聞社，東京・大阪・北九州・名古屋.

今井修平・村田路人編，2006.『街道の日本史 33　大坂 摂津・河内・和泉』4 Pls. ＋ 259+19 pp．吉川弘文館，東京.

毎日新聞社会部編，1967.『なにわ町人学者』318 pp．所書店，東大阪市・東京.

大阪市立自然史博物館編，2005.『第 34 回特別展　なにわのナチュラリスト ～自然の達人たち～』78 pp．大坂市立自然史博物館，大阪市.

筒井嘉隆，1987.『町人学者の博物誌』254 pp．河出書房新社，東京.

上野益三，1973.『日本博物学史』Pl.1 ＋ x iii ＋ 680 ＋ 73 pp．平凡社，東京.

上野益三，1991.『博物学者列伝』vi ＋ 412 ＋ x pp．八坂書房，東京.

脇田 修，1986.『近世大坂の町と人』268 ＋ 2 Pls. pp．人文書院，京都市.

脇田 修，1994.『近世大坂の経済と文化』236 pp．人文書院，京都市.

矢沢永一編，1983.『なにわ町人学者伝』176 pp．潮出版社，東京.

関 公一 （せき・きんいち）

1912–1970

関 公一氏は大阪市に生まれ，兵庫県を中心に活躍した在野の研究者．幼少時代の短期間は奈良，それ以降は甲子園の鳴尾，結婚後は神戸市東灘区に居を構えた．旧制関西学院より神戸大学経済学部へ． 卒業後に川崎重工業株式会社に就職，後に裕豊紡績株式会社の取締役になる．戦争中から戦後まで甲虫の記載（カミキリムシ）やファウナ，分布等の解明に努めた．特に奈良県春日山原産のカスガキモンカミキリの記載（昆虫界：1935）で有名．戦前の文献にあたると「御影町付近産の甲虫目録」新昆虫 (1934),「奈良春日山の天牛類雑記」関西昆虫雑誌 (1935),「京阪神を中心とした天牛目」昆虫界 (1935),「天牛科甲虫の — 未記録種について —」昆虫界 (1938),「オサムシの冬期採集」採集と飼育 (1939),「兵庫県産天牛科甲虫」昆虫界 (1941),「阪神地方のゲンゴロウ科」昆虫世界 (1945) などがある．また昆虫以外にもひろく自然界に興味を持ち，鳥類の標本も蒐集していた．

戦後も引き続き ,「新日本産天牛科目録」の出版 (1946) や,「屋久島産天牛類の若干種に就いて」松虫 (1949) の投稿がある．前者は終戦直後の物資のない時に B5 判 130 頁で 300 部を自宅に開設していた「関昆虫学研究所」より出版し，その「はしがき」にポツダム宣言受諾で領土が半減するのでと「新生日本のカミキリ目録」出版の意義を語っている．

分布の文献記録という点では，1933 年六甲山からのキベリハムシ日本初記録を報告している（新昆虫：1934）． しかし実際にはそれより 20 年くらい前に採集されたという話もあり，日本への侵入はずいぶん昔にさかのぼるようである．

なお，同氏のほとんどの昆虫と鳥の標本は現在，大阪市立自然史博物館に（寄贈された甲虫コレクション約 8,000 点の半数はカミキリムシ，鳥は 40 点），昆虫の一部は国立科学博物館, また大半の書籍文献類は九州大学に保管されている． （伊藤建夫　記）

人物

大倉 正文　（おおくら・まさふみ）

1915–1995

三重県津市久居に生まれる．尊父の転勤のため小学生で大阪市天王寺区に転宅し，終焉の地神戸市御影まで関西に在住であった．関西学院高等商業学校を卒業後，短期間フエルト会社に勤務し，後に日本産業機械工業会（旧産業機械統制会）に勤務，同工業会関西支部事務局長として退職する．甲虫類での興味は，戸澤信義氏が著した「歩行虫の知識」に感化され，また，当時はオサムシ・ゴミムシブームであり，終生このグループに熱中した．ゴミムシ以外にも1960年代中頃に強壮剤として大流行した九龍虫（キュウリュウゴミムシダマシ）を食パンで大量に飼育したりして，氏の興味の広さが伺える．この九龍虫はその後入手不可能となり，関西の研究者の手許に残る標本は同氏が飼育した個体が殆どである．専門のゴミムシの研究では幾つかの新種記載と「原色日本甲虫図鑑 II」のオサムシ科の一部とホソクビゴミムシ族を執筆担当している．氏の業績中，特筆すべきことは旧日本甲蟲学會を50年にわたって中心となり奔走・運営し，その出版物「昆蟲學評論」を絶やすことなく出版したことであろう．生来の緻密な性格から，写植時代の「昆蟲學評論」の細かい編集・校正作業を根気よくこなしていた姿は，5年余りを共に編集作業に携わった者として忘れがたい．急逝される数日前，甲蟲學會の編集事務を含むすべての業務を託され，「これで全部終わったね」とポツンと言われた言葉が印象的だった．

表舞台に出ることの少なかった氏であるが，縁の下を支える人として，人生の殆どを甲蟲學會に捧げた．他界された折は學會会長の職に在った．その所蔵標本はすべて兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されている．

（安藤清志　記）

中根 猛彦 （なかね・たけひこ）

1920–1999

中根猛彦博士については，ここに改めて述べるまでもなく，すべての甲虫屋が知るところである．戦後の甲虫界は中根博士なくしては語れない．あらゆる甲虫類について卓越した知識と洞察力を持ち，余人の及ぶところではなかった．幼少の頃と青壮年期には大阪，京都に在住し，関西の甲虫屋にはその薫陶を受けた者も多く，彼らに多大の影響を与えた．旧日本甲蟲學會の立ち上げにも深く関わり，関西の甲虫界の隆盛に大いに寄与した．

1920 年，東京に生まれる．幼少の一時期，大阪に在住．1927 年，東京市立青南尋常小学校入学の後，1 年生の 9 月に大阪市立愛日尋常小学校に転校，5 年生終了まで在学した．6 年生は再び，青南小学校に戻った． 1942 年，東京帝国大学理学部生物学科在学のまま名古屋帝国大学理学部助手に任ぜられた．その後，同大学講師を経て 1951 年から西京大学（現在の京都府立大学）農学部助教授に任ぜられる．1965 年，国立科学博物館に転出する．1978 年，鹿児島大学理学部教授に転出，1986 年に定年退官した．

10 代後半からすでに甲虫関連の報文があり，新種の記載を始めたのは 20 代後半になってからのようである．1966 年，「遺伝 20 (1) － (12)」に日本の甲虫類に関する当時の系統解析，研究史，過去から当時に至る研究者の事跡・甲虫学の発展などについての紹介記事を書いている．この中には関西の甲虫研究者の流れも簡単だが紹介している．

1950 年代以降，甲虫類の科別あるいはグループ別の種の解説，図鑑類，新種を含む種の記載，モノグラフ，雑誌の連載，単行本など，膨大な著作物をあらわしている．これらの業績によって，日本の甲虫相の解明が飛躍的に進むことになった．

退官後は宮崎産業経営大学に 3 年余り勤務し，千葉県に転居した後も自由な立場で研究発表をした． （林 靖彦　記）

（著作リストなどについては中根猛彦先生退官記念論文集：1986 年日本鞘翅学会編集を参照のこと）

人物

林 匡夫　（はやし・まさお）

1920–1998

1920 年，大阪に生まれる．少年期から昆虫採集に熱心であったという．大阪府立北野中学（現･北野高校）卒業後, 皇居の儀仗兵をしていたという．その後家業の呉服商を継ぎ，戦後も継続してこれを営んでいた．経済的には厳しい状態であったと聞いているが，時間が比較的自由に使えるので，続けていたのであろう．20 代中ごろから報文を書いており，30 歳ごろから新種記載などを投稿し始めている．1960 年ごろ，気候帯とフローラを関連づけたカミキリムシ類の分布帯を提唱した．これをもとに北海道大学から博士号を授与された．1964 年頃，大阪城南女子短期大学に奉職し，1990 年退職した．旧甲蟲學會会長の大倉氏が急逝したあと，会長に就き，学会発展に大いに寄与した．

大林一夫氏 (p. 18) と並び，第二次世界大戦後の日本のカミキリ分類界の双璧であった．とりわけ 1969 年に出版された「原色日本昆虫生態図鑑　カミキリ編」（小島圭三・林 匡夫共著）は日本中にカミキリブームを惹起した．1960 年代中頃までは日本産カミキリムシについての研究が主体であったが，芝田太一氏とそのグループが，台湾，マレーシア，ボルネオなど南方に遠征し，その結果膨大な資料が集積し，これらを基に東南アジアのカミキリムシに関する多くの研究成果を発表した．また，その後の東南アジア産天牛ブームの先駆けともなった．

主なシリーズには，Studies on Cerambycidae from Japan; Study of *Pidonia*-group; The Cerambycidae of Amami-Oshima Islands; The Cerambycidae of Ryukyu Islands; A monographic study of the Lepturine genus *Pidonia* Mulsant (1863) with special references to the ecological distribution and phylogenetical relations; Studies on Asian Cerambycidae があり，その他図鑑類，解説など多数の著作がある．

（林 靖彦　記）

（著作リスト：1986．大阪城南女子短期大学研究紀要，21: 77–104．に掲載されている）

伊賀 正汎 （いが・まさひろ）
1921–1980

船場生まれの船場育ち．小学校 5 年生のころから昆虫に興味を持ち，休みのたびに箕面の昆虫館に通った．北野中学（現・北野高校）に進んだ頃には虫一筋に．ところが同氏の趣味のコレクションは昆虫以外にも貝類，動物切手，記念たばこ，マッチのレッテル，古銭，それに石など多岐にわたりいずれも極め付きであった．なお，石の蒐集は懇意にしていた喜劇役者の花菱アチャコに奨められて始めたという．

伊賀正汎御夫妻（昭和 33 年）

戦後直ぐに結成された近畿甲蟲同好會の創立同人の一人で，当時の機関誌「近畿甲蟲同好會會報」や「昆蟲學評論」に多くの投稿*が見られる．これらの投稿を見ても判るように甲虫全般にわたっての造詣の深さが垣間みられ，この力量を思う存分発揮したのが保育社の近畿甲蟲同好會編「原色日本昆虫図鑑（上）」(1954) であった．この中の執筆の各科の分担では, 伊賀は中根猛彦 (p. 7) とならび 30 科以上となっている．

これ以降は投稿などの執筆が見受けられなくなる．新聞社の取材に答え (1966)「内科・小児科の父親を観ていて虫を続けるには往診のない歯科医を選んだ」と述べていたが，それもままならぬようになったようである．その取材記事の末尾に，『膨大なコレクションの整理の時間がない．「こどもにあとを引き継いでもらえたら」と思っているが，「だれもやらなければ仕方がない．仕事をやめてから一人で整理をするしかありません」そういうものの「その日が楽しみ」といった伊賀さんの表情だった.』と結ばれていた．

しかしその後伊賀氏の消息を聞くのは 1980 年の末のことで, 59 歳の若さでの急逝であった．日本甲蟲學會は 1981 年の「昆蟲學評論」36 巻 1 号を追悼号とした．それには故人への献名された原著論文も出され，ハムシでは新種小名が，また一番コレクションに拘っていたタマムシには新亜属名が提称された．

創立同人の中でも採集上手であり外国とも標本交換もして，すばらしいコレクションを構築した伊賀氏であるので，『イガ』とつく虫名は多くある．一つだけ挙げるとすればなんといってもイガブチヒゲハナカミキリであろう．このカミキリムシは高野山不動坂ではいまも健在だときく．

なお，伊賀コレクションの一部は大阪市立自然史博物館に所蔵されているが，大部分は今も遺族によって管理･保管されている．（伊藤建夫　記）

*) 四国剣山に於ける吉丁虫相について — 一変種を含む (1947)，*Tritoma amoena* (Solsky, 1871) の分布南限 (1949)，アヤムネビロタマムシの加害植物及びその分布 (1950)，日本産ノコヒゲカッコウ属に就いて (1950)，郭公虫科生活史及び習性に関する知見（予報）(1950) などがある．

人物

阪口 浩平　（さかぐち・こうへい）

1921–1983

実家は兵庫県西宮市にある造り酒屋．1944 年に京都帝国大学理学部動物学科を卒業後，京都大学助手，大阪大学微生物研究所研究生，大手前女子大教授，京都大学医療技術短大部教授などを歴任．理学博士．近畿甲蟲同好會および後継の旧日本甲蟲學會の設立・運営にプロの研究者として尽力．気性は温厚．あらゆるものに対し強い収集癖があった．強度の近視で，牛乳瓶の底のようなレンズの眼鏡をかけていた．晩年は，研究だけでなく子供や一般の方への啓蒙にも力を注ぎ,「世界の昆虫 I-VI」（保育社),「むし－くらしとかいかた」（ひかりのくに社）などの書籍は今なおその輝きを放っている．

ノミの研究で世界的に有名で，そのコレクションは世界に比類を見ないものである．加えて蝶類のコレクションも秀逸である．自宅に標本室を設け，当時としては珍しい空調設備が備わっており，一定温度で 24 時間稼働していた．ちなみに夏に訪問すると訪問者には団扇が振る舞われ，虫と人間の扱いに大きなギャップがあった．昆虫全般にも造詣が深く，甲虫ではハネカクシの研究を進める．これら膨大なコレクションは兵庫県三田市の人と自然の博物館設立の礎となる．甲虫採集・収集範囲はゴミムシ，タマムシ，ゴミムシダマシ，ゾウムシなど甲虫全般に亘り，多くのファミリーの種に *sakagutii* が献名されている．特異なウミミズギワゴミムシ *Sakagutia marina* の属名にもなっている．地中性昆虫として重要なヤツオオズナガゴミムシ *Pterostichus sakagutii* は，その異様に大きな頭部の印象が深かったのか，後年の「世界の昆虫 V」に発見のいきさつが詳しく記されている．

阪口氏の得意なサイン

（伊藤 昇　記）

河野 洋 （こうの・ひろし）

1923–2012

図 1.　晩年の河野氏

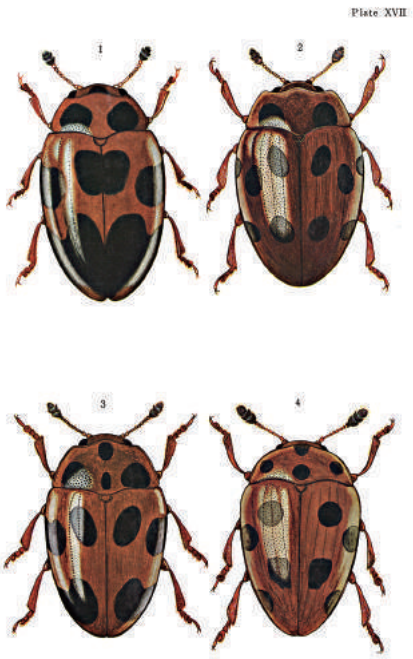


図 2. 日本動物誌オオキノコムシ　第 17 プレート

大阪市東区（現在の中央区）に生まれる．戦時下，天津の中華芸術院にて支那手工芸の研究に携わる．徴兵の後，戦後復員し大阪府衛生部に奉職．氏の興味は昆虫にとどまらず，あらゆる生物や民俗学にまで深い学識を持った博物学者であった (図 1)．キノコや蜘蛛，蟹にも造詣が深く，短報を沢山報告している．世の中の文物に対する興味も絶えず，絵画から装飾工芸品に至るまで蒐集する人であった．初めて千里の私邸に伺った折，玄関に象の脚で作った傘立てが置かれており，驚いた記憶が今も鮮明に残っている．生来の芸術的感性に加えて手先の器用さを武器に，採集用具や標本整理用品の開発に余念がなかった．昆虫は甲虫以外にも珍奇な昆虫類に造詣が深く，特にツノゼミ類の収集には多くの時間を割いたようである．興味深いのは，標本のデータラベルに採集地域の著名な建造物や産物のスケッチが挿入されていた．日本動物誌オオキノコムシ科（中條道夫：1969）に挿入された挿絵のうち，37 種のカラー図は河野氏によって描かれたものである（図 2）．甲虫に関する特筆すべき事項は，1953 年のトカラ十島科学・資源調査（大阪市立自然科学博物館主催）に中根猛彦博士 (p. 7)，上野俊一博士（当時大学院生）らと共に調査に参加していることであろう（トカラ雑記：1957–1960）．

河野は生涯を通じて自身の研究発表をすることはなかったが，その温厚な人柄と合わせて人脈もあり，旧日本甲蟲學會設立当初より，幹事として学会運営に尽力した．氏の所蔵昆虫標本は，すべて兵庫県立人と自然の博物館に収蔵されている．尚，コレクション中の，トゲキリギリス類，オオコオロギなどは「奇妙な形の昆虫」として，一部大阪府立箕面公園昆虫館に寄贈されている，また，収集された蟹類標本は，貝塚市立自然遊学館に収蔵されている．

（安藤清志　記）

人物

後藤 光男　（ごとう・みつお）

1923–1986

大阪市東区（現在の中央区）に生まれる．東亜紡織株式会社に勤務する傍ら昆虫採集に熱中する．戦時下の大陸出征，勤務先での転勤で各地に移動するも昆虫採集は終生継続した．甲虫類の中ではコガネムシ科の食糞甲虫類を愛し，戦後の草分け的な存在である．奈良公園や奥高野山の荒神岳は再三にわたって採集に訪れた．とりわけ荒神岳はまだ伐採が終わっておらず，トゲマグソコガネの群飛を記録するなど，多数の記録を報告している．

フィールドでは，出会った若年の採集者たちにも親切に助言を与えたという．転勤が多かったことで，転勤先で熱心に採集を試み，各地の在野研究者と交流を深め，その地域の甲虫相解明に寄与した．それもあってか，三重で勤務していた頃には三重昆虫談話会の機関誌「ひらくら」の立ち上げに尽力したという．

初心者や若年者に対しては改めて指導の場を設けるようなことはなかったが，自宅や勤務先への訪問はいたって自由に許し，訪れる青少年には丁寧に対応指導をした．当時堺筋本町近くにあった職場に伺い，中学生にかかわらず懇切丁寧な教えを受けた記憶がある．

氏の特筆すべき調査は，堺の自宅ベランダでライトトラップを設け長期にわたって毎晩採集を行ったこと．晩酌を楽しみながらの採集ではなかったろうか．これらの採集記録はきわめて重要なもので，その標本群は堺市の昆虫相解明の基礎となった．氏の甲虫コレクション 66,815 点は現在，大阪市立自然史博物館に保管されている．日本甲蟲學會では設立当時から幹事として氏が得意とする経理事務をこなし，永きにわたり学会に貢献した．手先が器用であった氏は，糞虫の報告文だけではなく標本作成技術やこれに関する資材の作成指導書なども多数執筆している．小型の写植機を自作し，版組をして標本ラベルを作成していた．芝田太一コレクション (p. 21) の初期のラベルは，後藤が手刷りしたものである．

（安藤清志　記）

芝田 太一 （しばた・たいち）

1927–2007

1927 年，大阪に生まれる．幼少のころ病弱であったため，健康増進にと，母親が同行して箕面へ昆虫採集に行っていたという．旧制天王寺中学（現・天王寺高校）卒業後，繊維関係の家業を手伝っていたが，時間に余裕のできた 1953 年ごろから本格的に昆虫採集を始めた．当時は甲虫以外に蝶なども収集していた． 1954 年にかけては春から晩秋までの採集のようだったが，1955 年からは通年で採集を行うようになった．当時，すでに甲虫や蝶に対してかなり豊富な知識をもっていたようであったが，この頃から研究の準備を進めていたものと推察される．また，岩湧山，箕面，能勢・妙見，春日山などに頻繁に採集に出かけ，そのとき出会った昆虫少年に声をかけ，その後採集に誘ったりして採集法の手ほどきなどをした．その後，芝田の指導に魅かれて，彼の周りに集まるようになったメンバーのうち年長者は，直接指導やアドバイスをうけ，年少者を連れて採集指導や遠征などを行い，年少者の両親への対応には芝田自らが当たっていた．この青少年が後日，芝田グループの中心的メンバーとなり，大阪甲虫同好会の立ち上げにあたった．

芝田のおもな遠征先は兵庫県から福島県にわたるが，奈良県を中心とした近畿地方主体であった．本州以外では四国に何度か出かけている．1960，1961 年と 2 回にわたり各 2 か月余の奄美大島遠征では，注目すべき多大な成果を上げ，その後の奄美・琉球ブームを生むこととなった．

芝田が自身の研究を進めるにあたっては，独学で英独仏羅の語学を習得し，多くの分類関係の文献を読破していた．中根猛彦博士 (p. 7) はじめ多くの専門家と交流があったが，特定の研究者と子弟関係を結んでいたことはない．研究分野は多岐にわたっており，ヒゲナガゾウムシを中心にゴミムシダマシ，ゴミムシ，シデムシなどの論文を主として「昆蟲學評論」に発表している．特にゴミムシダマシはヒゲナガゾウムシに劣らず力を入れていた．研究の主眼のヒゲナガゾウムシは，日本と台湾産種について 20 編ほどの論文を発表しているが，マレーシアを中心とした多数の資料を残したまま，視力の衰えに起因して 1988 年を境に筆をおいた．

（林 靖彦　記）

人物

石田 裕 （いしだ・ひろし）

1929–1995

大阪府堺市生まれ．1951 年，京都大学農学部農林生物学科卒業．京都府立西京大学農学部助手，兵庫県立農業短期大学助手，神戸商科大学助手を経て 1988 年定年後嘱託として継続して奉職し，1994 年に退職．

旧日本甲蟲学會の前身である近畿甲蟲同好會時代の 1960 年より，幹事として会の運営に携わる．特に英語力と緻密さから，「昆蟲學評論」への投稿論文の英語校閲を全面的に引き受けた．その永きにわたる功績は計り知れない．

氏の甲虫関係の専門は，ナガゴミムシ *Pterostichus* の分類である．イタリアの Straneo 氏が日本のナガゴミムシ研究の先鞭をつけた後を引き継ぐ形で，田中和夫・中根猛彦 (p. 7)・土生昶申各氏らと共に互いに影響を与えつつ精力的に研究を続け，日本のナガゴミムシ研究黄金時代を作った．また近畿・四国など西日本のナガゴミムシ研究をほぼ一手に手掛け，その成果は西日本のナガゴミムシ研究の原点でありその功績は大きい．

1995 年の阪神淡路大震災直後被災者名が新聞に掲載され，そこに氏の名前を見つけた時には言葉を失った．まだまだ研究が期待される時の出来事であり，誠に残念な思いであった．氏は芝田太一 (p. 13)，大倉正文 (p. 6)，河野 洋 (p. 11) の諸氏などと共に郵趣会に入会する熱心な切手蒐集家であった．これらの膨大なコレクションは甲虫コレクションと共に家屋の倒壊で散逸したが，模式標本は大倉が保管していたため，現在は兵庫県立人と自然の博物館で保管されている．

（伊藤 昇　記）

ジョージ・ルイスと近畿での足跡

日本の甲虫学に大きな足跡を残した英国人甲虫研究家ジョージ・ルイス氏 (George Lewis, 1839–1926) の名は，多くの甲虫採集家によく知られている．彼は 1839 年 8 月 15 日牧師の子としてロンドン近郊のブラックヘッドに生まれ，1926 年 9 月 5 日ケント州フォークストーンで他界した，享年 87 歳．温厚で思慮深い性格であったという．子供がいなかったため，一族の子孫は判明していない．自ら設立した茶の貿易商として 22 歳で中国に渡ったが，日本には 1867–1872 年と 1880–1881 年の二度にわたり来日した．一度目の来日では詳細な記録は残されていないが，二度目の来日記録はアマゾンの博物学者として知られたヘンリー・ウオルター・ベーツがまとめたルイスの採集記録がある（Henry Walter Bates, 1883）．この資料では日本産のオサムシ，ゴミムシのリストと共にルイスの詳細な旅程が掲載され，これに添付された日本地図には彼が辿った足跡を明記している．ルイスは横浜を基地として日本全国の昆虫を採集した．甲虫を中心とした多くの標本と新知見を母国に持ち帰り，その研究を多数の著名な研究者に委ねた．彼自身もエンマムシ科や異節群を好み，自ら多数の論文を発表した．ジョージ・ルイスの日本での採集旅行やその業績については既に江崎（1953. 1956），草間（1971）などが詳細に解説を行っている．

ここではルイスの近畿での足跡を辿ってみる．ルイスの二度目の来日は妻ジュリアも同伴していた．1881 年 6 月 4 日, 長崎から蒸気船を利用して下関経由で神戸に入る．摩耶山，兵庫，神戸，湊川，三ノ宮と採集を行いながら上洛し，6 月 10 日に入洛している．京都では Arthur H. Crow（1882）がその著書で，円山公園内の也阿弥ホテルに宿泊したルイス一行との出会いを述べている．その記述ではイトーと言う通辞を同行していた．このイトーはイザベラ・バード（Isabella L. Bird, 1831–1904）の「日本奥地紀行」に同行していたイトーであり，横浜の伊藤鶴吉（1858–1913）を示す（久末，2014）．クロウの著書には同行した採集人の記述は見られないが，河内（Kawachi または Kawatchi）が正基準産地であるノグチアオゴミムシ *Callistomimus noguchii* Bates では学名の由来を “Names after Noguchi, Mr. Lewis’s meritorious Japanese collector” と述べている．このゴミムシは一度目の来日時に得られた種であるが，二度目の来日時に同行した採集人は不明である．ちなみに “Noguchi” は通辞でもあったノグチゲラで有名な野口源之助（1844–??）であろうと言われている（加藤，2006）．またルイスの北海道での採集に同行した採集人は，前掲の伊藤鶴吉通辞とともに当時，札幌農学校の二期生であった足立元太郎であると言われている．

京都に宿泊したルイス夫妻一行は旧街道沿いに南下し，巨椋池を経て大和に至る．当時の巨椋池は，多くを埋め立てられた現在に比べて非常に大きな池で，かなり多くの甲虫を記録している．採集も好結果が出たようで，復路でも再訪し丸 1 日を費やしている．日程表からすると夫人同行にもかかわらずかなりの速度で移動しているので，当時の人の健脚を勘案しても，採集ポイント以外は人力車などを利用して移動したと考えられる．大和からは八木，高取，明日香地域を経て上市まで辿り，柏木を基地にして大台ヶ原，大峰や新宮に向かう道を探索している．柏木は彼の記録の中でしばしば出会う地名である．ベーツ

が記録した路程表の中で，今も不明な地名は柏木周辺で記述されている Ikenchaiya (一軒茶屋？) である．筆者はかなり調べ，現地にも当たってみたが，この地名は古文書にも見当たらない．

7 月 1 日に京都に戻った一行は大津で 1 日を過ごし，その後は大阪の近辺で 3 日間採集を行っている．西洋人が多数住む環境で便利さからか，神戸では 10 日間滞在し，7 月 20 日の大津，米原を最後に近畿圏から去っている．

これまでの報告と重複するが，ベーツが報告したルイスの旅程のうち，近畿の部分を抜粋しておく． また，二度の来日で得られた標本のうち，近畿地域の採集標本をもとに新種記載された主な甲虫を別項をもうけて添付した．この中で, 兵庫 (Hiogo) 近辺のタイプローカリティーが多いのは，当時の異邦人にとって住環境が整っていたため，二度の来日時とも長期に滞在し, 採集を行ったためと考えられる．（安藤清志　記）

1881 年

5 月 22 日 ~6 月 3 日　Nagasaki 長崎

6 月 4~5 日　Steamer to Kobe，via Shimonoseki 汽船にて下関経由神戸へ

6 月 6~9 日　Kobe 神戸 (Hiogo 兵庫，Minatogawa 湊川，Sannomiya 三ノ宮，Maiyasan 摩耶山)

6 月 10~12 日 Kioto 京都

6 月 13 日　Through Nara 奈良；crossing Yodogawa 淀川 and Lake of Ogura 巨椋池，to Nikaido 二階堂，in Yamato 大和

6 月 14 日　Left Nikaido 二階堂を去る，passing Yani 八木？ and Tosanomachi 土佐町（＝高取町）to Natsumemura 菜摘村 and Kamiichi 上市

6 月 15~24 日　Kashiwagi 柏木 (Omine 大峰 ; Nishimura 西村，Odaigahara 大台ヶ原，Ikenchaiya 一軒茶屋，and main road to Shingu 新宮へ至る街道）

6 月 25 日 ~7 月 1 日　Nara 奈良

7 月 1 日　Ogura Lake 巨椋池

7 月 2~4 日　Kioto 京都

7 月 5 日　Otsu 大津 (Biwa Lake 琵琶湖)

7 月 6~8 日　Osaka 大阪 (Tsumiyoshi 住吉，Sakai 堺)

7 月 9~19 日 Kobe 神戸

7 月 20 日　Otsu 大津 (Mayebara 米原，Samegai 醒ヶ井)

参考文献

江崎悌三，1953．『外国人による九州の昆虫採集』．新昆虫 **6**(3): 2–7.

江崎悌三，1956．『日本昆蟲学史話 (3) 蟲愛ずる異人さん』．昆虫 **24**(1): 51–65.

加藤 克，2006.『ブラキストン「標本」史』．北海道大学学位論文所収：207 pp.

草間慶一，1971.『ジョージ・ルイスの足跡について』．上．月刊むし (8): 18–23.

久末進一，2014.『「イトウ」と「ルイス」～イザベラ・バードの旅の世界に寄せて～』．北海道大学総合博物館ボランティアニュース，32: 7–10.

Bird, L. I., 1880. Unbeaten Tracks in Japan: An Account of Travels in the Interior, Including Visits to the Aborigines of Yezo and the Shrines of Nikkô and Isé, With map and illustrations. London: John Murray. 2 vols. (Vol. 1: i–xxiii+398 pp.; Vol. 2: i–x+383 pp.)

Crow, A. H., 1882. Highways and byeways in Japan: The experiences of two pedestrian tourists. London: Sampson Low, Marston, Searle, and Rivington: i–ix+307 pp.

組織編

関西昆蟲學會

現在の日本昆虫学会の前身，東京昆蟲學會は 1917 年に佐々木忠次郎（東大教授 [当時]），三宅恒方ら，当時の昆虫学の権威者によって創立されたが，それよりも前に実は京都で，日本初の会員投稿による昆虫学専門誌「昆蟲學雜誌」が創刊されている（1915 年）．中心となったのは当時まだ 20 歳代の芝川又之助氏，野平安芸雄氏らである．実績も権威も何もない，虫好きの若者たちだっただろう．関西の町人文化の力量の高さと魂の強さを感じる．

メンバーのひとりで，後に九州大学昆虫学教室・初代教授となった江崎悌三博士（創刊当時は旧制北野中学に在学中の 16 歳の学徒）が，この時の経緯について詳しく書き残している（江崎，1933）．

1930 年には関西昆蟲學會が寺西 暢氏，矢野由雄氏らによって設立され，「関西昆蟲學會會報」（1930~50 年）と「関西昆蟲雜誌」（1933~39 年）が発刊された．神谷一男，福貴正三，三輪勇四郎らによる甲虫類の投稿が見られる．

甲虫専門の組織，近畿甲蟲同好會が戦後すぐに発足したのは，関西にこのような町人文化に基づいた大きな礎が，脈々と受け継がれてきたからであるのは間違いないだろう．

（初宿成彦　記）

参考文献

江崎悌三，1933. 京都「昆蟲學雜誌」発行当時の秘話．関西昆蟲雜誌 1(1): 19–31.

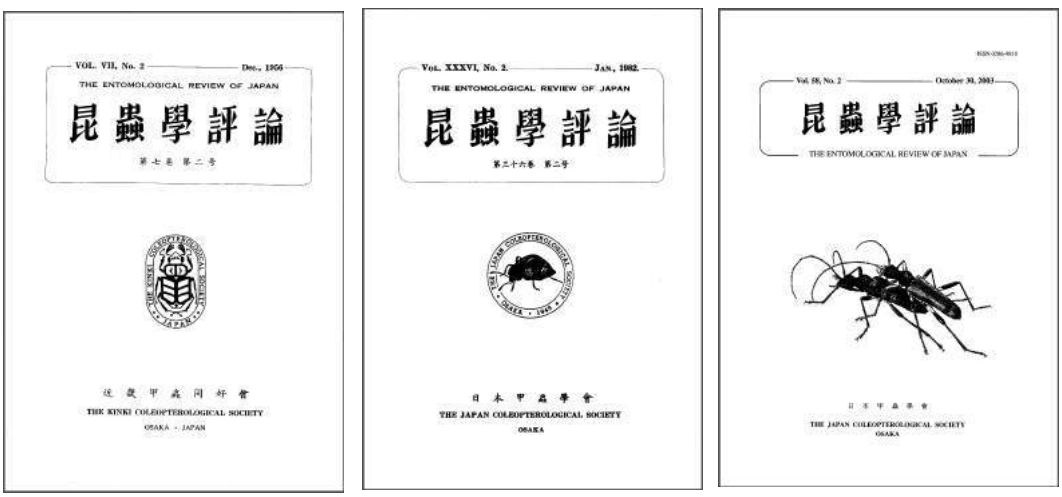
組織

日本甲蟲學會の創成期

日本の敗北により大戦が終結してまもなく，混迷の著しい中，岐阜在住の大林一夫氏は1通の書状を大阪の林 匡夫氏 (p. 8) に送った．大林は一時，関西の寺西 暢氏宅に寄寓していたこともあり，関西の虫屋との交流があった．その書状は，平和な時代を迎えてこれから大いに昆虫の研究を行い，研究発表の場としての雑誌発行を促す文面であった．この提案は紆余曲折を経て，2年後の1948年4月「蟲の友の會」の出版物「昆蟲學評論」として実を結んだ．一方，当時甲虫のメッカであった関西では，城北公園昆虫館 (p. 29) の「植物と昆蟲の會」から甲蟲部會を経て，大倉正文 (p. 6)，後藤光男 (p. 12)，伊賀正汎 (p. 9)，河野洋 (p. 11) 各氏らによって近畿甲蟲同好會が創立され，その会報が，1946年1月にはやばやと創刊されていた．「昆蟲學評論」も「近畿甲蟲同好會會報」も共に創刊号の出版には苦労がつきなかった．印刷用紙も入手困難な時節であり，大倉は配給の粗悪紙を集めてこれに当て，大林は当時勤務していた毎日新聞社の社用紙を流用したと聞く．戦後の混乱期を切り抜けた先人の昆虫への情熱を垣間見ることが出来る．

その後，両同好会が話し合いを継続し，近畿甲蟲同好會の名の下に合併の運びとなった．「昆蟲學評論」は1巻2号（1949年11月），「近畿甲蟲同好會會報」は4巻2号（1949年8月）で終刊し，會報の発行番号を引き継いだ形で1950年に「昆蟲學評論」5巻1号が出版された．さらに1960年10月の年次大会で会名の変更が承認され，2ヶ月後に出版された「昆蟲學評論」12巻1号より「日本甲蟲學會」の会名が公にされ，今日に至っている．

ここで大林一夫（1915–1967）に少し触れておく必要がある．近畿在住ではなかったが，今日の甲虫学会に至る端緒となり，また，設立当初より幹事として多くの啓蒙活動に従事した．好評を得た「日本産天牛類の研究史」など，研究論文を多数投稿している．また，自身の研究も，アマチュアでありながら世界的なカミキリムシ科の研究者でもあった．図鑑の執筆や，海外学術雑誌への投稿など枚挙にいとまがなく，当時の研究者としては突出していた．氏は岡山市大字野田屋町に大林幸一・ちわ (千輪) 夫妻の三男として生まれ，尾道市で幼少期を過ごす．県立尾道中学校に入学し，松村松年門下の三羽ガラスとして知



旧日本甲蟲學會機関誌「昆蟲學評論」，表紙の変遷

大林 一夫氏（昭和 22~23 年頃）

られる岡本半次郎博士に師事する．1933 年台湾へ渡島し台北高等学校を受験するも不合格となり，昆虫採集をして帰ったという豪傑である．翌年に鳥取農業学校（現・鳥取大学農学部）へ入学したが，1 年後家業が傾き自主退学を余儀なくされた．やがて単身大阪に出奔して，寺西 暢宅に一時期寄寓しながら多くの関西の虫屋と交流している．その後，同氏の紹介で 1936 年に東京農業大学研究補佐となるが，1 年半で退職．横浜にあった米国農務省昆虫及植物検疫局で Japanese beetle の天敵調査に携わり，朝鮮半島へ天敵探索にも出かけているが，戦局の悪化で検疫局が閉鎖．平山昆虫博物館嘱託として台湾及び紅頭嶼の昆虫調査から帰った直後，陸軍より招集を受ける．陸軍を病気除隊後，半年ほど岐阜の名和昆虫研究所技師として勤務したが，米国の役所に勤めていたと言う理由で，特高警察に尾行されるのが嫌で毎日新聞社に入社したという．その後は新聞記者として，カミキリムシの研究を続けながら夭逝される数週間前まで勤続された．氏のご長男は，同じくカミキリムシの研究で著名な大林延夫博士である．(安藤清志　記)

日本甲蟲學會の歩んだ道

旧日本甲蟲學會の創成期のころについては別項で述べられているので，世代交代を考えて，編集や運営体制の刷新を進めだした前後から鞘翅学会との合併までの経緯などを簡略に述べる．

1950年代中ごろまで学会の活動（会誌発行, 例会などの活動）は比較的順調であったが，その後会誌「昆蟲學評論」の発行が徐々に遅れだした．遅れを取り戻すために24巻から35巻まで2号を合巻で発行している．30巻ごろからは投稿も増え，巻数と暦年のずれが解消されたので，36巻から1, 2号分冊に戻った（1981）．1980年代後半になって，印刷費の高騰により学会誌の印刷が学会会計を圧迫するようになってきた．また，学会幹事の高齢化が進み，持続的な維持，運営が困難になりつつあると考え，運営体制の若返りとして，時の会長・大倉正文氏 (p. 6) の要請を受け，1990年，安藤清志，野村英世の2氏が新たに幹事に加えられた．野村は会計の補佐として，安藤は編集方針の転換を進言し，編集をPC導入によるDTPを行う準備を進めた．しかし，1995年に阪神大震災が発生し，大倉会長のご自宅も全壊となり，しかも同年8月に急逝されたため，学会の存続が危機的状況になった．そこで直ちに林 匡夫氏 (p. 8) を会長に立て，学会本部を大阪市立自然史博物館に移し，野村英世，安藤清志，林 靖彦，初宿成彦，伊藤建夫，谷角素彦，水野弘造（後年，保科英人氏も）の諸氏が運営，編集，経営を分担して進めることとなった．

編集へのDTP導入は印刷経費の大幅な軽減を生んだ（ページ当たりの経費は約1/3になった）．50巻のDTPによる編集は安藤主導で行われ，林 靖彦にアシスタントとして協力を依頼した．学会誌の誌面もA5判からB5判に変え，51巻から安藤作成の下地，指導の下に林がDTPを担うことになった．その後，安藤は林会長との学会運営方針の相違から幹事を退任する．

全経理を見ていた大倉前会長が他界し，経理状態を再確認したところ，多額の赤字をかかえ，その殆どを前会長が補填していたことが判明した．そこで会費未納会員の復会を促し，新規会員の獲得を目指して，和文誌「ねじればね」の充実を図ることにした．幸か不幸か，阪神大震災の混乱で，1995年以降学会誌への投稿が減少し，印刷経費の負担が軽減された状態を維持した．これに加えて会員が順調に増加したことが幸いし，3年ほどで赤字分を大倉家ご遺族に返済できた．

1998年（53巻）ごろからは投稿原稿も順調に増加し，「ねじればね」ともども順調に発行できるようになり，経営も安定期に入った．新体制で運営が軌道に乗ったところで，林会長が他界し，新たに福井大学の佐々治寛之教授を会長に，編集委員長に九州大学名誉教授の森本 桂博士を迎え，さらなる発展をはかった．この頃には安藤が復帰し，DTP作業を担当した．

2006年，佐々治会長の急逝により再び体制づくりをする必要に迫られ，愛媛大学農学部の大林延夫教授が会長に就任した．

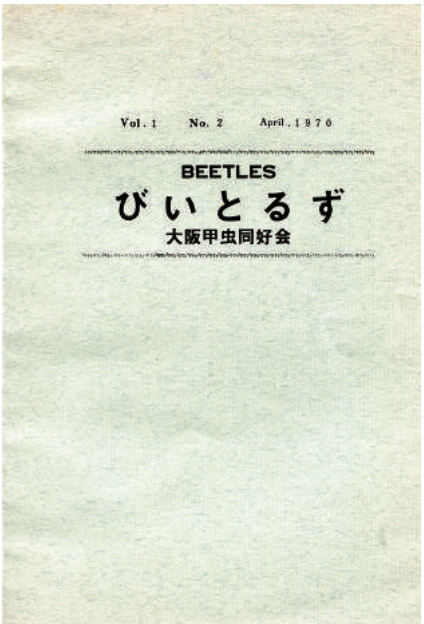
21世紀に入り，学会の運営は順調となったが，運営委員の高齢化が進み，後継者の育成に迫られた．若干の候補者に当たったが，各人の本業との時間的配分が困難で計画は挫折した．近い将来に学会誌を発行できなくなる懸念が，絵空事ではなくなりつつあった．危機感を感じた幹事の1人は大林会長と話し合い，これまで何度か打診を受けた日本鞘翅学会に，今回は大阪側から打診を試みた．東京側からの好意的な回答を得て，運営会議でこれを公表し，各幹事の承認の基，大林会長が鞘翅学会との交渉にあたった．

2010年1月に合併の運びとなり，新甲虫学会が活動をはじめ，順調に経過している．

（林 靖彦　記）

大阪甲虫同好会

大阪の甲虫研究家．芝田太一氏 (p. 13) は自分の研究を進めるとともに，自分の周りに集まっている甲虫好きの少年や青年を組織して 1968 年大阪甲虫同好会を立ち上げた．それ以前にも，1962 年頃から学生を中心に新大阪甲虫同好会，地域性の強い南大阪甲虫同好会など立ち上げていたが，会員が長じるとともに大阪甲虫同好会に集約されていった．会の活動方針としては，全員が参加できる調査・研究活動を主眼としていた．その成果を発表する手立てとして，会誌「びいとるず」を創刊した．調査は一つのテーマに対して，原則通年して行われたが，完璧なデータを求めたために，その後数回行われた調査結果は，天候不順などで調査ができないことが 1 回でもあれば，データの整理解析が行われなかったので，一部を除いて未発表のままとなっている．また，1970 年頃から，台湾などへの遠征を始めた．すでに社会人になった会員が中心になり，年に複数回の海外遠征に資金援助を行った．この事業は 20 年余り続けられた．遠征の採集品は，各会員が分担して整理し，同定できるものは会内でおこない，不明種は各科の専門家に依頼した．



会誌「びいとるず」

1966 年ごろに，研究活動をして，記載を希望する会員が現れ，この要請に応じて芝田氏が指導を始めた．その後次々と研究希望者が出てきたので，’70 年代中ごろからは研究希望会員を集め，年余に亘る勉強会を開き，記載のノウハウ，用語，実技，添削指導などを，芝田を講師に，またメンバー同士での討論会形式の勉強会，特別講師として上野俊一博士の講義をお願いしたりした．この中から，国際的にも非常に評価の高い安藤清志（ゴミムシダマシ）をはじめ，伊藤建夫（ハネカクシ），伊藤 昇（ゴミムシ），林 靖彦（ハネカクシ），清山好美（ハナノミ），木村史明（デオキノコ），前田洋一（コメツキモドキ），中北 隆（ゴミムシダマシ），宮田博史（ゴミムシダマシ）などの諸氏を輩出した．活動の中心が研究者中心のように見えるが，会の活動は研究する会員もしない会員も全く平等な立場で楽しんで集まっている．

芝田の指導は厳しく，学問としての理想は高く，その指導に追従するのは困難を極めたが，皆粘り強く指導に従い，長い学習期間を経て研究・記載が可能になった．同好会はその後も芝田を中心に，また芝田亡き後も，植田謙一を代表として例会を年数回開きながら継続している．

（林 靖彦　記）

付記：芝田コレクション

芝田コレクションの形成過程・内容は他の著名なコレクションとは少し異なっている．コレクションはあらゆる甲虫類を包含し，大半は大阪甲虫同好会のメンバーが遠征など行って採集してきたものであるが，芝田太一氏自身の採集標本がその基礎になっている．芝田は多くの甲虫の大家や専門家との交流を通じて，まとまったコレクションの重要性を強く認識していた．そこでま

ず，普通種，珍品を問わずできるだけ多くの種類・個体数を集め，科別，種別に分けて整理・保存した．それは，珍品だけが抜かれて散逸することを防ぎ，その科の全体像が分かるように配慮し，正しい同定をしてもらうため，研究者がその科の全体を合理的に調べられるようにした．

コレクションは年々集積され，個人の保管能力をはるかに超える状態になったので，二つの部分に分けられた．一つは基礎的コレクション（タイプ含む全種）のみ芝田宅に保管され，残る大多数の標本は芝田コレクションの一部として同好会会員に配分され，保管された．会員で研究を行うものには，その会員が研究する科の甲虫を種数・量共に多く配分され，未記載種についても優先的に配分された．これらの標本は会員個人所有となるものではなく，従って，保管者が交換などに自由に処分することは許されなかった（1990年代半ばになり保管者の所有とする旨宣言され，標本の取り扱いは保管者の自由意思に任されることとなった）．この基本標本は大阪甲虫同好会の数人の会員によって保管維持されている．訪問する研究者に対しては自由に閲覧を認めている．

芝田コレクション中，ホロタイプと一部のパラタイプは大阪市立自然史博物館に寄託されている．

（林 靖彦　記）

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

付記：臨南寺

臨南寺は，大阪市南部の東住吉区にある大阪市立自然史博物館の西側に位置する．かつては昼間でも薄暗い照葉樹林に覆われ，また周囲はクヌギなどの落葉樹と畑に囲まれ，夥しいバッタがいた．カエル・ザリガニの池が点在している競馬場跡の草原が東側にあった．この森は都会の中にして太古そのままで，良い採集地であり危険な場所もなく徒歩で行けた人も多かったので，大阪市南部の昆虫少年はこぞって出かけて採集技術を磨く格好の練習場であった．

採れた甲虫を列挙するとキリがないが，マイマイカブリ，オオゴミムシ，キクビアオアトキリゴミムシ，モモブトシデムシ，オオハネカクシ，センチコガネ，チビエンマコガネ，コブマルエンマコガネ，コクワガタ，チビクワガタ，カブトムシ，オオニジゴミムシダマシ，モンキゴミムシダマシ，ユミアシゴミムシダマシ，ノコギリカミキリ，コバネカミキリ，キマダラカミキリ，ミヤマカミキリ，シロスジカミキリ，クワカミキリ，ヨツスジハナカミキリ，テツイロヒメカミキリ，リンゴカミキリなど，完全な平地ながら中には山地で見られる種も多数採集できた．

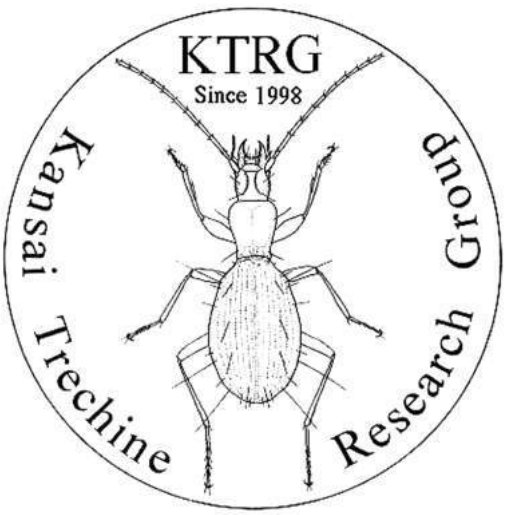
その後高度経済成長に伴い，競馬場は整備されてスタジアムや博物館がつくられ，周囲の畑や荒れ地は住宅やテニスコートになり，臨南寺の森自体も綺麗に間伐され当時の状況は一変し明るく乾燥した森になり，かつての好採集地は見る影もない．競馬場跡の池の一つは今でも植物園に残されている．

保育社の「原色昆虫図鑑 (上)」（初版 1954 年）に掲載されているオオシロカミキリの標本データは “1940.8 大阪市田辺 ” となっているが，恐らくは臨南寺で採集されたものであろうと推測される．半世紀ほど前までは，現在の北田辺から長居にかけての広い地域はデータラベルに田辺（TANABE）と記述すべしと先輩から指導を受けた．田辺に該当する地域で最も可能性が大きい森であった．

（伊藤 昇　記）

関西チビゴミ研究会（KTRG：Kansai Trechine Research Group）

チビゴミムシの多くは地中で繁栄している甲虫であり，その殆どは後翅と眼が退化し移動能力が限定的で，狭い日本列島で複雑な種分化をしている．図鑑には洞窟や地中から採集という記述が多く，普通の甲虫研究家は採集法すら想像できない甲虫であった．



京大 (当時) の芦田 久氏は 1989 年に京都北山で *Trechiama* を偶然採集したのを端緒に，鎌田邦彦氏と共に京都周辺のみならず四国・九州まで活動域を広げ，洞窟探索も積極的に行った．その成果は 1997 年に「京都府付近の *Trechiama* 属についての知見」として『北九州の昆蟲』に発表．同年には強力メンバーとして北山健司氏が参加．北山の成果を関西甲虫談話会で聞いた有志 6 名が同年 10 月 26 日に箕面採集会を実施．初めてチビゴミ採集を体験するメンバーも多く，チビゴミ研究拡大の記念日といえるイベントであった．さらに 1998 年 6 月の和佐又山での学会採集会で芦田らはチビゴミの世界的権威・上野俊一博士と初対面し，その後の研究が大きく前進する契機となった．

1998 年 8 月には正式に KTRG 結成会を開催．芦田による HP も開設され，その後の活動としては，同年 11 月には芦田が *Trechiama* 2 種 (*T. yoro*, *T. ruri*) を初記載，1999 年 1 月には「チビゴミニュース」創刊，芦田発見の *Kusumia* を同年 5 月に上野博士が KTRG 仲間に因んで *K. amicorum*（友人 *amico* ＋複数形 *orum*）として記載，新国際単位「オクダ*」制定などがあり，研究成果が急加速していく．その結果，関西を中心に採集・研究活動をする過程でメンバーにより未記載種を含めて 30 種を超える新種発見及び既知種の新産地など大きな研究成果をあげることができた．「ニュース」は芦田の 2000 年 8 月の渡米により休刊となったが，メンバーの活動は今も継続している．

チビゴミ採集は，近年では地中トラップが考案され大きな実績を上げているが，多くは林内の薄暗い沢筋で生息域である地中を掘り進むことになる．一般的な昆虫採集と異なり地中性の虫は天候に左右されないため，雨天決行である．地中から突然猛スピードで走り出てくる琥珀色のチビゴミに驚かされるが，終日苦労して鉱脈ならぬ「虫脈」を当てた時の感激はひとしおである．数ミリの虫ながらも顕微鏡で観察する容姿は格調高い．

KTRG という手探りで始めた関西発信のチビゴミ研究が，いまや全国に広がり若手研究者も輩出していることは喜ばしい限りである．（奥田好秀　記）

＊）1 オクダ (Okuda) ＝メンバー最速で掘る筆者が 1 時間に掘る土砂量．ちなみに主要メンバーの仕事量は，齋藤琢巳氏:1 オクダ，北山氏:0.8 オクダ，芦田氏:0.7 オクダという具合．

組織

関西甲虫談話会（1981. 6. 24 ~）

同会は全国的なカミキリムシブームのなか，1981 年に関西のカミキリ屋有志，水野弘造・常喜 豊・岩田隆太郎・吉川文弘各氏らの発起で発足．会場は阪急梅田駅高架下の喫茶 “ ブレーブス ” で司会は水野，毎月第二，第四水曜日の開催で始まった．当初の名称は「関西カミキリサロン」，1988 年から現在の名称になる．会則では趣旨は甲虫を趣味とする者の親睦と物品・標本・情報の相互交換のためのスペース．また標本や採集用具等の販売行為もこれを妨げない．会員制をとらず自由参加とするとなっている．

会場は店の都合で “ ブレーブス ” の後 “ 田園 ”，“ ブラジル ”，“ 彩珈楼 ” そして現在は “ プロント ” と変遷したが，いみじくも現在の店の場所は，最初の ” ブレーブス ” とほとんど同じ場所で元に戻って来たことになる．1986 年に阪急電車（阪急電鉄）の車両内に大きなポスターで会員の集合写真とともに同会が紹介されたこともあった．また話題もカミキリ中心から種々雑甲虫に移り，一時期はチビゴミムシに集中したことなど，移り変わりもいろいろであるが，なによりも 35 年間ほとんど休むことなく開催され，いまや通算 840 回を越え，しかも毎回十数人の参加で賑やかにそして楽しく続いていることが特筆される．

なお同会は相互親睦が目的で会誌の発行を意図していなかったが，不定期ながら 20 冊もの「関西甲虫談話会資料」を公表してきた．第 1 号は「奈良公園の甲虫」が 1991 年，それ以降第 20 号の「北山 昭 追悼文集」が 2003 年とこの間かなりの頻度で出されたが，その後はしばらく発行されていない．出版には本会の趣旨に合致した甲虫に関する内容に限るとか著者は本会に参加した者に限るなどの制約はあるものの誰にでも発表の機会が保証されている．

（伊藤建夫　記）

左：阪急電鉄車内広告，若き日の採集名人 田中 勇氏；右下：同広告，会員写真；右上：談話会刊行物

昆虫団体研究会 1956~1973

1955 年 8 月, 徳島県にて溝口 修, 日浦 勇両氏らの発起で「徳島昆虫団体研究会」が発足. 同年 9 月, 年 4 回を目途に会報「昆虫科学」第 1 号が発行された. 1956 年, 会の名称を「昆虫団体研究会」とし本部を大阪に置き, 徳島支部を発足させた. 1963 年 8 月会報「昆虫科学」第 13 号を発行し, 以降は休刊となる.

昆虫団体研究会の中に, 1957 年オサムシグループ（世話人：神吉弘視氏）が生まれ, 例会を開きオサムシに関する情報交換や採集会を行っていた. 1960 年に 溝口 修・神吉弘視が四国産オサムシ 2 種（アワオサムシ *Apotomopterus kawanoi*, ケンザンクロナガオサムシ *Carabus* (*Leptocarabus*) *hiurai*）を 1960 年 11 月「昆虫科学 11 号」に発表した（タイプ標本は後に大阪市立自然史博物館に寄贈).

この時期には中根猛彦博士 (p. 7) の雄ゲニタリアの骨片（交尾片）による日本オサムシの分類体系（「日本昆虫分類図説 2・3 鞘翅目・オサムシ科」1962 年 6 月）が発表されたこともあり, 第一次オサムシブームが全国的に到来した. オサムシグループも活動が活発化し, 連絡誌「オサム誌」は 1961 年の 0 号から 23 号までが発刊された. 特に 1961 年 11 月に「分布特集号」(B5 判, pp. 43）が発刊され, その中で溝口 修・神吉正雄・日浦 勇が生物地理学的な視野から日本のオサムシの分布形成等を熱く論じあっている.

グループ員の研究意欲も高まり, 個人研究として先の新種発表の他に神吉正雄による雌交尾器のキチン化した部分（当時「雌杯」と仮称）での分類が可能であることを 1963 年 8 月「昆虫科学 13 号」に発表した（後に石川良輔博士が「オサムシを分ける錠と鍵」で雌の分類基準についての先行研究として紹介). 他に, 神吉弘視氏などの退化した後翅による分類の研究や, 和田谷 恒氏によるオオオサムシの交尾行動に関する観察記録など興味深いものがあった. これらの研究の多くは高校生・大学生の研究成果であるが, これは日浦勇氏の生徒・学生への丁寧な指導の賜である.

なお本部とは別に南海上町線阿倍野停留所の近くに溝口の経営する店（会の代理部）があり, 展翅した蝶や甲虫が常時展示されていた. またステンレス製昆虫針, 標本箱その他志賀製採集用品などがいつでも入手できた.

一方, 昆虫団体研究会徳島支部は 1957 年 10 月に支部会報「とくしま虫の国」1 巻 1 号を発行, 1966 年 11 月の 8 巻 1 号以降休刊となる. 1973 年には休会状態にあった「徳島虫の会」と合併して新たに「徳島昆虫同好会」を発足し, 会報「徳島昆虫」を創刊した.

（神吉正雄・伊藤建夫　記）

組織

近畿オサムシ研究グループ

オサムシ類は大形の甲虫類であるが，ほとんどの種で後翅が退化して飛ぶことができず，移動分散は専ら歩行に頼っているため，地理的な分化が著しく，各種の地理的分布は，気候の傾斜よりも地史的な要因に負うところが大きい．近畿地方でも，多くの種が不連続的に分布していたり，近縁種が異所的に分布していたり，気候条件にそぐわない分布限界を持っている．終生の研究テーマを「日本列島昆虫相の形成過程の研究」にしていた大阪市立自然史博物館の日浦 勇氏は，早くからこのグループの昆虫が重要な鍵を握ると考え，1960 年代から個人で分布調査を開始したが，限界を感じて 1971 年に本研究グループを立ち上げた．メンバーは，冨永 修，桂 孝次郎，春沢圭太郎，日浦 勇，谷 幸三，土井仲次郎の 6 名であるが，調査には追手門学院大学および高校の関係者をはじめ，多くの人たちが随行している．

調査は近畿地方の 7 府県で主に行われたが，福井県南部も含んでいる．春から秋は，主にベイトトラップを用いてサンプリング調査が行われ，冬期には土崖や朽木などの掘り出し（オサ掘り）で調査を進めた．調査データや，詳しい調査状況は，連絡誌の「オサムシ層群」1 号 ~100 号（1971~1978 年, 冨永編集),「はねなし段丘」1 号 ~96 号（1978~1984 年, 春沢編集）に収録されている．

近畿地方のオサムシは，活動開始時点では 14 種であったが，近畿地方の調査がほぼ終わった時点で，新亜種の発見などもあって 18 種に増えた．これらの採集データの全ては，1979 年に刊行された大阪市立自然史博物館収蔵資料目録の第 11 集「近畿地方のオサムシ」に収録され，全標本は同博物館に収蔵されている．

この研究グループの活動は，その後オサムシの生態研究にも及んだが，1983 年に日浦氏が逝去した後，研究のテーマは他の昆虫に移った．しかし，この膨大なオサムシの調査結果は，その後の日本列島におけるオサムシの系統進化の研究に，大きく貢献することになる．

（宮武頼夫　記）

兵庫昆虫同好会

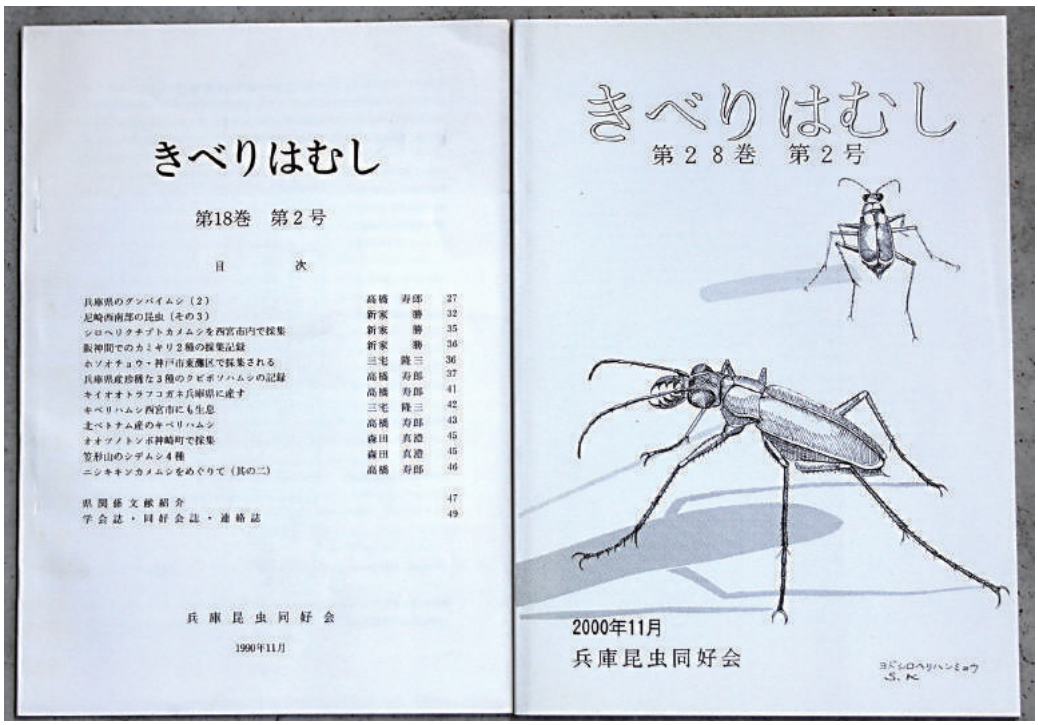
兵庫県を代表する昆虫同好会で，会誌「きべりはむし」は 1972 年に第 1 巻第 1・2 号が創刊号として発行されている．創刊当時の寄稿者を見ると，辻 啓介・湯浅浩史・奥谷禎一・小林桂助・畑中 熙らの名前があるが，同会を主宰し，自らも多数の原稿を書き，長い間「きべりはむし」の編集にあたり，兵庫昆虫同好会を切り盛りしてきたのは高橋寿郎（たかはし・としお）で，彼こそが最大の功労者であろう．

1922 年に神戸で生まれた高橋は，子どものころから虫好きだったが，だんだんと甲虫に傾倒するようになり，兵庫県の甲虫相解明という目標を掲げて長年にわたり活動を行った．その関係か，「きべりはむし」には甲虫の記事が目立つ．1981 年には神戸新聞出版センターから「六甲山の昆虫たち」を上梓しているほか，1997 年には「きべりはむし」第 25 巻第 3 号（特別号）という形で「日本に産するコガネムシ類の分類目録」を発行，2 年後には第一版増補版を出版している．

1995 年の第 23 巻第 1 号より編集担当が近藤伸一・高島 昭に交代，高橋は原稿執筆に集中したが，1999 年 12 月 4 日に逝去した．高橋の没後も，遺稿類は編集者が整理して「きべりはむし」に掲載された．このように兵庫昆虫同好会が同県の甲虫相解明に果たした役割は，きわめて大きいと言える．高橋の甲虫コレクションは，兵庫県立人と自然の博物館で保管されている．

現在「きべりはむし」は，兵庫昆虫同好会・NPO 法人こどもとむしの会の連名で発行されていて，2016 年 3 月時点で第 38 巻第 2 号が発行されている．NPO 法人こどもとむしの会とタイアップしてからは，中峰 空が編集を担当している．なお，NPO 法人こどもとむしの会は，2009 年 4 月より指定管理者として佐用町昆虫館の運営を行っている．

（谷角素彦　記）


きべりはむし

第18巻　第2号

目　次

兵庫県のグンバイムシ（2）　高橋　寿郎　27
尼崎西南部の昆虫（その3）　新家　勝　32
シロヘリクチブトカメムシを西宮市内で採集　新家　勝　35
阪神間でのカミキリ2種の採集記録　新家　勝　36
ホソオチョウ・神戸市東灘区で採集される　三宅　隆三　36
兵庫県産珍稀な3種のクビボソハムシの記録　高橋　寿郎　37
キイオオトラフコガネ兵庫県に産す　高橋　寿郎　41
キベリハムシ西宮市にも生息　三宅　隆三　42
北ベトナム産のキベリハムシ　高橋　寿郎　43
オオツノトンボ神崎町で採集　森田　真澄　45
笠形山のシデムシ4種　森田　真澄　45
ニシキキンカメムシをめぐりて（其の二）　高橋　寿郎　46

県関係文献紹介　47
学会誌・同好会誌・連絡誌　49

兵庫昆虫同好会

1990年11月

きべりはむし

第２８巻　第２号

2000年11月

兵庫昆虫同好会

ヨシロヘリハンミョウ S.K

組織

和歌山昆虫研究会

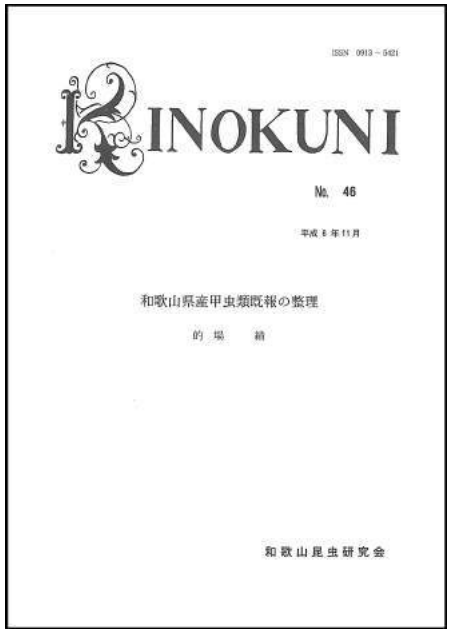
紀伊半島は本州最南端という地理的な条件に加え，黒潮海流の影響を受け，温暖多雨な気象のもと様々な昆虫が分布している．昔から，和歌山県には南方系の昆虫が多いと言われていたが，その実際は和歌山県にはどのような昆虫がいるのか，ほとんど知られていなかった．

県内の昆虫愛好者が集まり，各自の採集調査結果を記録し残していくための場を作りたいという考えのもとに，和歌山昆虫研究会が1971年に結成された．設立当時の主要メンバーは高校生で，吉田元重・奈良 一・後藤 伸各氏など，当時の和歌山県では大御所昆虫研究家の指導のもとに運営された．

会誌「KINOKUNI」は年2回発行され，和歌山県に関する昆虫類の分布記録を中心に編集され，今では紀伊半島の昆虫相を調べるうえで重要な文献となっている．誌面構成の大半は，蝶とトンボで占める地域同好会誌が多い中で，「KINOKUNI」は甲虫の記事が多いのが特色である．

主な研究者に，奈良 一（カミキリムシ科．特に台湾や欧州産は非常に充実），吉田元重（タマムシ科を中心に和歌山県産の甲虫類の分布を調査，また昆虫以外にも生態調査を中心に幅広い活動），後藤 伸（カメムシ目を中心に和歌山県における分布調査を精力的に行い，甲虫においても数多くの県未記録種や希少種を発見），松浦 誠（社会性ハチ類の研究で著名な学者．和歌山県果樹園芸試験場の勤務時代に，和歌山県産の社会性ハチ類の分布や柑橘害虫の研究），湯川淳一（タマバエの研究で著名な学者．和歌山在住時には和歌山県産の蝶類目録を報告），楠井善久（コガネムシ上科が専門．全国的な分布・生態調査を継続），平松広吉（コメツキムシ科が専門．和歌山県を中心に分布調査）らがいる．最後に，的場績はゾウムシ上科の分布を中心に甲虫全般の分布を調べ，和歌山県産の甲虫類既報種リストをまとめており，これまでに約3,700種をリストアップした．　（的場 績　記）

ヒラタアオコガネ♂　那智勝浦町下里池の谷にて


ISSN 0913－5421

KINOKUNI

No. 46

平成8年11月

和歌山県産甲虫類既報の整理

的場　績

和歌山昆虫研究会

KINOKUNI 46号　表紙

施設編

城北昆虫館

1935?–1945

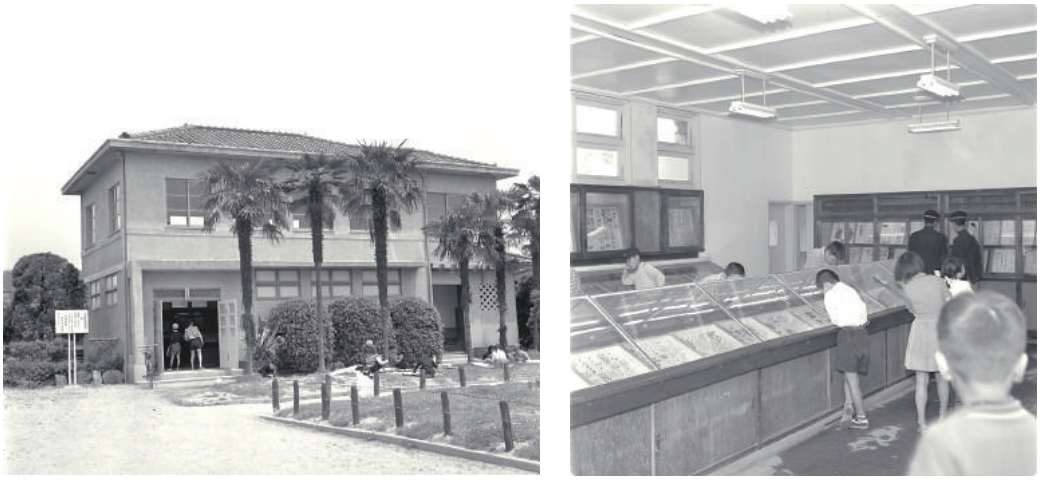


図 1. 城北昆虫館．大阪歴史博物館所蔵

昆虫研究者で大阪府穀物検査所所長の中林馮次氏（1876–1947）と，地元在住のアリ類研究家でテラニシセスジゲンゴロウに名を残す寺西 暢氏（1896–1938）らが，昆虫館設立に理解のある当時の大阪市公園課長とともに，昭和 10 年ごろに大阪市旭区城北に開設した施設（図 1）．戸澤信義氏によれば，「大阪付近の若い虫好きの人々のよりどころとなっていた」とのこと．中林氏は同好会「植物と昆虫の会」を設立し，大阪府を退職後も「虫のおじさん」として親しまれ，後進の指導にあたるも，戦局の悪化のために，昆虫館は戦時中に閉鎖．昆虫標本箱は部屋の隅に積み上げられて，昆虫館は道具置き場となったという．

図 2. 城北昆虫館移管標本．淀川産コガムシ，寺西氏採集

近畿甲蟲同好會は，この「植物と昆虫の会」の甲虫部会から組織された（近畿甲蟲同好會會報 1 巻 1 号序文：戸澤信義，1946 年）というので，日本甲虫学会は源流をたどれば，この城北で発足したといえる．

同館の標本の自然科学博物館への移管話は，筒井嘉隆館長（当時）の周辺で終戦直後からあったにも関わらず，それが実現したのは，博物館が長居へ移転した 1973 年 8 月のことであった．寺西による採集標本の主要部分は東京農大へ移管後，戦災に遭ったが，城北昆虫館へ残されていた分が現存している（図 2）．（初宿成彦　記）

宝塚昆虫館

1939–1968

宝塚昆虫館と当時の内部

施設

阪急電鉄が 1939 年に宝塚動植物園内に設立した．木造 2 階建ての建物で，昆虫飼育室が隣接しており，「昆虫飼育室 インセクタリウム」と看板がかかっていた．壁一面に昆虫標本が展示されており，初代館長の戸澤信義氏が収集したものを展示していた．戸澤は，蜂の研究家であり，海外の研究家と交流を持っており標本を交換したりしてさまざまな外国産昆虫を集めていた．それらの標本は閉館時に大阪市立自然史博物館に移管され，現在も保管されている．宝塚昆虫館は戸澤が阪急電鉄に奉職してから，集客や宣伝のために氏が提言して設立に至った経緯があるとされる．

戸澤は北野中学校時代（現・北野高校），昆虫仲間であった江崎悌三博士などと箕面で昆虫を採集しており，後に箕面山昆虫目録や甲東園昆虫目録などを著した．この戸澤の右腕となっていたのが，福貴正三氏である．彼はオサムシに興味があったようで，標本箱には北海道から宝塚までのマイマイカブリが並んでいたそうである．そこに後に天才漫画家と呼ばれる少年時代の手塚 治氏が足しげく通い，戸澤や福貴に採集したものの名前や生態を教えてもらったり，あるいは昆虫のスケッチなどをさせてもらったりしていた．漫画家の時には「手塚治虫」としていた彼だが，福貴に『マイマイカブリは頭の形が大好きだ』とひそかに告白していたそうで，福貴が「治虫」と名づけたのだと交流のあった群馬昆虫の森名誉館長の矢島 稔氏は語っている．これは彼自身の名がオサムシに似ているから大好きであったことにより名づけたとされている．ペンネームではなく「雅号」と手塚は言っていたそうである．

戸澤 信義氏

手塚治虫だけでなく，関西の昆虫研究家を育んだ宝塚昆虫館であったが，1968 年に動植物園改造のために建物がすべて壊され，復活しないままとなってしまった．

（澤田義弘　記）

大阪市立自然科学博物館

1950–1974

図 1．大阪市立自然科学博物館．西区靭

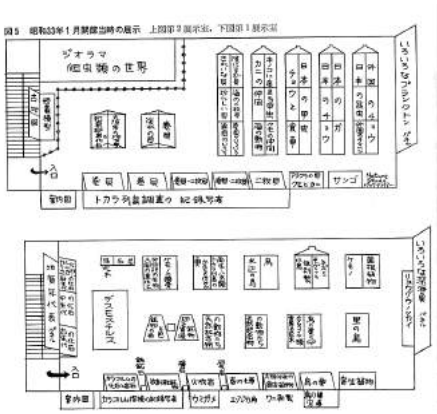


図 2．大阪市立自然科学博物館（靭時代）の展示室見取り図

施設

1974 年に長居で開館した大阪市立自然史博物館の前身．1950 年に，天王寺にある大阪市立美術館 2F 廊下に自然史標本の展示を開始したことから始まる．初代館長は天王寺動物園長も務めた筒井嘉隆氏．館蔵品の充実と自然科学の普及のため，国内外での総合調査を組織している（表 1）が，それらの基本方針として，「外国産は副次的に考え，国内産に主力を置く」「アカデミックなあり方でなく，大阪の町人文化を基盤とした街のナチュラリストを起用」といった点に特徴が表れている．

1957 年以降，館屋は西区靭の旧小学校校舎に移り（図 1），それまでの資料収集の成果としての常設展示もオープンした（図 2）．近畿甲蟲同好會の例会が定期的に開かれたほか，現在も継続して 8 月に開催されている標本同定会（図 3）も，この頃からすでにあった．野外での自然観察会も頻繁に開かれ，後に研究者になった中にはこれらへの参加経験がある方もおり，各方面へ与えた影響は少なくない．（初宿成彦　記）

表 1．大阪市立自然科学博物館が組織した総合調査

1951 年	北山峡
1953 年	トカラ列島・小豆島・友が島
1955 年	高知県沖ノ島・比良山
1957 年	比良山・護摩壇山・伯母子岳・大台ヶ原・荒神岳・稲村ヶ岳
1958 年	ニューカレドニア
1962 年	金剛・生駒山地，和泉山脈

図 3．1972 年の標本同定会

花園昆虫研究所

大正時代，鈴木元次郎氏が標本の販売を目的に創立した私設の研究所．鈴木元次郎（生年不詳 – 1942）は中部地方出身の蒔絵職人．島津製作所の標本庫で蒔絵のモチーフの参考として昆虫の標本を見ていくうちに，昆虫に興味を抱くようになった，という説がある．また昆虫に興味を抱いたことにより，「通俗昆蟲雑誌」を刊行したが，わずかの期間しか発行されなかった．

鈴木は花園研究所で主に京都で採集された標本の販売・提供をしており，「花園昆虫研究所標本目録」を出版し，標本販売のカタログとして使用していたようである．その標本群は，さまざまな研究者に活用され，北海道大学の松村松年博士によりスズキコエンマコガネが記載されるなどしている．しかし，京都で採集された標本だけでなく，京都以外の標本にも京都（Kioto）のラベルを付けて，国内だけでなく海外にも提供していたため，日本産の昆虫相の研究に混乱をきたした．これが昆虫学者の間では「花園標本」として悪名高いものになってしまったのである．　（澤田義弘　記）

A LIST
OF
PREPARED SPECIMENS
IN
HANAZONO ENTOMOLOGICAL LABORATORY
ESTABLISHED
BY
MOTOJIRO SUZUKI
HANAZONO - TANIGUCHI,
KYOTO, JAPAN.
1915.

花園昆蟲研究所
標本目錄

京都府下葛野郡花園村
花園昆蟲研究所
大正四年五月

235340

採集地編

箕　面

大阪北部に位置する名勝地．660 年ごろに役小角（えんのおづぬ）によって開山された修験場とされている．落差 33 m の箕面滝（雌滝）があり，京都・亀岡を結ぶ村落で，急峻な山である高山地区などが自然豊富であった．古くから炭の原料としてクヌギやコナラが豊富にあり，多くの昆虫が生息していたことから，東京の高尾山，京都の貴船と並んで，三大昆虫採集地とされた．箕面に訪れるには，現在は阪急電鉄箕面駅を降りて少し歩くと到達できる．それ以前，つまり阪急電鉄箕面線の前身である箕面有馬電気軌道ができる前は，国鉄福知山線池田駅で下車し約 9 km を徒歩で行くか，東海道線茨木駅で下車し徒歩で萱野村を通ってかなりの距離を歩かねばならなかった．阪急電鉄の宣伝もあり，多くの人々が訪れるようになったが，多くの昆虫採集家も訪れており，野平安藝雄，芝川又之助，江崎悌三，戸澤信義，福貴正三，竹内吉蔵，鈴木元次郎，関 公一 (p. 5)，岩田久仁雄，大林一夫 (p. 18)，平山修次郎，神谷一男，中根猛彦 (p. 7)，木船悌嗣，緒方正美，西川芳太郎，西川義二郎，滝尾増夫，山本義丸，水野寿彦，手塚 治（＝ 手塚治虫）など，教育者やアマチュアを含めてここでは挙げきれない．戦後の関西では，昆虫採集を始めるならまずこの地へ来るのが定番だった．外国の研究者では George Lewis (p. 15)，Adalbert Seitz などが足跡を残している．これらの方々や箕面産の標本の提供を受けた研究者が箕面から多くの昆虫を記載し，学名や和名に箕面の名を冠する昆虫が多くいたが，その後の研究によりシノニムとされ，あまり残っていない．甲虫ではミノオメクラチビゴミムシ *Trechiama nagahinis* S. Uéno だけとなっている．甲虫の新種記載として一番古いのは，George Lewis が採集し，1873 年に David Sharp が記載したマルコガタノゲンゴロウ *Cybister lewisianus* である．

高山道（昭和 20 年代）

1967 年に高尾山とともに「明治の森箕面国定公園」に指定され，東海自然歩道の西の起点となり，昆虫などを採取するには制約がある．また国定公園内には，大阪府営公園として箕面公園があり，昭和 28 年には箕面公園昆虫館が開館した．昆虫館は関西のアマチュアや研究者が足しげく通った場所でもある．

（澤田義弘　記）

岩湧山

岩湧山は，標高 897.7 m，和泉山脈の東の端で大阪府と和歌山県の県境近くに位置する．紀見峠を挟んで東北東方向に金剛山が連なる．大阪や和歌山の虫屋は必ず訪れた有名な採集地である．稜線へは和歌山側の南海高野線紀見峠駅か，大阪側の同線天見駅から急な坂を歩いて登るしかなく，体力的には結構大変である．紀見峠駅からの登山道沿いの渓谷に流れ込む渓流にはゴミムシが豊富である．また，稜線から大阪側の岩湧寺への斜面一帯はかつて温帯林主体の原生林で覆われていて，カミキリムシ，ゴミムシダマシ，オオキノコムシなどが沢山採集できた．

岩湧山全景

イワワキオサムシ *Carabus iwawakianus iwawakianus* (Nakane)，イワワキナガゴミムシ *Pterostichus bisetosus iwawakianus* Ishida，イワワキセダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber shibatai* (Miyake)などこの山が基準産地で，“イワワキ”の山名が付いた虫がある．またシバタツヤゴモクムシ *Trichotichunus shibatai* Habu は，大阪甲虫同好会が，岩湧寺横のユースホステルで継続的に行ったライトトラップ調査で採集された個体と近隣の槇尾山の標本を基に記載され，岩湧山が正基準産地になっている．現在までに他の地域で採集された報告はない．更には旧甲蟲学會の「昆蟲學評論」の表紙になっているセダカテントウダマシ *Bolbomorphus gibbosus* Gorham が多産する．保育社の古い「原色日本昆虫図鑑 (上)」に掲載されているムナコブハナカミキリ *Xenophyrama purupureum* Bates は，1943 年に岩湧山で採集された個体であるが，今は恐らく絶滅しているものと思われる．これだけ多様性豊かな山であるが，不思議なのは地中性のチビゴミムシの記録がないことである．隣の金剛山や西に続く和泉山脈では沢山の記録があり，今なお新種が見つかっているのにかかわらずである．

都会の近郊ながら，固有種が多く素晴らしい採集地であったが，この原生林は 40 年以上前に伐採されて杉林になり，かつての好採集地の面影が無くなったのは非常に残念である．　　(伊藤 昇　記)

渓谷地点

金剛山

嶽山からみた金剛山全景

金剛山は，金剛生駒紀泉国定公園内に位置し，大阪府・奈良県境の金剛山地の主峰である．修験道開祖・役小角が修行した山であり，葛城嶺といわれた．転法輪寺，葛木神社は奈良県で，最高地点の葛木岳（1,125 m）は葛木神社の神域にある．金剛錬成会により登山回数がスタンプ捺印で記録され，社務所・売店の周りはいつも登山客で賑わっている．三角点のある湧出岳（1,112 m），その他大日岳（1,094 m）も奈良県御所市である．大阪府の最高地点は＜ちはや園地＞の尾根筋にあり，標高 1,053 m の標識が立てられている．

登山コース：大阪府側から河内長野，富田林発のバス便がある．①千早の金剛登山口から千早城址を経て急な尾根道を登る．②百ガ辻のロープウェイ前からスギ林内の渓流沿いを行き，伏見峠に出る．または千早駅（708 m）から金剛山駅（975 m）までロープウェイに乗り＜ちはや園地＞から山頂を目指す．園地では「星と自然のミュージアム」で金剛山の自然紹介がみられ，宿泊施設「香楠荘」もある．他に③青崩～水越峠～頂上コース．奈良県側の④御所コース，⑤北宇智コースがある．

関西ではかつて金剛山の冬期オサ掘り採集が有名であった．山麓部から①コースを登るとまずヤコンオサムシ *Carabus yakoninus* Bates が出てくる．次に近隣の山の普通種 *Carabus* 属 3 種が採れる．頂上近くのブナ林では金剛山から記載された固有種のドウキョウオサムシ *Carabus uenoi* (Ishikawa) が現れ，オサムシ類の垂直分布がみられた．金剛山は標高 600 m 以上の落葉広葉樹林帯（コナラ，リョウブなどの二次林と山頂部のブナ・ミズナラ林）が興味深い．歩行虫類ではコンゴウナガゴミムシ *Pterostichus kongosanus* Nakane，コンゴウメクラチビゴミムシ *Stygiotrechus ohtanii* S. Uéno，ヤマトヒメナガゴミムシ *Pterostichus basipunctatus* Straneo，ミヤママルクビゴミムシ *Nippononebria chalceola* (Bates)，ヤマトツヤゴモクムシ *Trichotichunus edai* Jedlička など．頂上近くでイワワキセダカコブヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber shibatai* (Miyake) が歩いている．またトガリバホソコバネカミキリ *Necydalis formosanus niimurai* Hayashi，コンゴウミヤマヒサゴコメツキ *Homotechnes motschulskyi kongoenshis* (Kishii), コンゴウコバネナガハネカクシ *Lathrobium hayashii* Y. Hayashi などがみられる．金剛山は杉・檜の植林が多く，自然林が少ないので調査地点を探すのに苦労する．歩行虫調査の崖崩しは，登山客に迷惑行為と映る．トラップや腐植土サンプリングなどを推奨したい．（安井通宏　記）

春日山

若草山より春日山を望む

採集地

奈良市の東部に位置する山で，標高 297 m．御蓋山とも呼ばれる．すぐ北側にある若草山（別名：三笠山，標高 342 m）とともに和歌にも登場し，親しまれてきた．その東側にある春日山原始林は，特別天然記念物であり，標高 498 m，面積約 250 ha の広さがある．全国の春日神社の総本社である春日大社の神山として古くから信仰の場であったため，伐採などは行われず，9 世紀頃には禁伐令が出されるなど積極的な保護がなされている．

都市近郊に接した原始林であり，特異な林相を形成していること，学術的価値の高いことから，大正 13 年 12 月 9 日に天然記念物に指定，昭和 30 年 2 月 15 日には特別天然記念物に指定され保護されているが，奈良の景観保全上においても，重要な役割を果たしている．しかしながら厳密な意味での原始林ではなく，16 世紀には豊臣秀吉による約 1 万本のスギ植栽や，歴史上数回に亘る台風災害により壊滅的な被害を受け，早期回復を図るため，在来種により補植するなど，ある程度人工の手が加えられてきた経緯がある．このような多くの変遷を経ながらも春日山原始林には，うっ蒼と繁茂した巨木の林相を形成し，常緑広葉樹（カシ，シイ類）を主とした暖帯林を代表とし，暖地性の蔓性植物（フジ・カギカズラ）やシダ植物（ウラジロ・イワヒメワラビ）の種も多く，また温帯性，寒帯性の樹木も混生し 800 余種からなる多様な植物相が形成され，昆虫・鳥類の動物も豊富に生息している．ルーミスシジミの生息地としても知られている（現在は絶滅したと考えられている）．昆虫採集をすることは禁じられているが，保護以前の研究や許可を受けて研究がなされ，カスガキモンカミキリ，アカグロコメツキ，クロムクゲキスイ，トホシニセマルノミハムシ，セスジアオハムシダマシなどの新種が報告されている．　（澤田義弘　記）

摩耶山

ケーブルカー駅から望む摩耶山

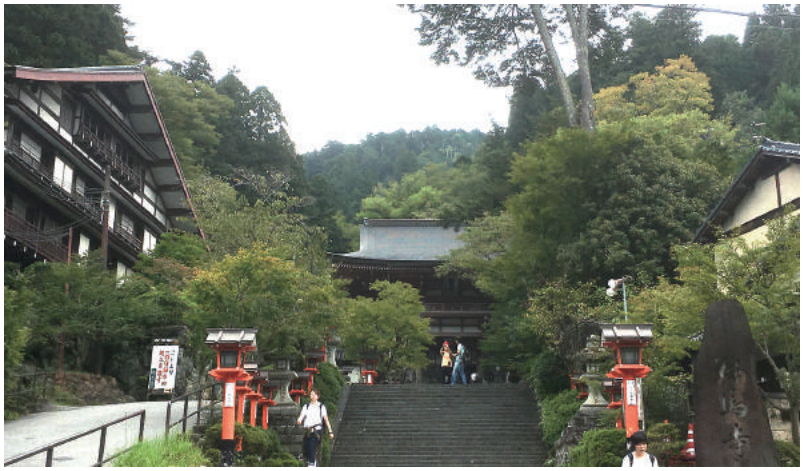
マヤサンオサムシ , マヤサンコブヤハズカミキリの摩耶山である．標高は 702 m. 神戸市街地の裏山として六甲・摩耶山とあわせて称されることもある．六甲山側は秀吉の大坂城築城で花崗岩切り出し以降，乱伐が進み本来の暖帯林はなくなりアカマツを主体としてツツジ類などの二次林となった． その後（19 世紀末）の造林を経て現在に至っている．一方，摩耶山側には再度山大竜寺，摩耶天上寺など神社仏閣の鎮守の森として保護されてきた経緯がある．G. Lewis (p. 15) 来日の頃には六甲山は見る影もなかったと思われるが，摩耶山は天上寺の失火（1976 年）前であり，今よりももっとすばらしい自然林であったことがうかがえる．当時の神戸の港では荷役が牛馬であり，ダイコクコガネが飛び交い摩耶山中にはヤマトエンマコガネが多産していたといわれている．

G. Lewis や，同名の別人でサラワクの官吏を引退後神戸に住んでいた J. E. A. Lewis の採集品から，摩耶山の名を冠した種や正基準産地になったものも多い．

摩耶山は早くも 1925 年にケーブルカーが敷設されているが，信仰の山でもあったので，樹林は戦後までよく保存さていた．しかし 1967 年の六甲有料道路開通を皮切りに裏・表六甲も尾根筋もドライブウエイ・ラッシュで手軽に行けるようになった．そのため六甲山系全体は荒れた山になり，天上寺の火災もあり荒廃はさらに進んだ．その中でも摩耶山では山門から青谷へのコースは比較的自然林の名残が見受けられ，リター性のハネカクシ類，例えば摩耶山固有種のトビイロオチバメダカハネカクシは今でも広範囲に観察される．また厳寒期にハネナシナガクチキが発見されるなど，まだまだあなどれない山である．現在，冒頭のコブヤハズカミキリは近年見つかることは無いが，マヤサンオサムシはまだまだ健在である．　（伊藤建夫　記）

トビイロオチバメダカハネカクシ

鞍馬・貴船



鞍馬寺山門

往年の名採集地．上賀茂神社から北北東に 10 km ほど．有名な鞍馬寺があり，観光地であったため京都の街中からの交通の便が良く，多くの採集者が訪れた．出町柳から叡山電鉄（旧京福電気鉄道）に乗車して終点の鞍馬駅に至る．

鞍馬寺山門から貴船神社に下る 3 km 弱の道のり．標高は 584 m と低山で，里山の感があるが，山容は深山幽谷を感じさせる深みがある．駅前が山門と隣接しており，すぐに参拝・登坂となる．本殿に至る東側斜面は階段が延々と続き，寺社林に相応しくスギ・ヒノキの古木が大勢を占める．本殿を超えて，霊宝殿がある辺りから樹相が豊かになり，モミなどの針葉樹も見られるようになる．これらの針葉樹でホンドハイイロハナカミキリ *Rhagium femorale* N.Ohbayashi やルリボシカミキリ *Rosalia batesi* Harold が採れている．霊宝殿が建設されていない頃には，付近の斜面に巨大なサルノコシカケが沢山見られ，多数の食菌性甲虫が採集できた．近畿ではオオモンキゴミムシダマシ *Diaperis niponensis* Lewis の確実な産地である．背くらべ石がある峠を越えると，貴船川まで一気の下りとなるが，照葉樹林の混成林となり，面白い採集が出来る．特に食菌性の甲虫は面白く，オオキノコムシやオオキバハネカクシの仲間，それにいろいろなゴミムシダマシの仲間が見られ，キボシチビオオキノコ *Aporotritoma yasumatsui* (Nakane) を落として驚喜した記憶がある．マルツヤキノコゴミムシダマシ *Platydema kurama* Nakane はこの地が基準産地であり，種名として採用されている．5 月頃に訪れると林内を飛翔するこれらの甲虫を採集する機会がある．梅雨の頃には，日陰の花でヘリウスハナカミキリ *Pyrrhona laeticolor* Bates，イヌツゲの花を見つければ，ヨコヤマトラカミキリ *Epiclytus yokoyamai* (Kano) が採れるかもしれない．林内の石下にはキョウトメクラチビゴミムシ *Trechiama angulicollis* Jeannel が採集でき，キョウトナガゴミムシ *Pterostichus daisenicus sakagutii* Nakane et Ishida は貴船が基準産地である．その後の自家用車の普及や交通網の改善で，この地を訪れた採集者たちは杉峠，花脊峠，大悲山，佐々里峠，そして芦生へと転戦して行く．　（安藤清志　記）

僧正ガ谷不動堂付近

高野山・荒神岳（奥高野）

高野山は古い霊場であり，多数訪れる参拝者のために既に 1929 年には幽谷を縫って麓の極楽橋まで軌道が敷かれた．便利故に関西の昆虫研究者や愛好家が昔から頻繁に訪れ，その成果としてコウヤホソハナカミキリ *Strangalia koyaensis* Matsushita やイガブチヒゲハナカミキリ *Sticoleptura igai* (Tamanuki) といったお馴染みのカミキリが高野山から記載されている．

午前中はカミキリを狙うため南海電鉄極楽橋駅から不動坂を登って女人堂まで行く．7 月下旬～ 8 月上旬には道沿いにノリウツギが咲き乱れ，どれから摘まもうかと迷うくらい夥しいカミキリが簡単に掬えた．タケウチホソハナカミキリ *Strangalia takeuchii* Matsushita et Yamanuki，イガブチヒゲハナカミキリ，オオハナカミキリ *Konoa granulata* (Bates) を始め紀伊半島で採れる一通りのハナカミキリが採集できた．ハナカミキリ以外ではアオカミキリ *Schwarzerium quadricollis* (Bates) やオオアオカミキリ *Chloridolum thaliodes* Bates が見られた．午後はトロッコ道を通って奥の院へ向かう途中のモミの土場で，夥しいアオタマムシ *Eurythrea tenuitriata* Lewis が飛来し手掴みで採れた．高野山はモミ，ヒノキ，スギで覆われ，女人堂裏の谷や奥の院のモミ林ではヒゲナガカミキリ *Monochamus nitens* (Bates) が飛翔し，立ち枯れで 30–40 頭も採れた例がある．杉の洞ではオオチャイロハナムグリ *Osmoderma opicum* Lewis が普通に見られた．

高野山不動坂

荒神岳へは高野山からバスで行くか一日かけての徒歩になるが，殆どの虫屋は道に咲いている花で沢山のカミキリを掬うため徒歩で向かった．荒神岳は寺領であったので，かつては全山ブナを主体にミズナラ，カエデが混じった原生林が残されていた．立ち枯れには沢山のヒゲシロホソコバネカミキリ *Necydalis odai* Hayashi やオオホソコバネカミキリ *Necydalis solida* Bates が止まっていた．またヤナギ類ではヒメオオクワガタ *Dorcus montivagus* (Lewis) が多数採集できた．京阪神からの日帰りは難しいので，米を持参して神社に泊めてもらったが，今は旅館もある．夜は神社の燃料用薪や林縁の倒木を見まわると，沢山のイワワキセダカコブヤハズカミキリ *Parachthistatus gibber shibatai* Miyake などのカミキリムシ類，ゴミムシダマシ類，オオキノコムシ類などが這っていた．

高野山のモミ林

高野山も荒神岳も今は車で行きやすくなった反面，開発の煽りで伐採が進み，かつての面影が消失したのは残念である．（伊藤 昇　記）

巨椋池の歩行虫 ― 小菅 謙蔵氏の標本より

巨椋池は宇治川，木津川から桂川の三川合流域を含む広大な湿地だったが，1933 年から 1941 年に干拓されて現在は淀競馬場に一部を残すのみとなっている．湿地性の生物が豊富で, 歩行虫については京都府 RDB の選定種, 絶滅種などの宝庫であったと考えられる．

コスゲメクラチビゴミムシに献名されている小菅謙蔵氏の名前は歩行虫の研究者の間では有名だが，標本の所在は知られていなかったと思われる．

1976 年 9 月 8 日付の京都新聞に「元校長先生がコツコツ 35 年 … 価値ある歩行虫標本 1 万点役立てて」という見出しで，ご遺族が京都市青少年科学センターに標本を寄贈された記事が掲載された．2014 年に八幡市が生物多様性調査報告書を作成することになったが，小菅氏の標本には巨椋池の歩行虫が含まれている可能性があり，三川合流域の生物相調査の一環として標本を調査した．この調査内容は八幡市の報告書を参照されたい．

小菅氏の約 1 万個体の標本はオサムシ科を網羅しており，日本全土だけでなく千島，韓国, 中国, 台湾, フィリピンなどの標本を細かく分類してあるので当時の分類体系がわかる．またコスゲメクラチビゴミムシのパラタイプ標本やサドクロナガオサムシなど記載以降記録のない種なども含まれている．特に京都の南部と舞鶴の 1930 年後半から 1940 年前半の標本が多く，この時代の京都のまとまった歩行虫標本は他に存在しないであろう．巨椋池の標本は 1940 年が多くツヤキベリアオゴミムシが 2 日間の採集で 32 個体，アオヘリアオゴミムシが 1 日で 19 個体，オオサカアオゴミムシが鳥羽の同日付で 31 個体などがラベルから読み取れ，その他にも同日のラベルの標本が多数あった．これ以外にもクビナガキベリアオゴミムシ（嵯峨, 舞鶴）など, 現在では関西全域でもほとんど生息が確認できなくなっている種も多い．

二冊の大学ノートもあわせて寄贈されているが，これには歩行虫の学名，和名，産地が細かく書かれており，種ごとに番号が振られている．標本とともに貴重な資料である．

（谷 壽一　記）

小菅標本

書物編

昆虫採集地案内 近畿地方

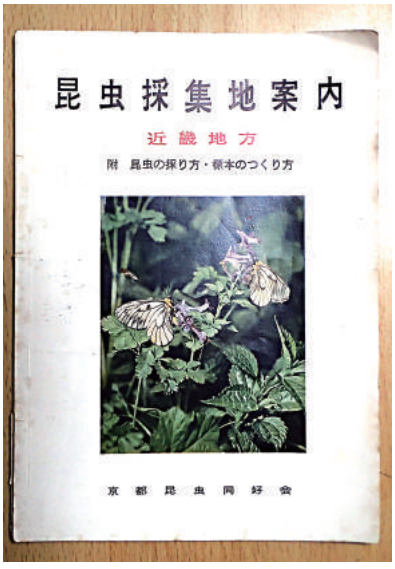
附 昆虫の採り方・標本のつくり方

発行は 1956 年，編集は京都昆虫同好会，会の所在地は西京大学*内となっている．保育社の「原色昆虫図鑑（上）」，いわゆる甲虫編の発刊が 1954 年．戦後 10 年の節目のころで，両書とも当時の昆虫少年にとっては待望の書となった．

内容は，近畿一円はもとより，その周辺も紹介され，京都地方がもっとも充実しているが，次いで兵庫，大阪，奈良，和歌山，三重，滋賀，福井，さらにその他として加賀白山，伯耆大山および信州方面の順に解説されている．

編集作成の直接協力者には中根猛彦博士 (p. 7)，塚本珪一氏，岸井 尚博士などの甲虫屋もあたり，またアマチュアの同好会員や各地の同好会からも資料を集めており，各コースとも交通（電車やバス）についての記述も詳細で，何よりも観察出来る甲虫の名前の記述が豊富であり，甲虫屋にとっては便利な参考書になった．特に地元の京都鞍馬・貴船を中心とした北山コースには特別の思い入れが感じられる内容になっている．

その後，内田老鶴圃新社から「新しい昆虫採集」（上・下）が 1958, 59 年に，ついで「新しい昆虫採集地案内」(I), (II), (III) が 1971 年に京浜昆虫同好会編で発刊されたが，これらは全国版であったので，京都昆虫同好会編の本書は関西勢にとってはいつまでも愛用された．現在では半世紀前とずいぶんと様変わりしたコースもあるが，大部分はまだまだ参考にできる所があるのはすばらしい．（伊藤建夫　記）



*) 西京大学は 1949 年に新制大学として創立，1959 年より名称が京都府立大学となる．この書籍の出版当初，近畿甲蟲同好會の創立同人の中根猛彦が在職，また後の旧日本甲蟲学會の評議員として同大学の関係者，石田 裕，澤田高平，岸井 尚の名が挙げられる．また甲虫関係研究者として 2010 年の甲虫学会大阪大会委員長を務めた塚本珪一氏，舞鶴の甲虫相解明を手がける黒田悠三氏も健在である．1980 年代初頭前後のいわゆるカミキリブームの頃には多くの甲虫研究者を輩出している．例えば北山 昭，西田信夫，西田 宏，緒方 健，沢田佳久，谷 壽一，上田明良の諸氏，一部惜しまれながら夭逝した方以外は全員現役の研究者として活躍中である．

図鑑の保育社

保育社は 1946 年，大阪市で創業．1949 年に「学習理科図鑑　生物篇」で子ども向けの学習図鑑を出版，その後，「学習昆虫図鑑」「学習植物図鑑」などを刊行している．これらの図鑑に掲載されたイラストや標本の作り方などを食い入るように眺めた少年が，後の虫屋になったケースは少なくないだろう．

図鑑の定番ともいえる原色図鑑シリーズは，1954 年に発行された「原色日本蝶類図鑑」（横山光夫 著）でスタートした．当時，カラーで標本が収録された図鑑は画期的で，叙情的な解説文とあいまって好評を博した．その後，動植物や岩石・鉱物などを扱った原色図鑑が刊行され，“図鑑の保育社”としての地位を固めるに至った．原色図鑑の第一号となった「原色日本蝶類図鑑」は，増補改訂版や全改訂新版などと形を変えて利用され続け，数多の虫屋を育てるのに欠かせぬ役割を果たした．

甲虫関係では 1954 年発行の「原色日本昆虫図鑑（上）」（近畿甲蟲同好會 編著）が嚆矢となる．中根猛彦 (p. 7) が監修をしており，共著者として大倉正文 (p. 6)，林 匡夫 (p. 8)，阪口浩平 (p. 10)，伊賀正汎 (p. 9)，後藤光男 (p. 12)，澤田高平，上野俊一，岸井 尚の名前がある．日本産の甲虫が 1 冊にまとめられており，広く利用された．解説の最後に掲載標本の産地名が記されているのが印象的で，虫を採りたくてその場所を訪ねた人もいたことだろう．図鑑の中で新種記載（ヒイロホソナガクチキムシなど）も行っている．

1969 年に発刊された「原色日本昆虫生態図鑑　カミキリ編」（小島圭三・林 匡夫 著）も，甲虫好きに保育社の名前を浸透させる 1 冊になった．従来の図鑑は標本写真を収録し，同定に重きを置いたつくりだったので，生態図鑑という切り口は斬新で，時代の先駆けとなるものであった．

1984 年から 1986 年にかけて刊行された「原色日本甲虫図鑑（I）～（IV）」（黒澤良彦ほか 著）の存在も，忘れることができない．出版後 30 年が経つが，今なお甲虫を同定する際の基本文献として利用されて続けている．この図鑑の特徴は著者数が多いこと（II 巻が 20 名，III 巻が 16 名）で，それぞれの分類群の専門家が分担執筆している．それまでの図鑑の大半が 1 名の単著もしくは 2 名の共著だったことを考えると，専門分野が多岐に分かれた新時代の図鑑の先駆けとも言える．多数の著者の原稿をまとめて整理する編著者の苦労は大きかったが，より専門性の高い図鑑に仕上がったのは意味のあることであった．全 4 巻の編著者（黒澤良彦・上野俊一・林 匡夫・林 長閑・森本 桂・木元新作・久松定成・佐々治寛之・佐藤正孝）はほとんどの方が鬼籍入りしてしまい，時間の流れを感じさせる．

甲虫だけを扱ったものではないが，「図説世界の昆虫（I）～（VI）」（阪口浩平 著／ 1979~1982）も評価が高い．多くの人が本書を目にして，世界の魅力的な虫の世界に引き込まれたことだろう．出版後 35 年以上が経つが，名著として現在も輝き続けている．

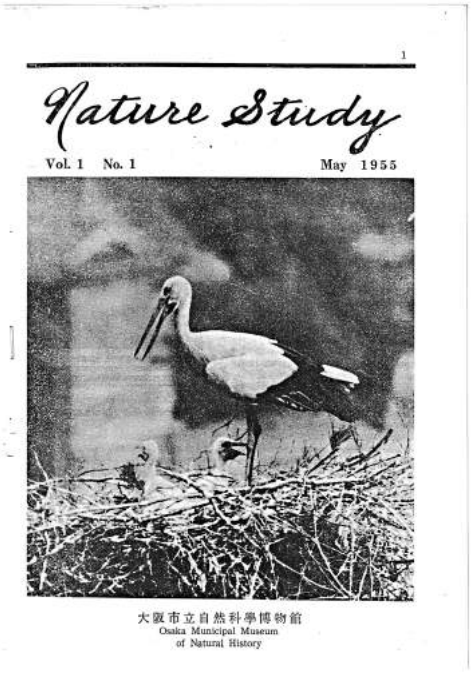
このように図鑑の出版社として大阪で活動を続けてきた保育社は，20 世紀末に経営不振に陥り，1999 年に和議法の適用を申請し倒産したが，現在は株式会社メディカ出版の支援を受け，子会社として活動を続けている．（谷角素彦　記）

Nature Study

大阪市立自然史博物館友の会から，現在も発行されている月刊誌．創刊は 1955 年で，初期には本書で紹介されている甲虫研究者諸氏が執筆している．内容は自然全般にわたり，初歩的なものから高度なものまで掲載されており，若年層への佳き入門書となっている．大阪市立自然科学博物館後援会（現・友の会の前身）の事業委員には，創立時から伊賀正汎 (p. 9)，河野 洋 (p. 11)，阪口浩平 (p. 10) の各氏が名を連ねており，その後も関西の自然を中心に，様々な記事が掲載されている．

甲虫に限ってかいつまんでみると，澤田髙平：「小豆島産甲虫類について」（1955 年 1 巻 9 号），中根猛彦 (p. 7)：「博物館にある珍らしい標本　ケオビヒメハナノミ（新称）」（ 1956 年 2 巻 6 号），林 匡夫 (p. 8)・大倉正文 (p. 6)・塚本珪一：「今年の成果　荒神岳・伯母子岳甲虫」（1956 年 2 巻 12 号），芝田太一 (p. 13)：「雑記帳；ホコリタケ目のキノコを食う甲虫」（1960 年 6 巻 1 号），後藤光男 (p. 12)：「荒神ガ岳の昆虫」（1969 年 15 巻 8 号），などである．

学芸員だった日浦 勇氏による記事は 1957 年から，亡くなる 1983 年までの 26 年間，合計 300 ほどにもなる（ちなみに初宿の寄稿数は 24 年間で 100 ほど）．「1 センチ以上の昆虫誌」のような大衆向けから，玄人向けのものまで，内容はたいへん幅広い．この月刊誌を維持するために，毎月のように記事を寄せていたという．（初宿成彦　記）



Nature Study 創刊号表紙

資料編

ジョージ・ルイス採集標本をもとに記載された近畿の甲虫

ジョージ・ルイス (p. 15) の二度の来日で得られた標本のうち，近畿地域の採集標本をもとに新種記載された主な甲虫を記述した．これらの種名で変更や移動が加えられているものは「＝」を附して最新の情報を記入した．タイプローカリティーが記述されていないものや「日本全域」と記述されているものは割愛した．　(安藤清志　記)

Carabidae

エグリゴミムシ　*Eustra japonica* Bates, 1982, Kiushiu, Kashiwagi, Maiyasan near Kobe.

ルイスハンミョウ　*Cicindela lewisi* Bates, 1873, Sakai, near Osaka

マイマイカブリ *Damaster lewisii* Rye, 1873, Hiogo et Simabara. = *Carabus* (*Damaster*) *blaptoides blaptoides* (Kollar, 1836)

ヤコンオサムシ　*Carabus yaconinus* Bates, 1873, Nagasaki and Hiogo.

マヤサンオサムシ　*Carabus maiyasanus* Bates, 1873, Moon-temple (Maiyasan), Kobé; alt. 2,000 feet.

オオマルクビゴミムシ　*Nebria macrogona* Bates, 1873, Hiogo and Kawachi.

フタモンマルクビゴミムシ　*Nebria pulcherrima* Bates, 1873, Hiogo.

ナガヒョウタンゴミムシ　*Scarites pacificus* Bates, 1873, Hiogo, Nagasaki. = *Scarites terricola pacificus* (Bates, 1873)

カワチマルクビゴミムシ　*Nebria lewisi* Bates, 1874, Kawatchi, Japan. = *Nebria* (*Eunebriola*) *lewisi* Bates, 1874

ヒメヒョウタンゴミムシ　*Clivina niponensis* Bates, 1873, Hiogo.

チビヒョウタンゴミムシ　*Dyschirius ordinatus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki "at Tomatsu".

ホソチビヒョウタンゴミムシ　*Dyschirius steno* Bates, 1873, Osaka.

コチビヒョウタンゴミムシ　*Dyschirius hiogoensis* Bates, 1873, Hiogo.

マルクビチビヒョウタンゴミムシ　*Dyschirius sphaerulifer* Bates, 1873, Hiogo.

ノグチナガゴミムシ　*Callistomimus noguchii* Bates, 1873, Kawachi. = *Pterostichus noguchii* (Bates, 1873)

クロヒゲアオゴミムシ　*Callistomimus ocreatus* Bates, 1873, Hiogo, Osaka. = *Chlaenius ocreatus* (Bates, 1873)

オオトックリゴミムシ　*Oödes vicarius* Bates, 1873, Hiogo.

トックリゴミムシ　*Oödes prolixus* Bates, 1873, Hiogo. = *Lachnocrepis prolixa* (Bates, 1873)

スナハラゴミムシ　*Rembus elongatus* Bates, 1873, Hiogo. = *Diplocheila elongata* (Bates, 1873)

ヨツモンカタキバゴミムシ　*Badister pictus* Bates, 1873, Kawachi.

セスジカタキバゴミムシ　*Badister vittatus* Bates, 1873, Kawachi.

キベリチビゴモクムシ　*Dicheirotrichus tenuimanus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki. = *Dicheirotrichus* (*Trichocellus*) *tenuimanus* Bates, 1873

ヒラタゴモクムシ　*Harpalus platynotus* Bates, 1873, Hiogo; Awomori.

ツヤアオゴモクムシ　*Harpalus chalcentus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki.

アカゴモクムシ　*Harpalus rubefactus* Bates, 1873, Hiogo.

ミドリマメゴモクムシ　*Stenolophus chalceus* Bates, 1873, Hiogo. = *Stenolophus* (*Egadroma*) *difficilis* (Hope, 1845)

カラカネゴモクムシ　*Platymetopus corrosus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki. = *Platymetopus flavilabris* (Fabricius, 1798)

ホソヒラタゴミムシ　*Pristonychus aeneolus* Bates, 1873, Kawachi. = *Pristosia aeneola* (Bates, 1873)

キアシツヤヒラタゴミムシ　*Dolichus callitheres* Bates, 1873, Hiogo. = *Synuchus callitheres* (Bates, 1873)

ヒメツヤヒラタゴミムシ　*Pristodactylus dulcigrada* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki. = *Synuchus dulcigradus* (Bates, 1873)

フトクチヒゲヒラタゴミムシ　*Taphria crassipalpis* Bates, 1873, Hiogo. = *Parabroscus crassipalpis* (Bates, 1873)

クロモリヒラタゴミムシ　*Colpodes atricomes* Bates, 1873, Hiogo. = *Agonum atricomes* (Bates, 1873)

コハラアカモリヒラタゴミムシ　*Colpodes lampros* Bates, 1873, Hiogo. = *Lissagonum lampros* (Bates, 1873)

キンモリヒラタゴミムシ　*Colpodes sylphis* Bates, 1873, Hiogo. = *Agonum sylphis* (Bates, 1873)

オオヒラタゴミムシ　*Anchomenus* (*Limodromus*) *magnus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki. = *Platynus magnus* (Bates, 1873)

タンゴヒラタゴミムシ　*Anchomenus leucopus* Bates, 1873, Tango. = *Agonum leucopus* (Bates, 1873)

アオグロヒラタゴミムシ　*Anchomenus* (*Agonum*) *chalcomus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki. = *Agonum chalcomus* (Bates, 1873)

ルイスオオゴミムシ　*Trigonotoma lewisii* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki.

コホソナガゴミムシ　*Pterostichus* (*Argutor*) *longinquus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki.

オオクロナガゴミムシ　*Pterostichus* (*Steropus*) *tropidurus* Bates, 1873, Hiogo. = *Pterostichus* (*Eosteropus*) *prolongatus* Morawitz, 1862

ヒョウゴナガゴミムシ　*Pterostichus sphodriformis* Bates, 1873, Hiogo.

キアシマルガタゴミムシ　*Bradytus ampliatus* Bates, 1873, Sand Hills at Kobé. Dark var. also at Hiogo. = *Amara* (*Bradytus*) *ampliata* (Bates, 1873)

コアオマルガタゴミムシ　*Amara* (*Celia*) *chalcophaea* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki.

ヒロムネマルガタゴミムシ　*Amara* (*Celia*) *laticarpus* Bates, 1873, Hiogo. = *Amara saginata* Ménétriés, 1821

カワチゴミムシ　*Diplous caligatus* Bates, 1873, Kawachi.

アトスジチビゴミムシ　*Trechus postilenatus* Bates, 1873, Osaka. = *Trechoblemus postilenatus* (Bates, 1873)

ヒラタキイロチビゴミムシ　*Trechus epippiatus* Bates, 1873, Nagasaki, the variety is found at Hiogo. = *Trechus* (*Epaphius*) *epippiatus* Bates, 1873

ホソチビゴミムシ　*Perileptus japonicus* Bates, 1873, Hiogo. = *Perileptus* (*Perileptus*) *japonicus* Bates, 1873

ヒラタミズギワゴミムシ　*Tachys exaratus* Bates, 1873, Hiogo. = *Tachyura exaratus* (Bates, 1873)

ドウイロミズギワゴミムシ　*Bembidium stenoderm* Bates, 1873, Osaka. = *Bembidion stenoderm* (Bates, 1873)

アトキミズギワゴミムシ　*Bembidium* (*Peryphus*) *consummarum* Bates, 1873, Kobé. = *Bembidion consummarum* (Bates, 1873)

ヒョウゴミズギワゴミムシ　*Bembidium* (*Peryphus*) *hiogoense* Bates, 1873, Hiogo. = *Bembidion hiogoense* (Bates, 1873)

オオアオミズギワゴミムシ　*Bembidium* (*Peryphus*) *lissonotum* Bates, 1873, Hiogo. = *Bembidion lissonotum* (Bates, 1873)

アトモンクビナガゴミムシ　*Casnonia flavicauda* Bates, 1873, Osaka. = *Eucolliuris fuscipennis* (Chaudoir, 1850)

ヒメホソクビゴミムシ　*Brachinus incomptus* Bates, 1873, Hiogo; Nagasaki.

ミズアトキリゴミムシ　*Apristus secticollis* Bates, 1873, Tango.

チビミズアトキリゴミムシ　*Apristus cuprascens* Bates, 1873, Hiogo.

オオヨツアナアトキリゴミムシ　*Bothynoptera perforata* Bates, 1873, Hiogo. = *Parena perforata* (Bates, 1873)

ミツアナアトキリゴミムシ　*Bothynoptera tripunctata* Bates, 1873, Tanga, Kawachi. = *Parena tripunctata* (Bates, 1873)

アオヘリアトキリゴミムシ　*Crossoglossa latecincta* Bates, 1873, Hiogo; Yokohama. = *Parena latecincta* (Bates, 1873)

ヒトツメアトキリゴミムシ　*Crossoglossa monostigma* Bates, 1873, Nagasaki; Hiogo. = *Parena monostigma* (Bates, 1873)

ヒラタアトキリゴミムシ　*Crossoglossa cavipennis* Bates, 1873, Hiogo. = *Parena cavipennis* (Bates, 1873)

アオアトキリゴミムシ　*Calleida onoha* Bates, 1873, Hiogo.

アトグロジュウジアトキリゴミムシ　*Lebia idae* Bates, 1873, Hiogo; Satsuma; Nagasaki.

アオヘリホソゴミムシ　*Drypta japonica* Bates, 1873, Tokio; Kioto; Osaka; Nara; Niigata.

コクロヒメゴモクムシ　*Tachycellus subditus* Lewis, 1879, Hiogo. = *Bradycellus subditus* (Lewis, 1879)

イグチケブカゴミムシ　*Peronomerus auripilis* Bates, 1883, Marshes, Ogura Lake; Uyeno and Honjo, in Tokio.

ヒロムネナガゴミムシ　*Lagarus dulcis* Bates, 1883, Ogura Lake. = *Pterostichus dulcis* (Bates, 1883)

ホソヒラタゴミムシ　*Pristonychus aeneolus* Bates, 1873, Hiogo; Nikko, Miyanoshita; Fukushima; Wada Togé. = *Pristosia aeneola* (Bates, 1873)

ヒメセボシヒラタゴミムシ　*Anchomenus* (*Agonum*) *suavissimus* Bates, 1883, Ogura Lake; Honjo, Tokio. = *Agonum suavissimum* (Bates, 1883)

オグラヒラタゴミムシ　*Anchomenus* (*Agonum*) *ogurae* Bates, 1883, Ogura Lake. = *Agonum ogurae* (Bates, 1883)

クロケナシヒラタゴミムシ　*Colpodes asticus* Bates, 1883, Oyayama; Yuyama, in Higo; Kashiwagi, in Yamato. = *Morimotoidius otuboi* Habu, (only for the specimens collected in Hiogo, and Kashiwagi)

コモリヒラタゴミムシ　*Colpodes amphinomus* Bates, 1883, Kashiwagi and Oyayama. = *Nipponoagonum amphinomum* (Bates, 1883)

ヤセモリヒラタゴミムシ　*Colpodes elainus* Bates, 1883, Kashiwagi. = *Diacanthostylus elainus* (Bates, 1883)

クビアカモリヒラタゴミムシ　*Colpodes rubriolus* Bates, 1883, Near Kami-ichi. = *Loxocrepis rubriolus* (Bates, 1883)

クロズホナシゴミムシ　*Perigona tachyoides* Bates, 1883, Nagasaki, Kobé, and Kashiwagi. = *Perigona* (*Trechicus*) *nigriceps* (Dejean, 1831)

アオバネホソクビゴミムシ　*Brachinus aeneicostis* Bates, 1883, Ogura Lake.

ホソアトキリゴミムシ　*Dromius prolixus* Bates, 1883, Junsai; Kawachi; Nikko.

カドツブゴミムシ　*Pentagonica angulosa* Bates, 1883, Yuyama; Kashiwagi; Nikko.

ニセマルガタゴミムシ　*Amara zimmermanni* Putzeys, 1875, Kioto. Nagasaki. = *Amara congrua* Morawitz, 1862

ニセマルガタゴミムシ　*Amara striatella* Putzeys, 1875, Nagasaki, Kioto. = *Amara congrua* Morawitz, 1862

ヒョウゴマルガタゴミムシ　*Curtonotus hiogoensis* Bates, 1873, Hiogo. = *Amara hiogoensis* (Bates, 1873)

ミヤマジュウジアトキリゴミムシ　*Lebia sylvarum* Bates, 1883, Hiogo.

コヨツボシアトキリゴミムシ　*Dolichoctis ornatellus* Bates, 1883, Japan, Yuyama, Hiogo. = *Dolichoctis striatus striatus* Schmidt-Göbel, 1846

Dytiscidae

マルコガタノゲンゴロウ　*Cybister lewisianus* Sharp, 1873, Mino, near Osaka.

マルガタゲンゴロウ　*Hydaticus japonicus* Sharp, 1873, Osaka; Hiogo. = *Graphoderus adamsii* (Clark, 1864)

クロズマメゲンゴロウ　*Agabus conspicuus* Sharp, 1873, Osaka and Nagasaki.

マメゲンゴロウ　*Agabus japonicus* Sharp, 1873, Hiogo and Nagasaki.

モンキマメゲンゴロウ　*Agabus* (*Platambus* Th.) *pictipennis* Sharp, 1873, Hiogo. = *Platambus pictipennis* (Sharp, 1873)

キベリクロヒメゲンゴロウ　*Ilybius apicalis* Sharp, 1873, Hiogo and Simabara.

ムツボシツヤコブゲンゴロウ　*Hydrocanthus politus* Sharp, 1873, Hiogo. = *Canthydrus politus* (Sharp, 1873)

ルイスツブゲンゴロウ　*Laccophilus lewisius* Sharp, 1873, Kobé.

コウベツブゲンゴロウ　*Laccophilus kobensis* Sharp, 1873, Kobé (Hiogo).

ケシゲンゴロウ　*Hyphydrus japonicus* Sharp, 1873, Nagasaki and Hiogo.

Gyrinidae

ミズスマシ　*Gyrinus japonicus* Sharp, 1873, Hiogo and Nagasaki.

Hydrophilidae

コガムシ　*Hydrochares affinis* Sharp, 1873, Hiogo. = *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873)

ルイスヒラタガムシ　*Helochares lewisius* Sharp, 1873, Nagasaki and Hiogo. = *Helochares pallens* (MacLay, 1833)

タマガムシ　*Amphiops mater* Sharp, 1873, Hiogo and Nagasaki.

コケシガムシ　*Cercyon aptus* Sharp, 1873, Nagasaki and Hiogo.

ウスモンケシガムシ　*Cercyon laminatus* Sharp, 1873, Hiogo.

Histeridae

マツナガエンマムシ　*Platysoma pini* Lewis, 1884, Higo and Isei (伊勢 ?). = *Platysoma* (*Platysoma*) *pini* Lewis, 1884

キノコエンマムシ　*Hister boleti* Lewis, 1884, Chiuzenji, and Kashiwagi in the Kii peninsula. = *Margarinotus* (*Ptomister*) *boleti* (Lewis, 1884)

カスガノミヤアナアキエンマムシ　*Epierus lucus* Lewis, 1884, Kasuga no Miya, at Nara.

チビケセスジエンマムシ　*Onthophilus arboreus* Lewis, 1884, The forest behind the large temple at Nara, in Hawatchi (?). = *Epiechinus arboreus* (Lewis, 1884)

ヒメチビヒラタエンマムシ　*Paromalus mendicus* Lewis, 1892, Kashiwagi and in several places in Higo. = *Platylomalus mendicus* (Lewis, 1892)

ツヤチビヒラタエンマムシ　*Paromalus viaticus* Lewis, 1892, Nikko, Oyama, Kashiwagi, Nara, Kumamoto, and Yuyama. = *Platylomalus viaticus* (Lewis, 1892)

コチビヒラタエンマムシ　*Paromalus vernalis* Lewis, 1892, Nara, Oyayama, and Yuyama.

チャイロチビヒラタエンマムシ　*Paromalus tardipes* Lewis, 1892, Miyanoshita, Kiga, Kashiwagi, and Nara. = *Eulomalus tardipes* (Lewis, 1892)

アカチビヒラタエンマムシ　*Paromalus omineus* Lewis, 1892, Ominesan.

ハスジチビヒラタエンマムシ　*Paromalus musculus* Marseul, 1873, Nara, and in several places in Kiushiu. = *Pachylomalus musculus* (Marseul, 1873)

コアカツブエンマムシ　*Abraeus mikado* Lewis, 1892, Kiga, Konosé, Nara, and in S. Yezo. = *Bacanius* (*Bacanius*) *mikado* (Lewis, 1892)

オニナガエンマムシ　*Platylister niponensis* Lewis, 1906, Kioto, Japan. = *Platylister cambodjense* (Marseul, 1864)

オオナガエンマムシ　*Platysoma lewisi* Marseul, 1873, Hiogo et Nangasaki. = *Niposoma lewisi* (Marseul, 1873)

ツヤマルエンマムシ　*Hister pirithous* Marseul, 1873, Hiogo et Nangasaki. = *Atholus pirithous* (Marseul, 1873)

ヒメツヤエンマムシ　*Hister simplicisternus* Lewis, 1879, Hiogo.

Staphylinidae

シラオビシデムシモドキ　*Nodynus leucofasciatus* Lewis, 1879, Yamato.

オサシデムシモドキ　*Trygaeus princeps* Sharp, 1874, in the wood around Maiyasan Temple, Hiogo. = *Apatetica princeps* (Sharp, 1874)

ダイコクアリヅカムシ　*Bryaxis princeps* Sharp, 1874, Maiyasan Temple, Hiogo (Lewis reported.). = *Rybaxis princeps* (Sharp, 1874)

ヒゲブトエクボアリヅカムシ　*Tmesiphorus speratus* Sharp, 1874, Maiyasama, Hiogo. = *Raphitreus speratus* (Sharp, 1874)

アナズアリヅカムシ　*Batrisus dissimilis* Sharp, 1874, Maiyasama, Kobé. = *Batrisceniola dissimilis* (Sharp,

1874)

ナミエンマアリヅカムシ　*Bryaxis alienus* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki. = *Trissemus alienus* (Sharp, 1874)

マルムネアリヅカムシ　*Bryaxis protervus* Sharp, 1874, Kobé. = *Triomicrus protervus* (Sharp, 1874)

ハラクボアリヅカムシ　*Tyrus japonicus* Sharp, 1883, Nagasaki; Hitoyoshi; Kobé; Wada togé. = *Batriscenellus japonicus* (Sharp, 1883)

アラメハラクボアリヅカムシ　*Batrisus puncticollis* Sharp, 1883, Kashiwagi. = *Batriscenellus puncticollis* (Sharp, 1883)

ホソハラクボアリヅカムシ　*Batrisus fragilis* Sharp, 1883, Yokohama; Kioto; Niigata. = *Batriscenellus fragilis* (Sharp, 1883)

ヒメセミゾハネカクシ　*Falagria simplex* Sharp, 1874, Hiogo. = *Falagrioma simplex* (Sharp, 1874)

チャバネニセキノコハネカクシ　*Megacronus princeps* Sharp, 1874, Kawatch. = *Bolitobius princeps* (Sharp, 1874)

ムネビロハネカクシ　*Algon grandicollis* Sharp, 1874, Copper Temple, Nagasaki, also at Maiyasama, Hiogo.

クシヒゲハネカクシ　*Velleius pectinatus* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki. = *Quedius* (*Velleius*) *pectinatus* (Sharp, 1874)

ヤマトオオメハネカクシ　*Quedius juno* Sharp, 1874, Yamato. = *Indoquedius juno* (Sharp, 1874)

アカバツヤムネハネカクシ　*Quedius japonicus* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki.

ルイスツヤムネハネカクシ　*Quedius lewisius* Sharp, 1874, Hiogo.

ハイイロハネカクシ　*Eucibedelus japonicus* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki.

オオアカバハネカクシ　*Goerius carinatus* Sharp, 1874, Maiyasan. = *Agelosus carinatus* (Sharp, 1874)

クロサビイロマルズオオハネカクシ　*Ocypus lewisius* Sharp, 1874, Kobé.

チビドウガネツツガタハネカクシ　*Ocypus parvulus* Sharp, 1874, Maiyasama. = *Aulacocypus parvulus* (Sharp, 1874)

キンバネツツガタハネカクシ　*Ocypus gloriosus* Sharp, 1874, Sakai, near Osaka. = *Aulacocypus gloriosus* (Sharp, 1874)

オオアカバコガシラハネカクシ　*Philonthus spinipes* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki.

オオズニセコガシラハネカクシ　*Philonthus parcus* Sharp, 1874, Hiogo. = *Bisnius parus* (Sharp, 1874)

チャバネホソコガシラハネカクシ　*Philonthus egens* Sharp, 1874, Hiogo. = *Gabrius egens* (Sharp, 1874)

フタイロコガシラハネカクシ　*Philonthus kobensis* Sharp, 1874, Kobé.

アカバヒメホソハネカクシ　*Philonthus pumilus* Sharp, 1874, Osaka. = *Neobisnius pumilus* (Sharp, 1874)

ウスアカバホソハネカクシ　*Othius medius* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki.

オオキバネナガハネカクシ　*Xantholinus japonicus* Sharp, 1874, Simabara and Hiogo. = *Megalinus japonicas* (Sharp, 1874)

ズグロヒメナガハネカクシ　*Xantholinus* (?) *angustus* Sharp, 1874, Hiogo. = *Leptacinus angustus* (Sharp, 1874)

ナガハネカクシ　*Lathrobium digne* Sharp, 1874, Tango and Hiogo. = *Lathrobium dignum* Sharp, 1874

アカバチビナガハネカクシ　*Lathrobium kobense* Sharp, 1874, Kobé.

マルズハネカクシ　*Lathrobium crassicorne* Sharp, 1874, Maiyasama, Hiogo. = *Domene crassicornis* (Sharp,

1874)

アカバナガエハネカクシ　*Cryptobium pectorale* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki. = *Ochthephilum pectorale* (Sharp, 1874)

チビクビボソハネカクシ　*Scopaeus virilis* Sharp, 1874, Hiogo and Arima.

ネアカトガリハネカクシ *Lithocharis lewisia* Sharp, 1874, Kobé. = *Medon lewisius* (Sharp, 1874)

タチゲクビボソハネカクシ　*Acanthoglossa* (?) *setigera* Sharp, 1874, Maiyasama, Hiogo. = *Sunesta setigera* (Sharp, 1874)

アバタコバネハネカクシ *Mesunius wollastoni* Sharp, 1874, Maiyasama, Hiogo. = *Nazeris wollastoni* (Sharp, 1874)

オオアリガタハネカクシ　*Paederus poweri* Sharp, 1874, Kawatchi. = *Paederus* (*Megalopaederus*) *poweri* Sharp, 1874

アカバクビブトハネカクシ　*Pinophilus rufipennis* Sharp, 1874, Hiogo and Nagasaki.

フタホシメダカハネカクシ　*Stenus tenuipes* Sharp, 1874, Hiogo, and also at Kiu Kiang, China.

ホソフタホシメダカハネカクシ　*Stenus alienus* Sharp, 1874, Simabara and Osaka.

ホソマメメダカハネカクシ　*Stenus oblitus* Sharp, 1874, Kobé.

トビイロメダカハネカクシ　*Stenus rufescens* Sharp, 1874, Maiyasama.

ヒゲナガカワベハネカクシ　*Bledius orphanus* Sharp, 1874, Kobé.

アカセスジハネカクシ　*Oxytelus laevior* Sharp, 1874, Hiogo. = *Oxytelus incisus* Motschulsky, 1858

セスジハネカクシ *Oxytelus cognatus* Sharp, 1874, Nagasaki and Hiogo. = *Anotylus cognatus* (Sharp, 1874)

ルイスムネボソヨツメハネカクシ　*Boreaphilus lewisianus* Sharp, 1874, Kobé.

フタモンヨツメハネカクシ　*Lesteva fenestrata* Sharp, 1874, Kawatchi.

クロヒゲアリノスハネカクシ　*Myrmedonia fugax* Sharp, 1888, Kioto. = *Zyras fugax* (Sharp, 1888)

シロヒゲアリノスハネカクシ　*Myrmedonia particornis* Sharp, 1888, Kioto. = *Zyras particornis* (Sharp, 1888)

クサアリセミゾハネカクシ　*Falagria myrmecophila* Sharp, 1888, Kashiwagi, Nara, Sheba, Shimonosuwa, Bukenji, Sapporo. = *Falagrioma myrmecophila* (Sharp, 1888)

ハラモンムネクボハネカクシ　*Bolitochara varipes* Sharp, 1888, Kashiwagi.

コゲチャクチキハネカクシ　*Tachyusida velox* Sharp, 1888, Kashiwagi.

クロヒゲヒメキノコハネカクシ　*Conosoma armatum* Sharp, 1888, Kashiwagi, Nikko, and Oyama. = *Sepedophilus armatus* (Sharp, 1888)

ニセハネモンハネカクシ *Bolitobius pallidiceps* Sharp, 1888, Kashiwagi. = *Lordithon* (*Lordithon*) *pallidiceps* (Sharp, 1888)

ハラグロキノコハネカクシ　*Bolitobius felix* Sharp, 1888, Nikko, Yuyama, Kashiwagi, and Nara. = *Lordithon bicolor* (Gravenhorst, 1806)

アカチャキノコハネカクシ　*Megacronus prolongatus* Sharp, 1888, Nara, Chiuzenji. = *Bolitobius prolongatus* (Sharp, 1888)

アカイクビハネカクシ　*Megacronus gracilis* Sharp, 1888, Kobé, Fukushima. = *Bryoporus gracilis* (Sharp, 1888)

チャイロツヤムネハネカクシ　*Quedius adustus* Sharp, 1889, Oyama, Nishi, Nara, Chiuzenji, Nishimura,

and Numata.

ホソチャバネコガラシハネカクシ　*Philonthus inconstans* Sharp, 1889, Osaka, Niigata, Yokohama, Oyama, Hakodate, Junsai. = *Rabigus inconstans* (Sharp, 1889)

キオビハイイロハネカクシ　*Phytolinus lewisii* Sharp, 1889, Kashiwagi; Nikko.

クサビナガエハネカクシ　*Cryptobium cuneatum* Sharp, 1889, Konosé, Ogura Lake, Otsu, Miyanoshita and at Yokohama. = *Ochthephilum cuneatum* (Sharp, 1889)

キアシナガハネカクシ　*Lathrobium pallipes* Sharp, 1889, Yokohama; Kioto; Niigata.

ホソキアシナガハネカクシ　*Lathrobium fragile* Sharp, 1889, Ogura Lake.

ヨコモントガリハネカクシ　*Medon submaculatus* Sharp, 1889, Niigata; Kashiwagi; Nagasaki.

オオクビブトハネカクシ　*Pinophilus punctatissimus* Sharp, 1889, Hitoyoshi; Ogura.

スジクロメダカハネカクシ　*Stenus anthracinus* Sharp, 1889, Oyama; Kashiwagi.

シャープメダカハネカクシ　*Stenus laborator* Sharp, 1889, Yokohama; Osaka.

オオキバハネカクシ　*Oxyporus japonicus* Sharp, 1889, South Yezo; Kawatchi.

ニセユミセミゾハネカクシ　*Trogophloeus vagus* Sharp, 1889, Yokohama; Nagasaki; Ogura Lake; Niigata. = *Carpelimus vagus* (Sharp, 1889)

ホソヒメユミセミゾハネカクシ　*Trogophloeus sedatus* Sharp, 1889, Nagasaki and Kobè. = *Carpelimus sedatus* (Sharp, 1889)

ホソヒラタハネカクシ　*Siagonium gracile* Sharp, 1889, Nagasaki, Kashiwagi, Nara, Kurigahara, Miyanoshita.

ヤマトホソスジハネカクシ　*Thoracophorus certatus* Sharp, 1889, Nishimura, Oyayama, Kashiwagi, Nara.

ニホンカクムネツツハネカクシ　*Lispinus aper* Sharp, 1889, Miyanoshita, Nagasaki, Oyayama, Kashiwagi. = *Neolosus aper* (Sharp, 1889)

クロミズギワヨツメハネカクシ　*Anthophagus caliginosus* Sharp, 1889, Hiogo. = *Psephidonus caliginosus* (Sharp, 1889)

ムナクボヨツメハネカクシ　*Omalium niponense* Sharp, 1889, Kashiwagi.

ヘリアカデオキノコ　*Scaphidium reitteri* Lewis, 1879, Hiogo.

ツブデオキノコ　*Scaphosoma lewis* Achard, 1923, Hakodate, Kobe, Nagasaki. = *Pseudobironium lewis* (Achard, 1923)

ガロアケシデオキノコ　*Scaphisoma galloisi* Achard, 1923, Hiogo, Chuzenji.

Scarabaeidae

ヒメエンマコガネ　*Caccobius brevis* Waterhouse, 1875, Hiogo, Osaka.

ツヤエンマコガネ　*Onthophagus nitidus* Waterhouse, 1875, Hiogo and Nagasaki.

アラメエンマコガネ　*Onthophagus ocellato-punctatus* Waterhouse, 1875, Hiogo.

クロツヤマグソコガネ　*Aphodius atratus* Waterhouse, 1875, Hiogo. = *Aphodius* (*Acrossus*) *atratus* Waterhouse, 1875

コマグソコガネ　*Aphodius rufangulus* Waterhouse, 1875, Nagasaki, Hiogo, Awomori. = *Aphodius* (*Orodalus*) *pusillus rufangulus* Waterhouse, 1875

セマルオオマグソコガネ　*Aphodius major* Waterhouse, 1875, Hiogo. = *Aphodius* (*Otophorus*) *brachysomus* Solsky, 1874

スジマグソコガネ　*Aphodius rugostriatus* Waterhouse, 1875, Kobe. = *Aphodius* (*Pharaphodius*) *rugostriatus* Waterhouse, 1875

セマルケシマグソコガネ　*Psammodius rugostriatus* Waterhouse, 1875, Kobé.

クロアシナガコガネ　*Hoplia moerens* Waterhouse, 1875, Hiogo, Nagasaki. = *Hoplia* (*Hopila*) *moerens* Waterhouse, 1875

ヒゲナガビロウドコガネ　*Serica boops* Waterhouse, 1875, on Maiyasan, Hiogo.

ナラノチャイロコガネ　*Anomala pubicollis* Waterhouse, 1875, Nagasaki and Hiogo. = *Proagopertha pubicollis* (Waterhouse, 1875)

Dryopidae

ムナビロツヤドロムシ　*Elmomorphus brevicornis* Sharp, 1888, Kobé, South Japan.

Buprestidae

クリタマムシ　*Cryptodactylus gracilis* Schönfeldt, 1888, Arima, near Kobe. = *Toxoscelus auriceps* (Saunders, 1873) [Japan: taken on Maiyasan]

ブドウナガタマムシ　*Agrilus marginicollis* Saunders, 1873, Hiogo.

Elateridae

ヒゲコメツキ　*Pectocera fortunei* Candéze, 1873, Hiogo.

タテジマカネコメツキ　*Gambrinus vittatus* Candéze, 1873, Hiogo and Hong-Kong. = *Limonius vittatus* (Candéze, 1873)

フトチャイロツヤハダコメツキ　*Athous suturalis* Candéze, 1873, Hiogo. = *Harminathous suturalis* (Candéze, 1873)

ヒメクロツヤハダコメツキ　*Athous virens* Candéze, 1873, Hiogo. = *Hemicrepidius* (*Hemicrepidius*) *desertor* (Candéze, 1873)

クロツヤハダコメツキ　*Athous secessus* Candéze, 1873, Hiogo. = *Pseudathous* (*Pseudathous*) *secessus* (Candéze, 1873)

チャバネクシコメツキ　*Melanotus seniculus* Candéze, 1873, Hiogo. = *Melanotus* (*Kensakulus*) *seniculus* Candéze, 1873

コガタクシコメツキ　*Melanotus erythropygus* Candéze, 1873, Hiogo. = *Melanotus* (*Kensakulus*) *erythropygus* Candéze, 1873

コハナコメツキ　*Cardiphorus pullatus* Candéze, 1873, Hiogo. = *Paracardiophorus pullatus* (Candéze, 1873)

資料

Ometheidae

ホソホタルモドキ　*Drilonius striatulus* Kiesenwetter, 1874, Hiogo, Nagasaki.

Lycidae

クロハナボタル　*Eros coracinus* Kiesenwetter, 1874, Hiogo, Nagasaki. = *Platerous coracinus* (Kiesenwetter, 1874)

カクムネベニボタル *Celetes quadricollis* Kiesenwetter, 1874, Hiogo, Nagasaki. = *Lyponia quadricollis* (Kiesenwetter, 1874)

アカスジヒシベニボタル　*Eros velatus* Kiesenwetter, 1883, Kobe on Maiyasan. = *Dictyoptera velata* (Gorham, 1883)

Melioidae

キュウシュウツチハンミョウ　*Meloe auriculatus* Marseul, 1876, Hiogo; Osaka.

マルクビツチハンミョウ　*Meloe corvinus* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo.

Ptilodactylidae

ヒゲナガハナノミ　*Odontonyx pectinata* Kiesenwetter, 1874, Nagasaki, Miyanoshita, Kobé, and Nikko. = *Paralichas pectinatus* (Kiesenwetter, 1874)

エダヒゲナガハナノミ　*Octoglossa flabellata* Kiesenwetter, 1874, Nagasaki, Nara, and Kobé. = *Epilichas flabellatus* (Kiesenwetter, 1874)

ヒメヒゲナガハナノミ　*Drupeus laetabilis* Lewis, 1895, Kashiwagi.

タテスジヒメヒゲナガハナノミ　*Drupeus vittipennis* Lewis, 1895, Kashiwagi.

マルヒゲハナノミ　*Drupeus brevis* Lewis, 1895, Nara. = *Schinostethus brevis* (Lewis, 1895)

コヒゲナガハナノミ　*Ptilodactyla ramea* Lewis, 1895, Nagasaki, Fukushima, Oiwake, and Nara.

Cantharidae

キベリコバネジョウカイ　*Ichthyurus niponicus* Lewis, 1879, Hiogo, foot of Maiyasan. = *Trypherus niponicus* (Lewis, 1879)

セボシジョウカイ　*Cantharis vitellina* Kiesenwetter, 1874, Nagasaki, Kiga, Tokio, and Kashiwagi. = *Athemus vitellinus* (Kiesenwetter, 1874)

ムネアカクロジョウカイ　*Cantharis adusticollis* Kiesenwetter, 1874, Hiogo. = *Athemellus adusticollis* (Kiesenwetter, 1874)

クリイロジョウカイ　*Cantharis badia* Kiesenwetter, 1874, Hiogo. = *Stenothemus badia* (Kiesenwetter, 1874)

オオメコバネジョウカイ　*Biurus pennatus* Lewis, 1895, Kashiwagi, Fukushima, and other places on the Nakasendo. = *Microichthyurus pennatus* (Lewis, 1895)

コウベツマキジョウカイ　*Malthodes kobensis* Lewis, 1895, Kobé, Kashiwagi. ＝ *Malthinus kobensis* (Lewis, 1895)

Cleridae

ホソカッコウムシ　*Cladiscus obeliscus* Lewis, 1892, Nagasaki, Maiyasan near Kobé, and Fukushima.

Melyridae

クロキオビジョウカイモドキ　*Laius niponicus* Lewis, 1895, Hakodate sand-hills; also at Kobé.

コアオジョウカイモドキ　*Malachius eximius* Lewis, 1895, Nagasaki, Osaka, Nikko, Kiga, and Yokohama. = *Anhomodactylus eximius* (Lewis, 1895)

Nitidulidae

オオヒラタケシキスイ　*Aphenolia pseudosoronia* Reitter, 1885, Hiogo, Konose und Yuyama.

Phalacridae

ニセクロズマルヒメハナムシ　*Phalacrus brevidens* Champion, 1925, Japan, Nikko and Kobe.

キイロヒメハナムシ　*Heterostibus kobensis* Champion, 1925, Japan, Kobe, Kumamoto.

Helotidae

ヨツボシオオキスイ　*Helota gemmata* Gorham, 1874, Hiogo.

Mycteridae

カタアカケシジョウカイモドキ　*Omineus humeralis* Lewis, 1895, Kashiwagi, on Mount Omine, and near the Ikenchaiya.

Bostrychidae

セマダラナガシンクイ　*Apate carinipennis* Lewis, 1896, Kawatchi. = *Lichenophanes carinipennis* (Lewis, 1896)

Erotylidae

ヒメオビオオキノコ　*Episcapha fortunii* Crotch, 1873, Hiogo.

ホソチビオオキノコ　*Triplax japonica* Crotch, 1873, Nagasaki and Hiogo.

クロチビオオキノコ　*Crytotriplax niponensis* Lewis, 1874, Hiogo, Maiyasan Temple. = *Tritoma niponensis* (Lewis, 1874)

カタモンオオキノコ　*Aulacochilus japonicus* Crotch, 1873, On Maiyasan, Hiogo.

ルイスコメツキモドキ　*Languria lewisi* Crotch, 1873, Kawachi. = *Languriomorpha lewisi* (Crotch, 1873)

アカヒメコメツキモドキ　*Languria nigripes* Crotch, 1873, Nagasaki in Kushiu, Hiogo in Nipon. = *Anadastus filiformis* Fabricius, 1801

アオバヒメコメツキモドキ　*Languria praetermissa* Janson, 1873, Hiogo, one example on Maiyasan. = *Anadastus praetermissus* (Janson, 1873)

ナラコメツキモドキ　*Languria nara* Lewis, 1883, Near Nara. = *Languriomorpha nara* (Lewis, 1883)

Endomychidae

トウヨウダナエテントウダマシ　*Coniopoda orientalis* Gorham, 1873, Hiogo. = *Danae orientalis* (Gorham, 1873)

フチトリツヤテントウダマシ　*Lycoperdina dux* Gorham, 1873, Maizasau hills, Hiogo.

セグロツヤテントウダマシ　*Lycoperdina mandarinea* Gorham, 1873, Two specimens with the above (*L. dux*, Maizasau hills, Hiogo), and on from Nagasaki.

イカリモンテントウダマシ　*Mycetina ancoriger* Gorham, 1873, Nagasaki, Hiogo and Yokohama.

ムナビロテントウダマシ　*Mycetina laticollis* Gorham, 1887, Kashiwagi, Nara, Maiyasan at Kobé.

セダカテントウダマシ　*Bolbomorphus gibbosus* Gorham, 1887, Kashiwagi.

クロスジムクゲテントウダマシ　*Stenotarsus internexus* Gorham, 1887, Nagasaki, Kashiwagi.

クロモンケブカテントウダマシ　*Stenotarsus musculus* Gorham, 1887, Nagasaki, Kashiwagi. = *Ectomychus musculus* (Gorham, 1887)

カタベニケブカテントウダマシ　*Ectomychus basalis* Gorham, 1887, Kawatch, Miyanoshita, Kurigahara, Sapporo.

イツホシテントウダマシ　*Panamomus decoratus* Gorham, 1887, Oyayama, Kashiwagi. = *Leistes decoratus* (Gorham, 1887)

ハバビロテントウダマシ　*Cyanauges quadra* Gorham, 1887, Kashiwagi. = *Endomychus quadra* (Gorham, 1887)

ウスグロテントウダマシ　*Cyanauges nigropiceus* Gorham, 1887, Kashiwagi. = *Endomychus nigropiceus* (Gorham, 1887)

マルガタテントウダマシ　*Symbiotes? orbicularis* Gorham, 1887, Kashiwagi, Kurigahara. = *Bystodes orbicularis* (Gorham, 1887)

ルリテントウダマシ　*Cyanauges gorhami* Lewis, 1874, Kawatchi. = *Endomychus gorhami* (Lewis, 1874)

Coccinellidae

アカイロテントウ　*Novius concolor* Lewis, 1879, Hiogo, Maiyasan temple. = *Rodolia concolor* (Lewis, 1879)

ジュウクホシテントウ　*Anisostica kobensis* Lewis, 1896, Kawasaki, near Kobe.

Discolomidae

クロミジンムシダマシ　*Aphanocephalus hemisphaexicus* Wollaston, 1873, Kobe.

コゲチャミジンムシダマシ　*Aphanocephalus wollastoni* Rye, 1873, near Maiyasan Temple, Hiogo.

Melandryidae

ヒメホソナガクチキ　*Serropalpus filiformis* Marseul, 1876, Mai-ya-San.

クロホソナガクチキ　*Phlaeotrya rugicollis* Marseul, 1876, Mai-ya-San. = *Phloeotrya rugicollis* Marseul, 1876

カバイロニセハナノミ　*Orchesia ocularis* Lewis, 1895, Kashiwagi.

コイチャニセハナノミ　*Orchesia marseuli* Lewis, 1895, Kashiwagi, Fukushima, Chiuzenji, and Junsai.

ノミナガクチキ　*Microscapha lata* Lewis, 1895, Kashiwagi. = *Lederia lata* (Lewis, 1895)

ムツモンナガクチキ　*Dircaea validicornis* Lewis, 1895, Ikenchaiya near Kashiwagi. = *Dircaemorpha validicornis* (Lewis, 1895)

ビロウドホソナガクチキ　*Dircaea obscura* Lewis, 1895, Nikko, Miyanoshita, and Kashiwagi. = *Phloeotrya obscura* (Lewis, 1895)

セアカナガクチキ　*Ivania coccinea* Lewis, 1895, Miyanoshita, Kiga, Chiuzenji, Kashiwagi.

ヘリアカナガクチキ　*Melandrya ordinaria* Lewis, 1895, Oyayama, Kashiwagi, Maebara, and Chiuzenji. = *Prothalpia ordinaria* (Lewis, 1895)

Tenebrionidae

マルチビゴミムシダマシ *Caedius marinus* Marseul, 1876, Hiogo.

オオスナゴミムシダマシ *Opatrum* (*Gonocephalum*) *pubens* Marseul, 1876, Hiogo. = *Gonocephalum* (*Gonocephalum*) *pubens* (Marseul, 1876)

ホソスナゴミムシダマシ *Opatrum* (*Gonocephalum*) *sexuale* Marseul, 1876, Hiogo. = *Gonocephalum* (*Gonocephalum*) *sexuale* (Marseul, 1876)

オオマルスナゴミムシダマシ *Hadrus scaphoides* Marseul, 1876, Hiogo. = *Phelopatrum scaphoides* (Marseul, 1876)

ニセハマヒョウタンゴミムシダマシ *Idisia vestita* Marseul, 1876, Hiogo.

クロホシテントウゴミムシダマシ *Diaperis*? *maculipennis* Marseul, 1876, Hiogo, Mai-ya-san. = *Derispia maculipennis* (Marseul, 1876)

ベニモンキノコゴミムシダマシ *Alphitophagus japanus* Marseul, 1876, Hiogo. = *Platydema subfascia* (Walker, 1858)

ホソヒメコクヌストモドキ　*Lyphia exigua* Marseul, 1876, Hiogo.

コツヤホソゴミムシダマシ *Menephilus lucens* Marseul, 1876, Nagasaki, Hiogo.

スジコガシラゴミムシダマシ　*Heterotarsus carinula* Marseul, 1876, Japon, Osaka.

ルリスジキマワリモドキ　*Scotaeus? purpurivittatus* Marseul, 1876, Nagasaki, Hiogo. = *Pseudonautes purpurivittatus* (Marseul, 1876)

チョウセンホソクビキマワリ　*Helops rubripennis* Marseul, 1876, Hiogo, Mai-ya-San. = *Stenophanes mesostena* (Solsky, 1871)

オオクチキムシ　*Allecula vetutina* Marseul, 1876, Mai-ya-San. = *Allecula* (*Upinella*) *fuliginosa* Mäklin, 1875

ウスイロクチキムシ　*Allecula? bilamellata* Marseul, 1876, Hiogo. = *Allecula* (*Allecula*) *bilamellata* Marseul, 1876

トビイロクチキムシ　*Allecula curalis* Marseul, 1876, Hiogo. = *Borboresthes curalis* (Marseul, 1876)

クリイロクチキムシ　*Allecula acicularis* Marseul, 1876, Hiogo. = *Borboresthes acicularis* (Marseul, 1876)

ホソアカクチキムシ　*Allecula tenuis* Marseul, 1876, Hiogo. = *Allecula* (*Allecula*) *tenuis* Marseul, 1876

アカバネツヤクチキムシ　*Cistela* (*Gonodera*) *rufipennis* Marseul, 1876, Nagasaki, Hiogo. = *Hymenalia* (*Hymenalia*) *rufipennis* (Marseul, 1876)

ムナビロクチキムシ　*Hymenorus veterator* Lewis, 1895, Nikko, and Maiyasan near Kobé.

アカガネハムシダマシ　*Lagria decora* Marseul, 1876, Hiogo. = *Arthromacra decora* (Marseul, 1876)

キマワリ　*Plesiophthalmus sericeifrons* Marseul, 1876, Niphon (Hiogo). = *Plesiophthalmus nigrocyaneus* Motschulsky, 1862

キマワリ *Plesiophthalmus aenescens* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo. = *Plesiophthalmus nigrocyaneus* Motschulsky, 1862

ホソハマベゴミムシダマシ　*Micropedinus algae* Lewis, 1894, Kobé. = *Micropedinus pullulus* (Boheman, 1858)

ヒメホソハマベゴミムシダマシ　*Micropedinus pallidipennis* Lewis, 1894, Kobé.

スナゴミムシダマシ　*Opatrum expansicolle* Lewis, 1894, Kiga, Kobé, Arima, and on Maiyasan. =

Gonocephalum (*Gonocephalum*) *japanum* Motschulsky, 1861

スジスナゴミムシダマシ　*Opatrum orarium* Lewis, 1894, Kobé. = *Gonocephalum* (*Gonocephalum*) *bilineatum* (Walker, 1858)

チビコブツノゴミムシダマシ　*Byrsax niponicus* Lewis, 1894, Nara.

テントウゴミムシダマシ　*Leiochrinus satsumae* Lewis, 1894, Yuyama, Hitoyoshi, Fukahori, and Nara.

クロテントウゴミムシダマシ　*Leiochrodes convexus* Lewis, 1894, Nagasaki and Kioto. = *Ades convexus* (Lewis, 1894)

クロキノコゴミムシダマシ　*Platydema fumosum* Lewis, 1894, Kioto and Nara. = *Platydema fumosa* Lewis, 1894

ホソモンツヤゴミムシダマシ　*Scaphidema pictipenne* Lewis, 1894, Nara. = *Scaphidema pictipennis* Lewis, 1894

ウスモンツヤゴミムシダマシ　*Scaphidema discale* Lewis, 1894, Kashiwagi, Kiga, and Nikko. = *Scaphidema discalis* Lewis, 1894

オニツノゴミムシダマシ　*Toxicum funginum* Lewis, 1894, Ichiuchi, Nara, and near the lake of Ogura.

ミツノゴミムシダマシ　*Toxicum tuberculifrons* Lewis, 1894, Oyayama, Tokio (Tanaka), and Nara. = *Toxicum tricornutum* Waterhouse, 1874

ヒメユミアシゴミムシダマシ　*Setenis noctivigilus* Lewis, 1894, Oyayama and Kashiwagi. = *Promethis noctivigila* (Lewis, 1894)

マルムネゴミムシダマシ　*Lamperos cordicollis* Lewis, 1894, Yuyama, Nagasaki, Kobé (on Maiyasan), Oyama, and near Kadzusa. = *Tarpela cordicollis* (Marseul, 1876)

ヒメマルムネゴミムシダマシ　*Lamperos elegantulus* Lewis, 1894, Hakone, Miyanoshita, Nikko, and near Kashiwagi. = *Tarpela elegantula* (Lewis, 1894)

ツヤヒサゴゴミムシダマシ　*Helops clavicrus* Marseul, 1876, Hiogo. = *Misolampidius okumurai* Nakane, 1968

ヒメナガキマワリ　*Strongylium impigrum* Lewis, 1894, Yuyama, Ichiuch, Hitoyoshi, Kashiwagi, Miyanoshita, and Nikko.

クロナガキマワリ　*Strongylium niponicum* Lewis, 1894, Nikko, Kashiwagi, Tsukubayama near Tokio, and Sado.

ウスイロゴミムシダマシ　*Strongylium brevicorne* Lewis, 1894, Nara, Kashiwagi, and Nagasaki.

アカガネハムシダマシ　*Arthromacra decora* Lewis, 1895, Kobé, near the base of Maiyasan. = *Arthromacra decora* (Marseul, 1876)

ホソクロクチキムシ　*Allecula noctivaga* Lewis, 1895, Kashiwagi. = *Allecula* (*Allecula*) *noctivaga* Lewis, 1895

ウスイロクチキムシ　*Allecula simiola* Lewis, 1895, Kashiwagi and Nikko. = *Allecula* (*Allecula*) *simiola* Lewis, 1895

ヨツボシヒメクチキムシ　*Mycetochares collina* Lewis, 1895, Kashiwagi. = *Mycetochara* (*Mycetochara*) *collina* (Lewis, 1895)

Oedemeridae

アオカミキリモドキ　*Xanthochroa cyanipennis* Marseul, 1876, Osaka. = *Nacerdes* (*Xanthochroa*) *waterhousei* (Harold, 1875)

ツノカミキリモドキ　*Patiala antennata* Lewis, 1895, Nara. = *Xanthochoa antennata* (Lewis, 1895)

ハラグロランプカミキリモドキ　*Eobia florilega* Lewis, 1895, Kobé.

キアシカミキリモドキ　*Oedemera manicata* Lewis, 1895, Plain of Fujisan, Nikko, Miyanoshita, Kashiwagi, and Oyama. = *Oedemeronia manicata* (Lewis, 1895)

Pyrochroidae

オオクビボソムシ　*Macratria gigas* Marseul, 1876, Awomori et Kawachi. = *Stereopalpus gigas* (Marseul, 1876)

アカクビボソムシ　*Macratria serialis* Marseul, 1876, Hiogo, Mai-ya-san.

オビクビボソムシ　*Macratria cingulifera* Marseul, 1876, Hiogo.

ヘリハネムシ　*Ischalia patagiata* Lewis, 1879, Hiogo and Nagasaki.

Anthicidae

ケオビアリモドキ　*Formicomus cribriceps* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo. = *Anthelephila cribriceps* (Marseul, 1876)

ミツヒダアリモドキ　*Formicomus trigibber* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo. = *Pseudoleptaleus trigibber* (Marseul, 1876)

チビイッカク　*Mecynotarsus minimus* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo.

ウスイロホソアリモドキ　*Anthicus lepidulus* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo.

アカモンホソアリモドキ　*Anthicus scoticus* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo. = *Sapintus marseuli* (Pic, 1893)

ヒゲブトホソアリモドキ　*Anthicus monstrosicornis* Marseul, 1876, Nagasaki et Hiogo.

コクロホソアリモドキ　*Anthicus pilosus* Marseul, 1876, Hiogo.

ヘリアカアリモドキ　*Anthicomorphus suturalis* Lewis, 1895, Oyayama, Miyanoshita, Tsukubayama, and Kashiwagi.

クロチビアリモドキ　*Anthicomorphus niponicus* Lewis, 1895, Hitoyoshi, Ichiuchi, Fukushima, Kashiwagi, Nikko, and Junsai.

モモキアリモドキ　*Anthicomorphus cruralis* Lewis, 1895, Nara, Hitoyoshi, and Oyayama.

クロオビチビアリモドキ　*Anthicomorphus puberulus* Marseul, 1876, Kobé.

ムナグロホソアリモドキ　*Anthicus cohaeres* Lewis, 1895, Yokohma, Kobé on Maiyasan, and Usui-togé. = *Sapintus cohaeres* (Lewis, 1895)

ヒラタホソアリモドキ　*Anthicus perileptoides* Lewis, 1895, Kobé.

ウスモンホソアリモドキ　*Anthicus confucii* Marseul, 1876, Hiogo, Nagasaki.

Cerambycidae

ヨコヤマヒメカミキリ　*Ceresium holophaeum* Bates, 1873, Hiogo.

アメイロカミキリ　*Stenodryas clavigera* Bates, 1873, Hiogo.

ホソカミキリ　*Distenia japonica* Bates, 1873, Maiyasan, Hiogo.

ミドリカミキリ　*Callichroma* (*Chloridolum*) *tenuatum* Bates, 1873, Kobe. = *Chloridorum* (*Leontium*) *virde* (Thomson, 1864)

フタオビミドリトラカミキリ　*Clytanthus muscosus* Bates, 1873, Hiogo. = *Chlorophorus muscosus* (Bates, 1873)

セダカコブヤハズカミキリ　*Echthistatus gibber* Bates, 1873, Maiyasan and Kawatchi. = *Parechthistatus gibber gibber* (Bates, 1873)

ビロウドカミキリ　*Monohamus fraudator* Bates, 1873, Nagasaki and Hiogo. = *Acalolepta fraudatrix fraudatrix* (Bates, 1873)

ニセビロウドカミキリ　*Monohamus sejunctus* Bates, 1873, Nagasaki and Hiogo. = *Acalolepta sejuncta sejuncta* (Bates, 1873)

ナガゴマフカミキリ　*Mesosa longipennis* Bates, 1873, Hiogo. = *Mesosa* (*Aplocnemia*) *longipennis* Bates, 1873

セミスジコブヒゲカミキリ　*Rhodopis lewisi* Bates, 1873, Hiogo. = *Rhodopina lewisii* (Bates, 1873)

ハイイロヤハズカミキリ　*Aelara furcata* Bates, 1873, Hiogo. = *Niphona* (*Niphona*) *furcata* (Bates, 1873)

ナカジロサビカミキリ　*Praonetha jugosa* Bates, 1873, Hiogo, Nagasaki. = *Pterolophia* (*Ale*) *jugosa* (Bates, 1873)

アトモンサビカミキリ　*Praonetha rigida* Bates, 1873, Hiogo, Nagasaki. = *Pterolophia* (*Pterolophia*) *granulata* (Motschulsky, 1866)

アヤモンチビカミキリ　*Sybra ordinata* Bates, 1873, Hiogo. = *Sybra ordinata ordinata* Bates, 1873

ヒメアヤモンチビカミキリ　*Sybra cribrella* Bates, 1873, Moon-temple, Kobé. = *Neosybra cribella* (Bates, 1873)

ヒシカミキリ　*Microlera ptinoides* Bates, 1873, Hiogo.

コブスジサビカミキリ　*Atimura japonica* Bates, 1873, Hiogo.

ネジロカミキリ　*Pogonocherus seminiveus* Bates, 1873, Yokohama; Hiogo.

ハスオビヒゲナガカミキリ　*Smermus* (?) *bimaculatus* Bates, 1873, Maiyasan. = *Cleptometops bimaculatus* (Bates, 1873)

ナカバヤシモモブトカミキリ　*Leiopus guttatus* Bates, 1873, Hiogo. = *Acanthocinus guttatus* (Bates, 1873)

キクスイモドキカミキリ　*Asaperda rufipes* Bates, 1873, Hiogo.

ヤツメカミキリ　*Glenea ocelota* Bates, 1873, Hiogo. = *Eutetrapha ocelota* (Bates, 1873)

ニセシラホシカミキリ　*Phytoecia simulans* Bates, 1873, Moon-temple, Osaka. = *Pareutetrapha simulans* (Bates, 1873)

リンゴカミキリ　*Oberea japonica* Bates, 1873, Hiogo. (= *O. niponensis*) = *Oberea japonica* (Thunberg, 1787)

ヒメリンゴカミキリ　*Oberea hebescens* Bates, 1873, Hiogo.

ニセリンゴカミキリ　*Oberea mixta* Bates, 1873, Simabara, Osaka.

ヘリグロリンゴカミキリ　*Oberea marginella* Bates, 1873, Osaka, Hiogo. = *Nupserha marginella* (Bates, 1873)

テツイロハナカミキリ　*Encyclops olivaceus* Bates, 1884, Chiuzenji and Omine.

チャボハナカミキリ　*Leptura misella* Bates, 1884, Kashiwgi; Wada-togé. = *Pseudalosterna misella* (Bates, 1874)

オオハナカミキリ　*Leptura granulata* Bates, 1884, Sapporo; Yani [= Yagi]. = *Konoa granulata* (Bates, 1884)

ミヤマホソハナカミキリ　*Strangalia contracta* Bates, 1884, Kashiwagi; Niohozan and Wada-togé. = *Idiostrangalia contracta* (Bates, 1884)

オオヨツスジハナカミキリ　*Strangalia regalis* Bates, 1884, Sapporo; Iga. = *Macroleptura regalis* (Bates, 1884)

オオアオカミキリ　*Chloridolum thaliodes* Bates, 1884, Sapporo; Kobe.

アオカミキリ　*Chelidonium quadricolle* Bates, 1884, Nara; Junsai; Sapporo; Tokio. = *Schwazerium quadricollis* (Bates, 1884)

マヤサンコブヤハズカミキリ　*Echthistatus furciferus* Bates, 1884, Hiogo, on Maigasan [= Maiyasan]. = *Mesechthistatus furciferus furciferus* (Bates, 1884)

ゴマフキマダラカミキリ　*Uraecha griseola* Bates, 1884, Kashiwagi. = *Annamanum griseolum* (Bates, 1884)

カタシロゴマフカミキリ　*Mesosa hirsuta* Bates, 1884, Kobé. = *Mesosa* (*Perimesosa*) *hirsuta* Bates, 1884

ホソヒゲケブカカミキリ　*Eupogonius tenuicornis* Bates, 1884, Nishimura; Kashiwagi. = *Eupogoniopsis tenuicornis* (Bates, 1884)

ゴイシモモブトカミキリ　*Callapoecus guttatus* Bates, 1884, Nara.

ヒゲナガヒメルリカミキリ　*Praolia citrinipes* Bates, 1884, Kashiwagi.

Chrysomelidae

シロモンマメゾウムシ　*Bruchus comptus* Sharp, 1886, Kobe, Hosokute. = *Bruchidium comptus* (Sharp, 1886)

シャープマメゾウムシ　*Pygobruchus scutollaris* Sharp, 1886, Kobe. = *Kytorhinus sharpianus* Bridwell, 1932

ヨツボシアカツツハムシ　*Coptocephala orientalis* Baly, 1873, Hiogo.

カシワツツハムシ　*Cryptocephalus scitulus* Baly, 1873, Hiogo.

キアシルリツツハムシ　*Cryptocephalus fortunatus* Baly, 1873, Hiogo.

スゲクビボソハムシ　*Lema dilecta* Baly, 1873, Hiogo.

ネクイハムシ　*Donacia aeraria* Baly, 1873, Nagasaki, Hiogo. = *Donacia* (*Cyphogaster*) *lenzi* Schönfeldt, 1888

フタモンアラゲサルハムシ　*Demotina bipunctata* Jacoby, 1885, Kobe.

ムナグロツヤハムシ　*Arthrotus variabilis* Baly, 1874, Nagasaki, Yokohama, Hiogo. = *Arthrotus niger* Motschulsky, 1857

クワハムシ　*Aenida armata* Baly, 1874, Nagasaki, Hiogo, Tsushima: Manchuria. = *Fleutiauxia armata* (Baly, 1874)

ブチヒゲケブカハムシ　*Galleruca annulicornis* Baly, 1874, Hiogo. = *Pyrrhalta annulicornis* (Baly, 1874)

クロバヒゲナガハムシ　*Aenidea tibialis* Jacoby, 1885, Nara, Kobe, Maiya-san, Nikko. = *Taumacera tibialis*

(Jacoby, 1885)

ルリウスバハムシ　*Arthrotus cyaneus* Baly, 1874, Hiogo. = *Stenoluperus cyanea* (Baly, 1874)

キバネマルノミハムシ　*Sebaethe flavipennis* Baly, 1874, Nagasaki, Hiogo. = *Hemipyxis flavipennis* (Baly, 1874)

キアシノミハムシ　*Phyllotreta tenebrosa* Jacoby, 1885, Kobe, Kumamoto, Yuyama. = *Luperomorpha tenebrosa* (Jacoby, 1885)

ヒメキベリトゲハムシ　*Hispa japonica* Baly, 1874, Hiogo, Kawachi; China. = *Dactylispa angulosa* (Solsky, 1871)

カタビロトゲハムシ　*Hispa subquadrate* Baly, 1874, Nagasaki, Hiogo. = *Dactylispa subquadrate* (Baly, 1874)

ルイスジンガサハムシ　*Coptocycla lewisii* Baly, 1874, Hiogo. = *Thlaspida lewisii* (Baly, 1874)

Anthribidae

アカアシヒゲナガゾウムシ　*Araeocerus tarsalis* Sharp, 1891, Kobé. = *Aracerus tarsalis* (Sharp, 1891)

キマダラヒゲナガゾウムシ　*Tropiderus germanus* Sharp, 1891, Moon Temple Kobe. = *Tropiders naevulus* Faust, 1887

シロヒゲナガゾウムシ　*Anthribus daimio* Sharp, 1891, Kobe, Yokohama, Kurigahara, Junsai. = *Platystomus sellatus* (Roelofs, 1879)

Curculionidae

エゴツルクビオトシブミ　*Apoderus nitens* Roelofs, 1874, Hiogo, Yokohama et Hakodadi. = *Cycynotrachelus roelofsi* (Harold, 1877)

ヒゲナガオトシブミ　*Apoderus nitens* Roelofs, 1874, Hiogo. = *Paracycnotrachelus longicornis* (Roelofs, 1874)

ケシルリオトシブミ　*Attelabu politus* Roelofs, 1874, Kobe. = *Euops* (*Synaptops*) *politus* (Roelofs, 1874)

カシルリオトシブミ　*Attelabu* (*Euscelus*?) *splendens* Roelofs, 1874, Hiogo. = *Euops* (*Synaptops*) *splendida* Voss, 1927

キアシホソチョッキリ　*Eugnamptus flavipes* Sharp, 1889, Kobé and Fukushima. = *Eugnamptus* (*Eugnamptobius*) *flavipes* Sharp, 1889

ハイイロチョッキリ　*Rhynchites ursulus* Roelofs, 1874, Hiogo. = *Mecorhis* (*Cyllorhynchites*) *ursulus* (Roelofs, 1874)

マダラケブカチョッキリ　*Rhynchites singularis* Roelofs, 1874, Hiogo. = *Involvulus* (*Cartorhynchites*) *singularis* (Roelofs, 1874)

アルマンサルゾウムシ　*Ceuthorrhynchus harmandi* Hustache, 1916, Kobé. = *Wagnerinus harmandi* (Hustache, 1916)

クワヒョウタンゾウムシ　*Scepticus insularis* Roelofs, 1873, Hiogo.

ゴボウゾウムシ　*Larinus latissimus* Roelofs, 1873, Hiogo.

フタキボシゾウムシ　*Lepyrus japonicus* Roelofs, 1873, Hiogo.

ヒサゴアナアキゾウムシ　*Molytes lewisii* Roelofs, 1873, Hiogo. = *Kyliparus lewisii* (Roelofs, 1873)

クリアナアキゾウムシ　*Hylobius exculptus* Roelofs, 1875, Kioto, Hiogo. = *Dyscerus exsculptus* (Roelofs,

1875)

アトキリキクイゾウムシ　*Coprodema calandraeformis* Wollaston, 1873, Nagasaki; Hiogo.

ツヤケシツブゾウムシ　*Exodema sublutosa* Wollaston, 1873, Hiogo.

ワシバナヒメキクイゾウムシ　*Phloeophagosoma curvirostre* Wollaston, 1873, Hiogo. = *Phloeophagosoma* (*Amorphorhynchus*) *curvirostre* Wollaston, 1873

マツオオキクイゾウムシ　*Macrorhyncolus crassiusculus* Wollaston, 1873, Hiogo.

ムツヒゲキクイゾウムシ　*Hexarthrum brevicorne* Wollaston, 1873, Hiogo.

マツクチブトキクイゾウムシ　*Stenoscelis gracilitarsis* Wollaston, 1873, Hiogo.

キスジアシナガゾウムシ　*Alcides flavosignatus* Roelofs, 1875, Kobé. = *Mecysolobus flavosignatus* (Roelofs, 1875)

ナカスジカレキゾウムシ　*Acicnemis suturalis* Roelofs, 1875, Kobé.

マダラクチカクシゾウムシ　*Coelosternus* (?) *electus* Roelofs, 1875, Kobé. = *Cryptorhynchus electus* (Roelofs, 1875)

マツノヒロスジキクイムシ　*Hylastes obscurus* Chapuis et Eichhoff, 1875, Nagasaki et à Hiogo. = *Hylastes plumbeus* Blandford, 1894 (as a homonym)

ヒノキノキクイムシ　*Phloeosinus rudis* Blandford, 1894, Kashiwagi and Kobe.

ヒバノキクイムシ　*Phloeosinus perlatus* Chapuis et Eichhoff, 1875, Hiogo.

キクイサビゾウムシ　*Tetratemnus sculpturatus* Wollaston, 1873, Hiogo, in ins. Nipon; Nagasaki, in ins. Kushiu. = *Dryophthorus sculpturatus* (Wollaston, 1873)

参考文献

Baly, S. J., 1873. Catalogue of the Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1873**: 69–99.

Bates, H. W., 1873. On the Geodephagous Coleoptera of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1873**: 219–322.

Bates, H. W., 1873. On the Longicorn Coleoptera of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (4)**12**: 148–156, 193–201, 308–318, 381–390.

Bates, H. W., 1874. Notes on Cicindelidae and Carabidae, and descriptions of new species (no. 17). *The Entomologist's Monthly Magazine*, 11[1874-1875]: 22–28.

Bates H. W., 1883. XI. Supplement to the Geodephagous Coleoptera of Japan, chiefly from the collection of Mr. George Lewis, made during his second visit, from February, 1880, to September, 1881. *Transactions of the Royal Entomological Society of London*, **31**: 205–290.

Bates, H. W., 1884. Longicorn beetles of Japan. Additions, chiefly from the lator collections of Mr. George Lewis: and notes on the synonymy, distribution, and habitus of the previously known species. *The Journal of the Linnean Society of London*, *Zoology*, **18**: 205–262.

Chapuis, F. et W. Eichhoff, 1875. Scolytides recueillis au Japon par M. G. Lewis. *Annales de la société entomologique de Belgique*, **18**: 195–203.

Crotch, G. R., 1873. A descriptive list of Erotylidae collected by Geo. Lewis, Esq., in Japan (with addenda to the genus *Languria* by E. W. Janson and C. O. Waterhouse). *The Entomologist's Monthly Magazine*, **9**: 184–189.

Gorham, H. S., 1873. A list of Endomychidae collected in Japan by Geo. Lewis, Esq. with descriptions of new genera and

species. *Entomologist's Monthly Magazine*, **9**: 205–207.

Gorham, H. S., 1887. Revision of the Japanese species of the Coleopterous Family Endomychidae. *Proceedings of the Scientific Meetings of the Zoological Society of London*, **1887**: 642–653.

Kiesenwetter, H., 1879. Coleoptera Japoniae collecta a Domino Lewis et aliis. *Deutsche Entomologische Zeitschrift*, **23**: 305–320.

Lewis, G., 1874. Description of a new genus and species of Coleoptera from Japan. *The Entomologist's Monthly Magazine*, **11**: 54–55.

Lewis, G., 1879. On certain new species of Coleoptera from Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (5)4: 459–467.

Lewis, G., 1883. Japanese Languriidae, with notes on their habits and external sexual structure. *The Journal of the Linnean Society of London*, **17**: 347-361.

Lewis, G., 1884. On some Histeridae new to the Japanese fauna, and notes of others. *Annals and Magazine of Natural History*, (5) 13: 131-140.

Lewis, G., 1892. On some Japanese species of *Paromalus*. *Annals and Magazine of Natural History*, (6) **9**: 32–38.

Lewis, G., 1892. On some new species of Histeridae. *Annals and Magazine of Natural History*, (6) **9**: 341–357.

Lewis, G., 1894. On the Tenebrionidae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)**13**: 377–400, 465–484.

Lewis, G., 1895. On the Cistelidae and other Heteromerous species of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)**15**: 250–284, 422–448.

Lewis, G., 1895. On the Dascillidae and *Malacoderm* Coleoptera of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)**16**: 98–122.

Lewis, G., 1906. On new species of Histeridae and notices of others. *Annals and Magazine of Natural History*, (7)**18**: 397–403.

Marseul, M. S.-A., 1873. Coléoptères du Japon recueillis par M. Georges Lewis. Énumeration des Hétéromères avec la Description des espèces Nouvelles. *Annales de la Société entomologique de France*, (5)**3**: 219–230.

Marseul, M. S.-A., 1876. Coléoptères du Japon recueillis par M. Georges Lewis. 2e Mémoire (1). Énumeration des Hétéromères avec la Description des espèces Nouvelles. *Annales de la Société entomologique de France*, (5)**6**: 93-142, 315-340, 447-486.

Putzeys, M., 1875. Notice sur les Carabiques recueillis par M. Jean Van Volxem a Ceylan, a Manille, en Chine et au Japon (1873–1874). *Comptes-Rendus des Séances de la Société Entomologique de Belgique, 1875 in Annales de la Société Entomologique de Belgique*, **XVIII**: XLV–LV.

Roelofs, W., 1875. Curculionides recueillis au Japon par M. G. Lewis. *Annales de la Société Entomologique de Belgique*, **18**: 150–194.

Rye, E. C., 1873. Descriptions of a new species of *Damaster* from Japan. *The Entomologist's Monthly Magazine*, **9**: 131–133.

Sharp, D., 1873. The Water Beetles of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1873**: 45–67.

Sharp, D., 1874. The Staphylinidae of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1874**: 1–103.

Sharp, D., 1874. The Pselaphidae and Scydmaenidae of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1874**: 105–130.

Sharp, D., 1874. Some additions to the Coleopterous Fauna of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1874**: 417–423.

Sharp. D., 1883. Revision of the Pselaphidae of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1883**: 291–331.

Sharp, D., 1888. The Staphylinidae of Japan. *Annals and Magazine of Natural History*, (6)**2**: 277–295, 363–387, 451–464; 1889, (6)**3**: 28–44, 108–121, 249–267, 319–334, 406–419, 463–476.

Wollaston, T. V., 1873. On the Cossonidae of Japan. *Transactions of the Entomological Society of London*, **1873**: 5–43.

関西の地名が付けられた甲虫

日本における甲虫類は，約1万種以上が認められており，その中には地名に関する名前（和名，学名）が付けられているものもある．本資料では，近畿地方2府4県の地名に因んで命名された種や，標準和名として名づけられた種を「日本産昆虫総目録」（九州大学農学部昆虫学研究室・日本野生生物研究センター共同編集, 1989年）の「23. コウチュウ目」より抜粋した．和名編では五十音順に，学名編ではアルファベット順に掲載した．

なお，「ヤマト」・「yamato」などは日本を指す場合があるので，明らかに奈良県大和地方を指す場合のみを，判明した範囲で出来る限り掲載した．「日本産昆虫総目録」以降に記載された種については，可能な限り掲載するようにしたが，読者諸賢には遺漏があればご指摘いただければ幸いである．

（澤田義弘　記）

和名編

1. アカシ（兵庫県明石市）
アカシシモフリコメツキ

2. アサゴ（兵庫県朝来町）
アサゴメクラチビゴミムシ

3. アザミ（奈良県東吉野村薊岳）
アザミメクラチビゴミムシ

4. アシウ（京都府芦生）
アシウアカコメツキ

5. アジャリ（兵庫県一宮町阿舎利）
アジャリメクラチビゴミムシ

6. アナノオ（滋賀県米原町穴の尾の穴）
アナノオメクラチビゴミムシ

7. アマダニ（兵庫県但東町天谷峠）
アマダニメクラチビゴミムシ

8. アワジ（淡路島）
アワジオオコバネナガハネカクシ
アワジハネナシナガキマワリ
アワジヒメオサムシ
オノコロメクラチビゴミムシ

9. イクノ（兵庫県生野町）
イクノメクラチビゴミムシ

10. イコマ（生駒山）
イコマケシツチゾウムシ
イコマメクラチビゴミムシ

11. イズミ（和泉）
イズミメクラチビゴミムシ

12. イズリハ（京都市西京区出灰）
イズリハメクラチビゴミムシ

13. イチジマ（兵庫県市島町）
イチジマメクラチビゴミムシ

14. イトイ（兵庫県和田山町糸井渓谷）
イトイメクラチビゴミムシ

15. イブキ（滋賀県伊吹山）
イブキメクラチビゴミムシ

16. イワワキ（岩湧山）
イワワキオサムシ
イワワキオチバゾウムシ
イワワキコバネメダカハネカクシ
イワワキセダカコブヤハズカミキリ

イワワキナガゴミムシ
イワワキビロウドコガネ

17. オウトウ，オオトウ（和歌山県大塔山）
オウトウヒメコバネナガハネカクシ
オウトウメクラチビゴミムシ
オオトウカギバラヒゲナガゾウムシ
オオトウザイノキクイムシ

18. オオエヤマ（京都府大江山）
オオエヤマヌレチゴミムシ

19. オオサカ（大阪）
オオサカアオゴミムシ
オオサカオチバメダカハネカクシ
オオサカスジコガネ
オオサカヒメテントウ
オオサカヒメナガゴミムシ
オオサカヒラタシデムシ
オオサカマキムシモドキ

20. オオダイ（大台ケ原）
オオダイオオコバネナガハネカクシ
オオダイオオナガゴミムシ
オオダイクロコメツキ
オオダイコケホソハネカクシ
オオダイセマダラコガネ
オオダイナガゴミムシ
オオダイヌレチゴミムシ
オオダイヒメメダカハネカクシ
オオダイヒラタシデムシ
オオダイヒラタコケムシ
オオダイマグソコガネダマシ
オオダイミヤマヒサゴコメツキ
オオダイムネスジミギワハネカクシ
オオダイヨコミゾコブゴミムシダマシ
オオダイルリヒラタコメツキ

21. オオミネ（大峰山）
オオミネクロナガオサムシ
オオミネヒメハナカミキリ
オオミネマヤサンコブヤハズカミキリ

22. オオヤ（兵庫県大屋町明延）
オオヤメクラチビゴミムシ

23. オバコ（伯母子岳）
オバコカバイロコメツキ
オバココバネナガハネカクシ
オバコメクラチビゴミムシ

24. オバミネ（伯母峰峠）
オバミネメクラチビゴミムシ

25. オゴソコ（京都府京北町中地オゴソコ）
オゴソコメクラチビゴミムシ

26. オグラ（巨椋池）
オグラヒラタゴミムシ

27. カダ（和歌山市加太）
カダメクラチビゴミムシ

28. カスガ（春日山）
カスガキモンカミキリ
カスガエゾトラカミキリ
カスガコケムシ
カスガヒメミズギワヨツメハネカクシ
カスガミヤマヒサゴコメツキ

29. カワチ（河内）
カワチゴミムシ
カワチヒメハネカクシ
カワチマルクビゴミムシ
ヒメカワチゴミムシ

30. カワベ（和歌山県川辺町）
カワベメクラチビゴミムシ

31. カンザキ（兵庫県神崎町）
カンザキメクラチビゴミムシ

32. カンナベ（兵庫県日高町神鍋）
カンナベメクラチビゴミムシ

33. カンムリ（京都府冠島）
カンムリセスジゲンゴロウ
カンムリメクラチビゴミムシ

34. キイ（紀伊）
キイアカコメツキ
キイアバタコバネハネカクシ
キイイヨヒメハナカミキリ
キイオオコバネナガハネカクシ
キイオオナガゴミムシ
キイオサムシ
キイオチバメダカハネカクシ
キイオナガミズスマシ
キイカクズクビナガムシ
キイキノカワゴミムシ
キイクイボソジョウカイ
キイコバネメダカハネカクシ
キイサビイロモンキハネカクシ
キイチビヒョウタンゾウムシ
キイチビマメコメツキ
キイツツナガハネカクシ
キイツヤヒラタゴミムシ
キイヒサゴアリヅカムシ
キイヒメアカコメツキ
キイヒメコバネナガハネカクシ
キイフトヒラタコメツキ
キイホソヒラタコメツキ
キイホソヒラタゴミムシ
キイマエアカクロベニボタル
キイリュウジンメクラチビゴミムシ

35. キノサキ（兵庫県城崎町）
キノサキメクラチビゴミムシ

36. キノクニ（紀の国）
キノクニヒメコバネナガハネカクシ

37. キブネ（京都府貴船）
キブネアカコメツキ

38. キョウト（京都）
キョウトアオハナムグリ
キョウトオオナガゴミムシ
キョウトカマヒゲアリヅカムシ
キョウトケシデオキノコムシ
キョウトコキクイムシ
キョウトコチビシデムシ
キョウトチビマメコメツキ
キョウトツツキノコムシ
キョウトハヤシメダカハネカクシ
キョウトヒメジョウカイモドキ
キョウトマメゾウムシ
キョウトメクラチビゴミムシ
キョウトナガゴミムシ

39. キンショウ (兵庫県関宮町中瀬キンショウ坑)
キンショウメクラチビゴミムシ

40. キンキ（近畿）
キンキオチバメダカハネカクシ
キンキコルリクワガタ
キンキスジグロボタル
キンキハバビロハネカクシ

41. クマノ（和歌山県熊野川町）
クマノメクラチビゴミムシ

42. コウヅキ（兵庫県上月町）
コウヅキメクラチビゴミムシ

43. コウヤ（高野山）
コウヤオチバメダカハネカクシ
コウヤコバネナガハネカクシ

コウヤヒメコバネナガハネカクシ
コウヤホソハナカミキリ

44. コウベ（神戸）
コウベゴミハネカクシ
コウベツブゲンゴロウ
コウベツマキジョウカイ
コウベナガメダカハネカクシ
コウベヒメハネカクシ
コウベホソコガシラハネカクシ

45. コカシ（和歌山県すさみ町コカシ峠）
コカシメクラチビゴミムシ

46. コホク（琵琶湖西岸湖北地方）
コホクメクラチビゴミムシ

47. ゴマダン（護摩壇山，護摩ノ段山）
ゴマダンコバネナガハネカクシ
ゴマダンコブヒゲナガゾウムシ
ゴマダンヒゲボソゾウムシ
ゴマダンメクラチビゴミムシ
ゴマノダンケムネチビゴミムシ

48. コンゴウ（金剛山）
コンゴウコバネナガハネカクシ
コンゴウナガゴミムシ
コンゴウミヤマヒサゴコメツキ
コンゴウメクラチビゴミムシ

49. サカイ（大阪府堺市）
サカイヒメカミキリ（＝テツイロヒメカミキリ）

50. サクライ（大阪府島本町桜井）
サクライメクラチビゴミムシ

51. サメ（滋賀県多賀町佐目風穴）
サメメクラチビゴミムシ

52. サントウ（兵庫県山東町遠阪峠）
サントウメクラチビゴミムシ

53. シガ（滋賀）
シガニセクビボソムシ（属名）
シガキノコシバンムシ
ヨツモンシガニセクビボソムシ

54. シガラキ（信楽）
シガラキオサムシ

55. シマ（京都府美山町長谷島坑）
シマメクラチビゴミムシ

56. シラクチ（和歌山県白口峰）
シラクチメクラチビゴミムシ

57. シラハマ（和歌山県白浜）
シラハマナガゴミムシ

58. スサミ（和歌山県すさみ町）
スサミコバネナガハネカクシ

59. スズカ（滋賀県鈴鹿山系）
スズカメクラチビゴミムシ

60. セッツ（摂津）
セッツシリホソハネカクシ
セッツヒメハネカクシ
セッツキノコツヤハネカクシ

61. ダイゴ（京都府醍醐）
ダイゴオチバメダカハネカクシ
ダイゴメクラチビゴミムシ

62. ダイヒザン（大悲山）
ダイヒザンナガゴミムシ

63. タカモリ（和歌山市加太高森山）
タカモリメクラチビゴミムシ

64. タキモト（和歌山県熊野川町滝本）
タキモトクビボソジョウカイ

65. タケノ（兵庫県竹野町）
タケノメクラチビゴミムシ

66. タタラギ（兵庫県朝来町多々良木ダム）
タタラギメクラチビゴミムシ

67. タンゴ（丹後）
タンゴヒラタゴミムシ
タンゴメクラチビゴミムシ

68. タンバ（丹波）
タンバコバネナガハネカクシ

69. チャウス（和歌山県北山町茶臼山）
チャウスメクラチビゴミムシ

70. テンガン (兵庫県西紀町上筱見テンガン坑)
テンガンメクラチビゴミムシ

71. テンニン（奈良県川上村天人窟）
テンニンメクラチビゴミムシ

72. トノミネ（兵庫県砥峰高原）
トノミネメクラチビゴミムシ

73. ドロガワ（奈良県天川村洞川）
ドロガワメクラチビゴミムシ

74. ナチ（那智）
ナチセスジゲンゴロウ
ナチタチゲメダカハネカクシ

75. ナラ（奈良）
ナラオニヒメハネカクシ
ナラハヤシメダカハネカクシ

76. ナンキ（南紀）
ナンキオチバメダカハネカクシ
ナンキコブヤハズカミキリ
ナンキナガゴミムシ
ナンキヒメコバネナガハネカクシ

77. ニュウガワ（和歌山県橋本市丹生川）
ニュウガワメクラチビゴミムシ

78. ハテナシ（紀伊半島果無山脈）
ハテナシメクラチビゴミムシ

79. ハリマ（播磨）
ハリマトガリオオズハネカクシ

80. ヒヤミズ（奈良県冷水山）
ヒヤミズメクラチビゴミムシ

81. ヒョウゴ（兵庫）
ヒョウゴナガゴミムシ
ヒョウゴマルガタゴミムシ
ヒョウゴミズギワゴミムシ

82. ビワコ（琵琶湖）
ビワコカワベナガエハネカクシ

83. ヒラ（比良山）
ヒラサンヒメハナノミ

84. ブシ（奈良県天川村武士ヶ峯）
ブシメクラチビゴミムシ

85. フドウ（奈良県川上村不動窟）
フドウノメクラチビゴミムシ

86. ポンポン（京都市ポンポン山）
ポンポンメクラチビゴミムシ

87. マイヅル（京都府舞鶴市）
マイヅルヒメテントウ

88. マチオク（兵庫県養父町建屋マチオク坑）
マチオクメクラチビゴミムシ

89. マヤサン（摩耶山）
マヤサンオサムシ
マヤサンコバネナガハネカクシ
マヤサンコブヤハズカミキリ
マヤサンヒメクビボソハネカクシ

90. ミイデラ（三井寺）
ミイデラゴミムシ

91. ミカゲ（兵庫県御影）
ミカゲゴモクムシ
ミカゲツツキノコムシ

92. ミサト（和歌山県美里町）
ミサトザイノキクイムシ
ミサトメクラチビゴミムシ

93. ミセン（奈良県天川村弥山）
ミセンメクラチビゴミムシ

94. ミノオ（大阪府箕面市）
ミノオメクラチビゴミムシ

95. ミョウケン（兵庫県村岡町妙見山）
ミョウケンメクラチビゴミムシ

96. ムコガワ（兵庫県武庫川）
ムコガワメクラチビゴミムシ

97. ムラオカ（兵庫県村岡町）
ムラオカメクラチビゴミムシ

98. ヤクノ（京都府夜久野町）
ヤクノメクラチビゴミムシ

99. ヤマサキ（兵庫県山崎町）
ヤマサキメクラチビゴミムシ

100. ヤマト（奈良県大和地方）
ヤマトアバタコバネハネカクシ
ヤマトオオメツヤムネハネカクシ
ヤマトオサムシ
ヤマトサビイロモンキハネカクシ
ヤマトカクムネヨツメハネカクシ
ヤマトクロコメツキ
ヤマトコケハネカクシ
ヤマトツツナガハネカクシ
ヤマトツヤヒラタゴミムシ
ヤマトヒメテントウ
ヤマトヒメナガゴミムシ
ヤマトヒメハナカミキリ
ヤマトモリヒラタゴミムシ
ヤマトツヤゴモクムシ

101. ユゲ（京都府京北町弓削）
ユゲメクラチビゴミムシ

102. ヨウロウ（京都府舞鶴市養老山）
ヨウロウメクラチビゴミムシ

103. ヨシノ（奈良県吉野郡）
オクヨシノメクラチビゴミムシ
ヨシノムネボソヨツメハネカクシ
ヨシノツツナガハネカクシ

104. ヨド（淀川）
ヨドシロヘリハンミョウ

105. リュウジン（和歌山県龍神村）
リュウジンナガゴミムシ

106. ルリケイ（京都府園部町るり渓）
ルリケイメクラチビゴミムシ

107. ロッカン（和歌山県熊野川町六貫谷鉱山）
ロッカンメクラチビゴミムシ

108. ワカヤマ（和歌山）
ワカヤマオチバメダカハネカクシ
ワカヤマコバネメダカハネカクシ
ワカヤマザイノキクイムシ

109. ワサマタ（奈良県和佐又山）
ワサマタヒメメダカハネカクシ
ワサマタヒメコバネナガハネカクシ

110. ワタムキ（滋賀県綿向山）
ワタムキナガツヤゴモクムシ

学名編

1. Ashiu（芦生）
Ampedius ashiunis Kishii, 1976
Nipponocis ashuensis Nobuchi, 1959
Trypodendron ashuense (Murayama, 1950)
Xylebors ashuensis Murayama, 1954

2. Awaji（淡路島）
Stenus nakanei awajinis Naomi, 1997
Lathrobium awajishimanum Watanabe, 2001

3. Biwako（琵琶湖）
Octephilum biwakense T. Ito, 2008

4. Daihizan（大悲山）
Pterostichus daihizanus Ishida, 1968

5. Daigo (醍醐)
Stenus daigonis Naomi & Puthz, 1993

6. Gomadan（護摩壇山）
Nipponoserica gomadana Nomura, 1976
Plateros gomadanus Nakane, 1969
Lathrobium gomadanzenum Watanabe, 2005

7. Harima（播磨）
Latrobium harimanum Watanabe, 1986
Nazeris wollastoni harimanus T. Ito, 1991

8. Hira（比良）
Hira humerosignata (Hayashi, 1960)
Falsomordellistena hirasana Shiyake, 1996

9. Hyogo (兵庫)
Amara hiogoensis (Bates, 1873)
Bembidion hiogoense (Bates, 1873)

10. Ibuki（伊吹山）
Ceutorhynchus ibukianus Hustache, 1916

11. Iwawakisan（岩湧山）
Carabus iwawakianus iwawakianus (Nakane, 1953)
Pterostichus bisetosus iwawakianus Ishida, 1958

12. Kasuga（春日山）
Ampedius kasugensis kasugensis Kishii, 1966
Arthromacra kasuga Ando, 2010
Biphyllus kasuganus Nakane, 1988
Paramenesia kasugensis (Seki et Kobayashi, 1935)
Schenkilingia kasuga Nakane, 1963
Scydmaenus kasugensis Frantz, 1976

13. Kammuri（冠島）
Copelatus kammuriensis Tamu et Tsukamoto, 1955

14. Kansai（関西）
Apotomopterus porrecticollos kansaiensis (Nakane, 1960)

15. Kawachi（河内）
Atheta kawachiensis Sawada, 1974

16. Kibune（貴船）
Ampedius kibuneana Kishii, 1966

17. Kii, Kishu（紀伊・紀州）
Ampedius soboensis kiianus Kishii, 1986
Arthromelodes kiiensis Nomura, 1991

Carabus iwawakianus kiiensis (Nakane, 1953)
Lypesthes kiiensis Ohno, 1958
Pterostichus kiiensis Morita et Ohkura, 1988
Quasimus kiiensis Kishii, 1976
Protocypus kiimontanus Naomi, 1992
Lathrobium kishuense Watanabe, 2001

18. **Kinokuni**（紀の国）
Lathrobium kinokuniense Watanabe, 2006

19. **Kioto**, **Kyoto**（京都）
Acicnemis kiotoensis Nakane, 1963
Bruchidius kiotoensis (Pic, 1913)
Holotrichia kiotoensis Brenske, 1894
Micraspis kiotoensis (Nakane et M. Araki, 1960)
Cryphalus kyotoensis Nobuchi, 1966
Hypebaeus kyotoensis Pic, 1954
Quasimus kyotoensis Kishii, 1966
Nazeris wollastoni kyotensis T. Ito, 1991

20. **Kobe**（神戸）
Anisosticta kobensis Lewis, 1896
Atheta kobensis Cameron, 1933
Erichsonius kobensis Cameron, 1933
Heterostilbus kobensis Champion, 1925
Laccophilus kobensis Sharp, 1873
Lathrobium kobense Sharp, 1874
Malthinus kobensis (Lewis, 1895)
Nipponomarolia kobensis Miyatake, 1982
Ocypus kobensis Cameron, 1930
Oxypoda kobensis Cameron, 1933
Philonthus kobensis Sharp, 1874
Sepedophilus kobensis (Cameron, 1933)
Stenus kobensis (Cameron, 1930)
Tachinus kobensis Cameron, 1933

21. **Kongosan**（金剛山）
Hypolithus motschulskyi kongoensis Kishii, 1969
Pterostichus kongosanus Nakane, 1963

22. **Koya**（高野山）
Strangalia koyaensis Matsushita, 1933
Lathrobium koyasanum Watanabe, 2006

23. **Kumano**（熊野）
Xyleborus kumanoensis Nobuchi, 1981

24. **Kurama**（鞍馬）
Holobus kurama (Nakane, 1963)
Platydema kurama Nakane, 1963

25. **Maiyasan**（摩耶山）
Carabus maiyasanus maiyasanus Bates, 1873
Lathrobium mayasanense Watanabe, 1992

26. **Mikage**（御影）
Cis mikagensis Nobuchi et Wada, 1955

27. **Misato**（美里）
Xyleborus misatoensis Nobuchi, 1981

28. **Mizorogaike**（深泥ケ池）
Cyphon mizoro Nakane, 1963

29. **Nachi**（那智）
Stenus nachiensis Puthz, 2001

30. **Nanki**（南紀）
Lathrobium nankiense Watanabe, 2006
Parechthistatus gibber nankiensis Yokoyama, 1980

31. **Nara**（奈良）
Aphodius naraensis Nakane, 1956
Clamoris naranus (Nakane, 1988)
Languriomorpha nara (Lewis, 1883)
Perileptus naraensis S. Uéno, 1955
Polyderis naraensis (S. Uéno 1953)
Strongylium japanum naraense Nakane, 1968

32. **Obako**（伯母子岳）

Athousius obakoensis Kishii, 1976

Ectinus obakoae Kishii, 1979

33. **Ogura**（巨椋池）

Agonum ogurae (Bates, 1883)

34. **Odaigahara**（大台ヶ原）

Actenicerus odaisanus (Miwa, 1928)

Ampedius yaku ohdai Kishii, 1983

Apatrobus ohdaisanus (Nakane, 1963)

Blitopertha ohdaiensis (Sawada, 1941)

Bolitotrogus ohdaiensis Miyatake, 1964

Cautires zahradniki ohdaisanus Nakane, 1969

Deporaus ohdaisanus Nakane, 1963

Orectochilus regimbarti odaiensis Kamiya, 1933

Pterostichus ohdaisanus Nakane, 1963

Usechus ohdaiensis Sasaji, 1987

Lathrobium ohdaiense Watanabe, 1998

Veraphis oodaigaharaensis Jaloszynski & Hoshina, 2005

35. **Ohmi**（近江）

Migiwa ohmi Kishii, 1976

36. **Ohtoh**（大塔村）

Stenus ohtoensis Naomi, 2006

Lathrobium ohtohense Watanabe, 2006

37. **Omine**（大峰山系）

Leptoocarabus arboreus ohminensis (Harusawa, 1978)

The genus *Omineus* Lewis, 1895

Omineus humeralis Lewis, 1895

Paromalus omineus Lewis, 1892

38. **Osaka**（大阪）

Anomala osakana Sawada, 1942

Coptodera osakana (Nakane, Ohkura et S. Uéno, 1955)

Laricobius osakensis Montgomery et Shiyake, 2011

Osakatheta yasukoae Maruyama, Klimaszewski et Gusarov, 2008

Scymnus osakaensis (M. Araki, 1963)

39. **Settsu**（摂津）

Gyrophaena settsuensis Cameron, 1933

Atheta settsuensis Cameron, 1933

40. **Shiga**（滋賀）

The genus *Shigaderus* M. Saito et Young, 2015

Dorcatoma shigaensis N. Hayashi, 1951

Shigaderus nakagawayui M. Saito et Young, 2015

41. **Shigaraki**（信楽）

Carabus maiyasanus shigaraki (Hiura et Katsura, 1971)

42. **Susami**（すさみ）

Lathrobium susamiense Watanabe, 2005

43. **Suzuka**（鈴鹿山地）

Trechiama suzukaensis S. Uéno, 1980

44. **Tanba**（丹波）

Catopus tanbaensis Y. Hayashi, 1987

45. **Tango**（丹後）

Trechiama tangonis S. Uéno, 1985

46. **Wakayama**（和歌山）

Stenus wakayamanus Puthz, 2001

47. **Wasamata**（和佐又山）

Stenus wasamatanus Puthz, 2001

Lathrobium wasamatanum Watanabe, 2006

48. **Watamuki**（綿向）

Trichotichinus watamukiensis N. Ito, 1996

49. **Yamato**（大和）

Ampedus yamato Kishii, 1988

Anthaxia reticulate yamato Y. Kurosawa, 1963

Aphodius yamato Nakane, 1960

Carabus yamato (Nakane, 1953)

Colpodes yamatonis (Habu, 1975)

Nematoplus yamato Nakane, 1987

Paracalais yamato (Nakane, 1957)

Pidonia yamato yamato Hayashi et Mizuno, 1953

Tachinus yamato Hayashi, 2003

Scymnus yamato H. Kamiya, 1961

Protocypus yamato Naomi, 1992

関西甲虫研究史

執 筆 者

安藤清志，林 靖彦，伊藤 昇，伊藤建夫，神吉正雄，的場 績，宮武頼夫，奥田好秀，澤田義弘，初宿成彦，谷 壽一，谷角素彦，安井通宏（abc 順）

協 力 者

有本久之，春沢圭太郎，日比伸子，伊賀千洋，伊賀仁美，伊賀己記，伊賀保子，池浦星美，稲美町役場，稲本和子，石井正雄，木村史明，木下智樹，近藤伸一，河野久留美，古谷 泉，古谷昌昭，京都市青少年科学センター，松本 武，水野弘造，森 正人，中根雅子，中田 進，生川展行，大原昌宏，大林延夫，沢田佳久，関 純三，高橋 敞，田中 勇，八木 剛，八幡市役所，吉田正隆，吉富博之（敬称略，abc 順）

****
編集　日本甲虫学会第 7 回大阪大会事務局
　　大阪市東住吉区長居公園 1−23
　　大阪市立自然史博物館内
発行　日本甲虫学会
発行日　2016 年 11 月 26 日
印刷　株式会社 NPC コーポレーション
　　大阪府大阪市北区天満 1 丁目 9–19
****

近畿地方関連地名

冠島
竹野
城崎
丹後
湖北
神鍋
但東
大江山
舞鶴
養老山
伊吹山
村岡
夜久野
芦生
比良
琵琶湖
米原
関宮
和田山
大屋
朝来
京都府
KYOTO
美山
醒ヶ井
多賀
市島
砥峰
大悲山
滋賀県
SHIGA
近江
一宮
西紀
丹波
京北
るり渓
貴船
鞍馬
佐用
山崎
神崎
上月
能勢
深泥ケ池
三井寺
大津
綿向山
鈴鹿山系
兵庫県
HYOGO
ポンポン山
花園
京都
醍醐
摂津
出灰
信楽
有馬
宝塚
箕面
島本
巨椋池
六甲山
御影
播磨
摩耶山
神戸
淀川
城北
兵庫
梅田
明石
船場
靭
春日山
生駒山
奈良公園
天王寺
長居
OSAKA
大阪府
住吉
堺
河内
奈良県
大和
NARA
八木
貝塚
金剛山
土佐
岩湧山
上市
蔚岳
和泉
川上
吉野
友ケ島
橋本
菜摘
淡路島
和泉山脈
加太
和歌山
高野山
洞川
稲村ケ岳
荒神岳
伯母峰
美里
和佐又山
白口峰
伯母子岳
大峰山
大台ヶ原
有田
護摩壇山
弥山
川辺
龍神
茶臼山
紀伊
冷水山
北山峡
WAKAYAMA
果無山脈
和歌山県
熊野川
白浜
大塔山
新宮
那智
すさみ
南紀